

科目名 Subject	マナー&ホスピタリティ Manner & Hospitality		教員名	河崎 峰子	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	◎	○	◎	◎
科目の概要	マナー・ホスピタリティの基礎を学び、グローバル社会を見据え、日本人・外国人共に対応できる人材になるため、知識だけではなく、学んだことを行動に移せる実践力を培っていきます。日常生活の中からホスピタリティ溢れる事例を探し、気づきができるように習慣づけ、またマナーを通したコミュニケーション力の大切さを認識します。そして美歳学において、マナーとホスピタリティを通して美しく歳を重ねることも意識します。				
授業の目標	授業を通して、己を知り、他者を理解することで、真のマナーとホスピタリティを追求し、大人になる礎を習得します。その為に、ビジネスマナーの基礎を学び、コミュニケーション力向上のため、信頼関係構築の5つのポイント（挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣い・態度）を掘り下げ理解し、社会人基礎力向上を目標とします。				
時間外学習 (予習・復習)	知識を習得しているかの確認の為に小テストを数回授業内で実施しますので、各授業のポイントを毎回自宅で復習して下さい。予習は次回使用予定のプリントを配布しますので、事前にプリントを読み込んでください。また課題レポート提出を求める際は、自宅にて作成し、メール等で送付してもらいます。その際メールの送付の仕方を復習し、実践してもらいます。各回の予習復習は概ね60分～90分を見込みますが、時間に捉われ過ぎず、理解を深めることを重視して下さい。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	プリントを適宜配布。			
	使用設備・備品	CD, DVD、ビデオ再生機			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	授業参加意欲 20%、レポート 15%、筆記試験 65%の比率で評価します。 授業内容の性質上、特に授業態度は重視します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション マナーとホスピタリティとは何かを学ぶ。	15回で何を学んでいくかを理解する。	次回の授業で使用するプリント（挨拶と表情）を事前に読み、大まかな流れを掴む。（60分）
第2回	信頼関係の基本5原則（挨拶と表情を学ぶ）	第一印象の大切さを理解し、良い挨拶を理解する。	「身だしなみ・言葉遣い」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第3回	信頼関係の基本5原則（身だしなみ・言葉遣いを学ぶ）	身だしなみとおしゃれの違いがわかる。言葉の大切さを理解できる。	「言葉遣い」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第4回	信頼関係の基本5原則（言葉遣いを学ぶ）	敬語を理解する。	「クッション言葉」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第5回	信頼関係の基本5原則（クッション言葉を学ぶ）	クッション言葉を学び、コミュニケーション力を向上する。	「態度や立ち居振る舞い」のプリントを事前に読み、授業のポイントを復習する。
第6回	信頼関係の基本5原則（態度や立ち居振る舞いを学ぶ）	立ち姿、座り方、物の授受、指し示し、案内ができるようになる。	再度「立ち居振る舞い」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第7回	信頼関係の基本5原則（立ち居振る舞いを深く学ぶ）	よりスムーズに立ち姿、座り方、物の授受、指し示し、案内ができるようにする。	「名刺の扱い方・紹介のマナー」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第8回	信頼感の伝わるビジネス動作でコミュニケーション力を培う。	名刺の扱い方、紹介のマナーを理解し、実践してみる。	「訪問来客の対応」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第9回	信頼感の伝わるビジネス動作で会社内での対応を学ぶ。	お茶の出し方、訪問来客の対応のマナーを理解し、実践する。	「席次・国旗」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第10回	信頼感の伝わるビジネス動作としてグローバルな知識を得、ビジネスの常識に触れる。	席次、国旗等について理解する。	「社内文書・社外文書・メール」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。
第11回	文書について学ぶ	社内文書・社外文書・メールについて理解する。	文書を作成し、添付してメールする。（60分以上）
第12回	基本的マナーとして食事の仕方を学ぶ	洋食・和食のいただき方を知る。	文書の復習を再度行い、実践できるようにする。はし遣いを実際の食事の際に確認する。
第13回	基本的マナーとして日本文化を学ぶ	通過儀礼と日本のしきたりについて理解する。	日本のしきたりを自分でも調べ、授業の内容をより深く理解する。（60分以上）
第14回	基本的マナーとして冠婚葬祭の知識を得る	結婚・葬儀・贈答等について理解する。	冠婚葬祭の経験を自分なりに纏めてみる。祝儀袋・不祝儀袋を実際自宅でも包んでみる。（60分以上）
第15回	まとめ	15回の振り返り。大人としてマナーを習得する必要性を理解する。	15回の授業の復習を行う。（60分以上）

科目名 Subject	接客・接遇法 Service and Reception		教員名	遠藤 麻美子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	◎	○	◎	◎
科目の概要	美容を通して人と関わる仕事をしていく上で大切な接客・接遇法について学んでいきます。お客様の立場にたって考え、お客様のニーズに応えること、その思いを表現する方法・伝え方を考えていきます。プロとして仕事をしていくために必要であり、年齢や性別の違うお客様・職場の先輩・同僚と接する際に必要不可欠なコミュニケーション力を、演習を通して身につけていきます。そして、いくつになっても美しくありたいという全ての人の思いに寄り添い、どう接していったらよいかを考えていきます。また異文化圏の方々にも対応できる実践力を身につけます。				
授業の目標	日々の生活の中で、学習した内容を実行できるよう身近な事例を多く取り上げることで意識が高まり、コミュニケーション力を高めることができるようになります。グローバル社会の一員として、またサービス業を担う一人として、誰とでも良好なコミュニケーションをとることができ、ニーズに合った接客・接遇を実践するための知識・技術を習得できます。				
時間外学習 (予習・復習)	毎授業テーマがあり、次回の授業内容のプリントを予習のために配布します。プリントの内容をよく読み、わからない語句などは調べておき、授業で質問できるよう自学習しておいて下さい。復習に関しては、授業で学習した重要なところをノートにまとめ、理解を深めて下さい。日常の中で感じたコミュニケーション力が活かされた事例、うまく発揮できなかった事例をメモしておくようにして下さい。各回の予習復習時間の目安としては60～90分です。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	なし			
	使用設備・備品	DVD再生等AV機器			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	授業参加意欲20%、レポート15%、筆記試験65%の比率で評価します。授業内容の性質上、特に授業態度は重視します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 接客・接遇とは何かを学ぶ。	授業の進め方を理解し、この授業の全体像を把握する。	次回の「人間の欲求」のプリントを読み、わからないことは事前に調べておく。(60分以上)
第2回	人間の欲求について学ぶ。	人間の欲求にはどんなものがあるか、サロンに来るお客様は何を求めているかを理解する。	授業で習ったポイントを復習し、自分に照らし合わせて考える。次回の「顧客満足」のプリントを読んで予習しておく。
第3回	顧客満足について学ぶ。	CS、ES、CDを理解し、お客様が何に満足されるかを確認する。	授業で習ったポイントを復習し、それぞれについて理解する。次回の「接客言葉遣い」のプリントを読んで予習しておく。
第4回	サロンでの接客言葉遣いを学ぶ。	サロンでの接客に相応しい言葉遣いを理解し、使えるようにする。	授業で習った言葉遣いを繰り返し声に出して習得する。次回の「接客敬語」のプリントを読んで予習しておく。
第5回	サロンでの接客敬語を学ぶ。	サロンでお客様に対し適切な敬語を使えるかどうか、ロールプレイで確認する。	授業で習った敬語を繰り返し声に出して習得する。次回の「接客対応」のプリントを読んで予習しておく。
第6回	サロンでの接客対応を学ぶ。	サロンでの接客対応に必須の礼、挨拶、姿勢を確認する。	授業で習ったポイントを復習し、鏡の前で確認する。次回の「電話対応」のプリントを読んで予習しておく。
第7回	サロンでの電話対応を学ぶ。	電話対応を事例で学び、正しい言葉遣いでやりとりできるかロールプレイで確認する。	授業で習ったポイントを復習し、声に出して確認しておく。次回の「お客様の心理」のプリントを読んで予習しておく。
第8回	お客様の心理を考える。	お客様がCDを感じる時、クレームにつながる場合の心理をグループで考え、理解する。	グループワークで話し合った内容をまとめる。次回の「6つのお客様心理」のプリントを読んでおく。
第9回	6つのお客様心理について学ぶ。	お客様の心理を知ること、自分が何をすべきか判断できるようになる。	授業で習ったポイントを復習し、次回の「クレーム対応」のプリントを読んで予習しておく。
第10回	クレーム対応を学ぶ。	クレームの原因を事例で学び、どう対応するかをグループで確認する。	グループワークで話し合った内容をまとめる。次回の「プロの5意識」のプリントを読んでおく。
第11回	プロの5意識を学ぶ。	美容のプロとして仕事をしていくために、プロの5意識を理解する。	授業で習ったポイントを復習し、プロとはどのような人が考えておく。
第12回	プロとはどのような人かを考える。	プロとはどのような人か、自分はどうなりたいかを確認する。	自分になりたいと思うプロとはどのような人かまとめてみる。次回のプリントを読んでおく。
第13回	異文化圏の方に対する接客を学ぶ。	異文化圏の方への接客を演習し確認する。	授業で習ったポイントを復習し、次回の「異文化圏の方に対する接客」のプリントを読んで予習しておく。
第14回	異文化圏の方への接客の際の注意点	どんなことに注意すべきかをグループで話し合い、確認する。	グループワークで話し合った内容をまとめる。これまでに配布されたプリント・ノートを復習しておく。
第15回	まとめ	14回の授業を振り返り、理解度を確かめる。	これまでに配布されたプリント・ノートを復習し、各自ノートにまとめる。

科目名 Subject	色彩と造形 Color and Formative Art		教員名	栗本 佳典	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	◎	△	△
科目の概要	<p>美容をはじめデザインの現場から普段の生活の場まで、様々な状況で必要とされる色彩や造形の役割や表現方法について学びます。</p> <p>色彩では、色の分類から配色、カラーイメージなどについて学習内容の解説を行った後、実際にカラーチップやポスターカラーを使って演習を行い課題を提出します。</p> <p>造形では、さまざまなモチーフのデッサンや立体物の課題を作成し提出します。</p>				
授業の目標	<p>演習などを通して色彩や造形の基礎をしっかりと身につけるとともに、色や形に対する認識力や発想力、イメージ力を養う。さらに、幅広い色彩感覚・造形感覚を身につけ、美容をはじめ、さまざまな場面で必要となる色や形に対する判断力や表現力を高める。</p> <p>また、課題提出時に学生と教員で相互評価を行うことにより、自己を振り返る機会を得る。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>月に一回程度、展覧会などを見に行き、作品における色彩や構造、画面構成を探ってください。また、ファッション雑誌や身の回りのデザインされたものを観察して、常に色や形を意識して感覚を磨いてください。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	なし			
	使用設備・備品	11回のみデッサン室使用			
	参考文献	なし			
評価方法	提出課題の理解度および完成度80%、授業態度20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	色彩検定 (A. F. T)			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	美容をはじめ、デザインなどにおいて必要となる色彩や造形の意義を知る。	
第2回	色彩の基礎用語とカラーシステム	三属性や補色、カラーシステムなど、色彩の基礎用語について理解を深める。	
第3回	色名	色名の成立について理解を深めるとともに、オリジナルの色名を考え発想力を高める。	ポスターカラー使用
第4回	色彩のトーン	明度、彩度から生まれるトーン分類の表示方法を理解する。	TONE チャート使用
第5回	配色技法	配色の効果や調和を利用できる力を身につける。	カラーカード使用
第6回	カラーウォッチングおよび色彩再現	様々な物の色を観察し作ること、色作成の力を高める。	ポスターカラー使用
第7回	色彩とイメージワード	イメージ作りに必要となる、色の表現力を身につける。	色鉛筆使用
第8回	年齢による色認識と日本の色彩文化	年齢と色認識との関係、および日本文化における色の特徴を知る。	カラーカード使用
第9回	手のクロッキー	形の中にある構造を捉え描写する力を身につける。	
第10回	マンガのヘアスタイル模写	さまざまなヘアスタイルをサンプルに表現する力を身につける。	
第11回	石膏像クロッキー	人物の形やバランスを短時間で捉える力を養う。	デッサン室使用
第12回	三面図と想定デッサン	異なる方向から客観的に立体物を捉え描写する力を養う。	
第13回	立体と回転図形	立体物を表現する力を養うとともに、立体に対する想像力を高める。	
第14回	紙の立体作成および立体描写	シンプルなものからさまざまな形を生み出す力を身につける。	
第15回	まとめ	色彩構成を作成して総合的な表現力を高めるとともに自己の作品を解説する力を養う。	色鉛筆使用

科目名 Subject	日本文化（茶道） Traditional Art (Tea Ceremony)		教員名	河原 宗孝	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	◎
科目の概要	<p>社会で活躍するためには、専門的な知識や技術の習得のみならず、洗練された接客マナーが求められます。各回とも講義と実技（点前の稽古）呈茶を組み入れ、裏千家茶道の盆略点前を学習し、最後には自分で点てられるようにします。尚、呈茶には、毎回季節を感じるお菓子とお茶を頂きます。</p>				
授業の目標	<p>「道・学・実」を三位一体で学ぶことを通し、美の裏方としての人間形成が図れる。中でも「和敬静寂」を学ぶことを通して、精神面の成長が図れる。 東京オリンピック開催を控え、おもてなしの心を学ぶとともに、お茶の正しい点て方と頂き方を習得できる。</p>				
時間外学習 （予習・復習）	<p>裏千家の盆略点前を学習するうえで、各回の復習は非常に重要なものとなります。お茶の正しい頂き方、帛紗捌きの予習復習等、毎回1時間程度の学習が必要です。授業以上を望んでいる学生には部活動として無料で本校茶室愛治庵において指導しています。</p>				
教科書・教材	教科書	『茶の湯で学ぶ美』 河原宗孝 著 （株）淡交社			
	教材	帛紗セット			
	使用設備・備品	盆略点前に必要な道具、和室、愛治庵			
	参考文献	月刊誌『淡交』『なごみ』ビデオ『利休の茶』『15代鵬雲斎大宗匠とジェーン先生の対談』『茶の湯自在』			
評価方法	筆記試験（50%）実技試験（15%）受講態度（35%）の総合評価				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	名札、腰紐、白いソックス、髪を束ねるゴムの用意。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	茶道裏千家許状『初級』。 時間外学習を受講した学生で希望者には『中級』の許状取得可。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	講義 入門の心得、教材の配布、許状説明 実技 お菓子お茶の頂き方、点て方、自服	お菓子とお茶の頂き方を覚えることができる。	日本のマナーを覚える。 お茶の正しい頂き方の復習
第2回	講義 禅語「喫茶去」の読みと意味 実技 床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方	茶道と関係ある禅語を理解できるようになる。① 「喫茶去」の読み方と意味を覚える。	禅語「喫茶去」の読み方と意味。 床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方の復習
第3回	お茶室の勉強と感想文を書く、呈茶	茶室の由来、名前、特徴を覚える。	本物の茶室を見て、触れ、日本人であることを再確認する。和室での正しいお茶の頂き方を復習
第4回	講義 季節を感じるとは 実技 割稽古(1) 帛紗の扱い、帛紗さばき	季節の移り変わりを知り、日本の四季を実感でき。①	帛紗の扱い、帛紗捌きの復習正しいお茶の頂き方の復習
第5回	講義 ビデオ『利休の茶』『15代鵬雲斎大宗匠とジェーン先生の対談』 実技 自服	千利休の精神を理解できる。 愛治庵の由来を知る。	正しいお茶の頂き方、帛紗の扱い、帛紗捌きの復習
第6回	講義 炉、風炉、立礼について 実技 割稽古(2) 茶巾のたたみ方、茶碗の拭き方、茶筌通し、自服	季節の移り変わりを知り、日本の四季を実感できる。②	正しいお茶の頂き方、帛紗の扱い、帛紗捌きの復習
第7回	講義 お客様に好かれる方法、接客マナー 実技 割稽古(3) 棗、茶巾について	理想とする美容師観を養える。 プロの自覚を持てるようになる。①	帛紗捌き、棗と茶杓の清め方を復習
第8回	講義 お客様が求める美容師とは、和敬静寂、歴代家元 (1) 実技 盆略点前(1)、友達に点てる	理想とする美容師観を養える。 プロの自覚を持てるようになる。② 千利休の精神を理解できる。	盆略点前の復習
第9回	講義 茶室における髪型、着付け、メイク 実技 盆略点前(2)、友達に点てる	理想とする美容師観を養える。 プロの自覚を持てるようになる。③	盆略点前の配置図を覚える
第10回	講義 「利休遺偈」の読み方と意味 実技 盆略点前(3)、友達に点てる	「利休遺偈」の読み方と意味を覚える。 千利休の精神を理解できる。	盆略点前の復習
第11回	講義 禅語「歲月不待人」の読み方と意味、歴代家元(2) 実技 盆略点前(4)、友達に点てる	「歲月不待人」の読み方と意味を覚える。 茶道と関係のある禅語を理解できるようになる。②	盆略点前の復習
第12回	講義 ビデオ『茶の湯自在』 実技 自服	ビデオを使いお茶事を学べる。 ビデオを通し、お茶事のお客ぶりを体感できる。	お茶事の流れの復習
第13回	お茶会に招かれたお客様の勉強、呈茶	お茶会に招かれた時のマナーを覚え、礼法におけるお客としての心構えを学ぶことで接客力向上が図れる。	和室でのマナー、正しいお茶の頂き方の復習
第14回	講義 利休七則、歴代家元(3)、茶の湯英会話、茶の用語抄 実技 盆略点前(5)、友達に点てる	海外で活躍する場合を考え、英語による茶会を実践し習得できる。	利休七則を覚える 盆略点前の復習
第15回	講義 禅語「一期一会」の読み方と意味、総復習 実技 帛紗捌き、棗、茶杓の清め方、友達に点てる	茶道と関係のある禅語を理解できるようになる。③	「一期一会」の読み方と意味を覚える。 正しいお茶の頂き方、帛紗捌き、棗・茶杓の清め方の予習



科目名 Subject	日本文化（華道） Traditional Art (Flower Arrangement)		教員名	松崎 光暉	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	人間と自然に於ける共存の正しい在り方を華道という造形芸術で学び、それを再構築することにより日本の伝統文化を継承する。				
授業の目標	一般教養としての日本の華道史、及び生活芸術としての華道を学び、その華道の精神と技術の習得を通して美意識を高めることができる。それと共に、自然との共生を大切にする華道精神を理解することで、人間同士の共生を改めて考え、コミュニケーション能力やホスピタリティ精神の必要性を実感できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業で学ぶ構成図や構成表の復習、花芸作品の再構成を行う				
教科書・教材	教科書	花芸 安達流 演習ノート 「水」、補足のプリント配布			
	教材	演習ノート、筆記道具、色鉛筆、タオル、ノリ			
	使用設備・備品	花器、花鉢、剣山、花盆、花巾、色鉛筆			
	参考文献	花芸安達流安達瞳子著書全書			
評価方法	平常点20%、毎回の課題点30%、試験50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と関連する資格	資格名	花芸 安達流 入会「水」の終了証			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 花寄せ	華道の授業に臨む心構えを学び、同時に初めて花芸作品の制作ができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第2回	花芸作品を制作するにあたってのプロセスの大切さを学ぶ	結果を出すことの大切さと同時にそのプロセスの大切さを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第3回	その季節の行事に合わせ、歴史や文化を学び、花芸作品を制作する	日本古来の文化や風習を学ぶことで、伝承美を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第4回	花芸作品を制作するために必要な構成図を理解する	正面図と平面図の必要性と見方を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第5回	花材の自然な姿を尊重し作品を生けることを学ぶ	人と自然との共生を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第6回	花芸作品の美的バランスを学ぶ	造形空間について、日本と西洋の美的感覚の違いや、具体的なバランスを学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第7回	安達流の構成三原則の一つ、〈五態〉を学ぶ	生態学、形態学から、その形状に合った態を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第8回	安達流の構成三原則の一つ、〈文法〉を学ぶ	花芸作品を作成するにあたり、花材に役を定めることを理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第9回	花道史と花ばさみの扱いを学ぶ	華道の歴史を歴史的背景と共に理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第10回	植物の生態について学ぶ	植物の生理現象である水揚げの仕組みなどを学び、植物の管理法を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第11回	文法の授業で学んだ〈主要三格〉の力関係の比率を学ぶ	主要三格の力関係〈コンポジション〉における美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第12回	花材と花器のバランスを学ぶ	前回までの授業で学んだ花材間のバランスに加え、花器との全体のバランスを学び会得できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第13回	安達流の構成三原則の一つ、〈原型〉を学ぶ	〈原型〉を理解することで、論理的に花芸作品の美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第14回	複数人で花芸作品を制作する〈連花の演習〉	〈連歌〉の心を受け〈連花〉を生けることで、共同作業の美的効果を学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第15回	授業の総復習と花束制作	華道の授業で会得した美的感覚、論理的演習法、自然や人、社会との共生のありかたを再考し、理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習

科目名 Subject	ゼミナール I Seminar I		教員名	ゼミ担当	
開講年次	1	開講時期	通年	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>髪・顔・装い・精神美・健康美という建学の精神の理解の下に、キャリア支援教育を実施する。具体的には、一人の人間として、大人として、あるいは社会人としてのマナーやホスピタリティを学びながら自己分析をし、自分自身の将来像を思い描き、方向性を定めていく。そして、それを具現化するために必要な課題を明確化する。</p>				
授業の目標	<p>自己分析をとおして自己を理解し、社会人としての良識やコミュニケーション力を身に付ける。 美容業界をはじめ様々な業界の研究をしながら方向性を定め、その業界で活躍するための準備をする。 履歴書やエントリーシート作成、面接技法等のスキルを高めていく。 これらは、進学・留学志望者においても、将来的な就職を見据え、同様に行っていく。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>ポートフォリオの作成や業界研究 就職活動に向けての動きは授業内では収まりません。 時間外でも業界研究、自己分析などは常に行うこと。 単位取得の目的以外に1週間では、120分程度の分析は必要です。</p>				
教科書・教材	教科書	本学ゼミテキスト			
	教材	本学ゼミテキスト			
	使用設備・備品	業界研究用PC他			
	参考文献				
評価方法	授業や課題への取組み姿勢等				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	15回分の内容を把握し、その意味を理解する	オリエンテーション ゼミの位置づけと授業の全体像を把握する。	自己紹介
第2回	アイスブレイク	仲間を理解し、伝えたいことを表現する力をつける	ゼミの仲間との関係構築
第3回	就職活動の全体像を把握する	短大生活における就職活動の流れについて知る	就活についての現実を知る
第4回	履歴書とは何か	履歴書の必要性を学ぶ	履歴書の一部を
第5回	ポートフォリオとは何か	普段の授業や学外の体験をポートフォリオにしてみる。	自分の強みをみつけ、記録に残すことの重要性を知る
第6回	業界研究①	業界の種類や違いを知る	
第7回	業界研究②	自分が「好き」な企業、ブランドについて考え「志望」に変える	将来行きたい企業・店舗・ブランドについて考える
第8回	業界研究③	現場調査の方法について学ぶ	調査対象の選択や準備の方法について知る
第9回	業界研究④	現場調査発表 他の人の体験からも学ぶ	
第10回	履歴書の書き方①	文章の書き方を学ぶ	趣味特技を書いてみる
第11回	履歴書の書き方②	自分史年表を作り、見えていない自分を知る。	自分史年表を作成してみる
第12回	履歴書の書き方③	自分の強みをみつけ、知る。	今までの人生経験を整理し、自分の長所や特徴をつかむ
第13回	履歴書の書き方④	自己PRを考え書くことが出来るようになる。	自己PRを書いてみる
第14回	面接の基本	口頭発表の方法を学ぶ	人前で発表する
第15回	夏休みの過ごし方	夏休みの目標と計画を自ら立てることの重要性を知る。	外部講師によるセミナー

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	15回分の内容を把握し、その意味を理解する	オリエンテーション ゼミの位置づけと授業全体像の再確認	
第17回	マナー	人の話の聞き方のマナーを学ぶ	
第18回	インターンシップ報告会	仲間のインターンシップの体験を共有する	就職への意識を高める
第19回	業界研究⑤	OB・OGの話を聴き業界を知る	進路を考える機会を作る
第20回	業界研究⑥	学内の先輩達の話聴き業界を知る	進路を考える機会を作る
第21回	ES・履歴書の書き方「志望動機」	進路を意識して文章を書くことが出来るようになる。	志望動機を書く
第22回	履歴書のブラッシュアップ	先生から受けたアドバイスを元に自己表現力を高める。	志望動機を完成させる履歴書の完成
第23回	進路別講座（マイナビ登録他）	就職活動の準備としてマイナビに登録する	就職への意識を高める
第24回	就職活動での身だしなみ	就職活動の身だしなみを学ぶ	就職活動のマナーを知る
第25回	面接対策①	発声トレーニングと色々な言葉の表現の方法を学ぶ	人前で話す
第26回	面接対策②	面接の基本を学ぶ	面接の種類と方法を知る
第27回	面接対策③	模擬面接を行うことで自分の良いところ悪いところを知る。	面接練習を行う (個人・集団)
第28回	面接対策④	グループディスカッションのポイントを知る。	面接練習を行う (グループディスカッション)
第29回	春休みの過ごし方	春休みの目標と計画を立てる	外部講師によるセミナー
第30回	春休みの過ごし方	企業のピックアップをし、研究する	「足を動かす」ことを主題に、考える

科目名 Subject	ゼミナールⅡ Seminar II		教員名	ゼミ担当	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	◎	◎	◎	◎
科目の概要	ゼミナールⅠを踏まえ、学生各々が目指す将来像をより具現化するための具体的な支援を行う。 履歴書やエントリーシート作成、面接技法習得等の支援を行い、進学・留学志望の学生にはそれらに加え、受験対策や準備等も行う。				
授業の目標	各々が将来目標を達成するためには何が必要で何が大切かを考え理解し、主体性を以って行動できるようにする。 就職先でのマナーを学ぶことによって幅広い年代への顧客対応力を身につける。				
時間外学習 (予習・復習)	業界研究、自己分析、面接練習とその振り返り等				
教科書・教材	教科書	本学ゼミテキスト			
	教材	本学ゼミテキスト			
	使用設備・備品	業界研究用PC他			
	参考文献				
評価方法	授業や課題への取組み姿勢等				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	15回の内容を把握し、その意味を理解する、就活の流れを確認する	オリエンテーション 春休みの成果を踏まえ、スケジュールを立てる	具体的に何をすべきかを確認する
第2回	履歴書・ESの書き方復習	趣味特技の分野について自己分析し、自分を深く知る	自己分析をし、趣味特技を書き上げる
第3回	履歴書・ESの書き方復習	自分史年表を確認しながら、自己を深く知る	自分史年表を見ながら自己PRを作成する
第4回	履歴書・ESの書き方復習	企業を知り、それに対応した志望動機を作成することが出来る	企業分析を行い、志望動機を作成する
第5回	ポートフォリオの確認	ポートフォリオを自分で見直し、完成度を高める	個別にチェックする
第6回	面接対策	模擬個人面接を通し応答方法等を習得する	繰り返し練習
第7回	面接対策	模擬個人面接を通し応答方法等を習得する	繰り返し練習
第8回	面接対策	模擬グループ面接を行い質問事項に対する答え方などを習得する	繰り返し練習
第9回	面接対策	グループディスカッションに備え、聞き方や答え方などを習得する	繰り返し練習
第10回	就職活動直前マナー	企業研究をし、企業に対して必要な準備を整える	就職活動に合わせて最終確認する
第11回	マナーを学ぶ	企業、サロンへの手紙の書き方を習得する	就職活動に合わせて最終確認する
第12回	マナーを学ぶ	企業、サロンでの電話のかけ方を習得する	就職活動に合わせて最終確認する
第13回	マナーを学ぶ	社会人としての敬語の使い方を習得する	就職活動に合わせて最終確認する
第14回	マナーを学ぶ	各企業、サロンに見合った身だしなみを研究し、認識する	就職活動に合わせて最終確認する
第15回	夏休みの過ごし方	夏休みの目標と計画を立てる	個別面談も含める

科目名 Subject	情報リテラシー I Information Literacy I		教員名	小林 秀明	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	△	—
科目の概要	<p>本講義では、コンピュータ入門、情報倫理及び電子メールを含めたインターネットの基本的な利用、ワープロソフトの基本的操作とレポート作成などの活用を演習を通じて習得する。また、プレゼンテーションソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作と活用を習得する。演習形式で行うため、出席や課題等の提出は必須になる。</p>				
授業の目標	<p>1) コンピュータの概要、情報倫理、電子メールの書き方を理解する  2) Microsoft Windows 及び Office を中心としたアプリケーションの基本操作を習得できる  3) レポートやビジネス文書作成の手順の理解、関連する情報活用術の習得、PC/アプリケーション操作スキルの実践ができる</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>次回の講義内容の確認及び講義資料に目を通しておくこと。(20分程度)  本講義は演習形式である為、各回の講義で実施した内容を十分理解し、操作方法等の習得のために復習を行うこと。(30分程度)  また、タイピングスピードも演習に影響するため、各自練習をすること。(20分程度)</p>				
教科書・教材	教科書	講義資料 (Web 配布)			
	教材	USB メモリ			
	使用設備・備品	PC			
	参考文献	情報リテラシー Windows10 対応 FOM 出版			
評価方法	<p>PC 演習室での講義、ほぼ毎週の演習課題を実施するため、出席を前提としています。課題、小テスト、期末試験、その他総合的に評価します。  【評価項目】  平常点 (10%) 課題 (50%)、試験 (40%)</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>資料配布及び課題提出は、Web サイトを利用します。  その他、状況に応じて WEB ベースのアプリケーションを使用する場合があります。  講義に関係のない私語、飲食は厳禁。個人の携帯端末の電源は OFF (通信を OFF にする)。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	Microsoft Office Specialist(MOS), 日商検定 (3 級), P 検 3 級			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 講義の概要説明 ファイル・フォルダー タイピング練習	講義概要を理解する ファイルとフォルダーの基本 操作を習得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第2回	コンピュータ入門 5大装置と周辺機器 インターネットの仕組み ネット検索と情報収集	コンピュータ、インターネット の仕組みを理解する ネット検索や情報収集がで きる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第3回	ファイル管理の基本 情報倫理・著作権 電子メール	情報倫理・著作権が理解できる 電子メールの書き方を習得で きる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第4回	Word (1) 基本操作 基本的な文書作成	Wordの基本操作を習得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第5回	Word (2) 表の作成と図の挿入	表の作成を習得できる 図の挿入ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第6回	Word (3) 文書印刷 表現力アップ	文書印刷ができる 表現力をアップする機能を習 得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第7回	Word (4) 長文レポート編集 レポート作成	レポートの作成ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第8回	Word (5) ビジネス文書の書き方 Word まとめ	ビジネス文書を作成できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第9回	PowerPoint (1) 基本操作 図形の挿入	基本操作を習得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第10回	PowerPoint (2) 表作成 グラフ作成	表、グラフ作成ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第11回	Excel (1) 基本操作 データ入力	基本操作を習得する	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第12回	Excel (2) 表作成 表編集 表印刷	表の作成を習得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第13回	Excel (3) グラフ作成 データベース操作	グラフを作成できる データベースを操作できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第14回	Excel (4) 複数シート操作 簡単な計算	複数シートを操作できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第15回	Excel (5) 基礎的な関数 Excel まとめ	基礎的な関数を使える	総復習する 総合課題を実施する

科目名 Subject	情報リテラシーⅡ Information LiteracyⅡ		教員名	小林 秀明	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	△	△	—
科目の概要	<p>本講義では、情報リテラシーⅠで習得した基礎知識や技術をさらに発展させた内容を行う。ワープロソフトの高度な操作とレポート・報告書の作成を演習を通じて習得する。また、プレゼンテーションソフトの応用的操作、表計算ソフトの高度な操作と活用を習得する。また、情報の表現の理解や計算方法の習得、画像や音声・動画加工方法を学習する。演習形式で行うため、出席や課題等の提出は必須になる。</p>				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Microsoft Windows 及び Office を中心としたアプリケーションの応用操作を習得する</li> <li>2) レポートやビジネス文書作成の手順の理解、総合的な情報活用術の習得、PC/アプリケーション操作スキルの実践ができる</li> <li>3) 情報の表現の理解、計算方法を習得する</li> <li>4) 画像や音声・動画加工ができる</li> </ol>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>次回の講義内容の確認及び講義資料に目を通しておくこと。(20分程度)          本講義は演習形式である為、各回の講義で実施した内容を十分理解し、操作方法等の習得のために復習を行うこと。(30分程度)          また、タイピングスピードも演習に影響するため、各自練習をすること。(20分程度)</p>				
教科書・教材	教科書	講義資料 (Web 配布)			
	教材	USB メモリ			
	使用設備・備品	PC			
	参考文献	情報リテラシー Windows10 対応 FOM 出版			
評価方法	<p>PC 演習室での講義、ほぼ毎週の演習課題を実施するため、出席を前提としています。課題、小テスト、期末試験、その他総合的に評価します。  <b>【評価項目】</b>          平常点 (10%) 課題 (50%)、試験 (40%)</p>				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>資料配布及び課題提出は、Web サイトを利用します。          その他、状況に応じて WEB ベースのアプリケーションを使用する場合があります。          講義に関係のない私語、飲食は厳禁。個人の携帯端末の電源は OFF (通信を OFF にする)。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	Microsoft Office Specialist (MOS), 日商検定 (3 級), P 検準 2 級			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 情報リテラシー I (Word) の 総復習 タイピング練習	講義概要の理解する Word 基本操作の習得する	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第2回	Word (1) 基本操作 基本的な文書作成	基本的な文書作成ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第3回	Word (2) 長文レポート編集 文書校閲	文書校閲ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第4回	Word (3) 数式入力 ビジネス文書総編集	数式入力ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第5回	Word (4) 情報の活用 Word まとめ	情報を活用した文書作成がで きる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第6回	PowerPoint (1) デザイン 画面切替 アニメーション	デザインの変更、アニメーショ ンの設定ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第7回	PowerPoint (2) ストーリー構成 スライドショー	PowerPoint を用いたプレゼン テーションができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第8回	Excel (1) 基本操作の復習 基礎的な関数 表示形式	基本操作を理解する 基礎的な関数が見える	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第9回	Excel (2) 高度な関数 条件付き書式	高度な関数が見える 条件付き書式を設定できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第10回	Excel (3) 高度なグラフ作成	高度なグラフ作成ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第11回	Excel (4) ピボットテーブル 応用関数	ピボットテーブルが見える	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第12回	Excel (5) Excel まとめ	顧客表などのデータベースを 作成できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第13回	情報の表現・計算	情報の表現を理解する	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第14回	画像・音声・動画加工	情報の加工ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする
第15回	フォトレタッチソフト 総まとめ	フォトレタッチソフトが見える	総復習する 総合課題を実施する

科目名 Subject	心理学 Psychology	教員名	五十嵐 靖博		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	○
科目の概要	自分や他者を理解し美容に適用するには、人間に共通する心のメカニズムと個々の人の個性を作り上げている心的特性を理解する必要がある。本科目では美容にかかわる様々な現象と、日常生活の中で経験される思考や感情や行動を、心理学の諸理論をとおして説明する。美容と心の関係を心理学的研究にもとづいて考察する。				
授業の目標	心理学の視点から美容やコミュニケーション、ホスピタリティに関する理解を深め、現場で使えるようになる。人間に共通する心のメカニズムを理解し、その性質を踏まえたうえで実生活で活用できる。心理学の知見を美齢学に適用できる。				
時間外学習 (予習・復習)	予め講義内容を整理する。授業後、分からない点を自分で確認できる				
教科書・教材	教科書	齊藤勇著『イラストレート心理学入門(第2版)』 誠信書房 2010			
	教材	適宜、資料を配布する			
	使用設備・備品	適宜、ビデオなど映像資料を使用する			
	参考文献	『ヒルガードの心理学(第16版)』 ブレーン出版 2015			
評価方法	次の3点を総合的に評価する。平常点 20%、ワーク 20%、レポート 50%、試験 60%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	講義内容は難しくはないが、積極的に受講し理解しようとする姿勢が重要である。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	心の諸概念、行動の意味、心理学の研究法について学ぶ	心理学とは何かを説明できる。	予め心とは何かを考えておくこと。授業後に自他の心観を心理学用語を用いて説明する。
第2回	五感、視覚の重要性。目とカメラ	知覚の基本的なメカニズムを説明できる。	予習として眼の構造図を理解する。復習として視覚が成立する過程を自分で説明する。
第3回	錯視などの知覚現象と外見・美容	知覚と美容の関係を説明できる。	予習として知覚のメカニズムを確認する。復習として美容におけ錯視の例を自分で考える。
第4回	パーソナリティの成り立ち	パーソナリティを理解する。	予め自分がパーソナリティをどう考えているか、確認する。復習として自分のパーソナリティの成り立ちを考える。
第5回	自他のパーソナリティをどのようにして測定するか	パーソナリティ検査について説明できる。	予習として今までに受けた心理検査について考える。復習としてパーソナリティ検査の仕組みをふり返る。
第6回	小集団とそのメカニズム	社会的行動の基礎について説明できる。	予習として日常生活の中で人間関係が自分に与える影響を考える。復習として集団力学の用語を用いて事例を説明する。
第7回	服従と社会的役割	職場集団のメンバーの行動を社会心理学の視点から説明できる。	予め社会的役割とは何か自分で考える。復習として自分で事例をあげ説明する。
第8回	ストレス、ストレッサー、汎適応症候群	ストレスとは何か、説明できる。	予習としてストレスの例を考える。復習としてストレスの影響を身近な事例で説明する。
第9回	不安障害、心身症	ストレスと心の障害の関係を説明できる。	予め不安が何をもたらすか。自分の経験を振り返る。復習として自分がなりやすい心身の障害について考える。
第10回	うつ病、統合失調症	うつ病や統合失調症について説明できる。	うつ病と統合失調症に関する自分の考えを予め振り返る。授業後、身近な人が治療を受ける場合、どうすればいいか考える。
第11回	エステの心理学	エステが心に及ぼす効果を説明できる。	予めエステと心理学の関係を考える。復習として個々の施術と心への効果の関係を説明する。
第12回	魅力の心理学	自他の外見が認知や魅力にどう影響するか、説明できる。	予習として魅力とは何か、考える。授業後、魅力的な人の具体例をあげ心理学的に説明する。
第13回	美の社会的構成	美の基準がどのように作られ、心にどう影響するかを説明できる。	予習として自分が美しいと思うものを明確にする。復習としてなぜそう思うのか、具体的に説明する。
第14回	心理学を活かす：美齢学へ向けて	心理学と美容の関係を理解し、コミュニケーションに活用する。	予習として美齢学とは何か、調べる。授業後、自分の生活と心理学の関係を具体例をあげて考える。
第15回	まとめ	定期試験に向けて、講義内容をふりかえり、確認する	予め講義内容を整理する。授業後、分からない点を自分で確認できる。

科目名 Subject	異文化理解 Cross-cultural Understanding		教員名	遠藤 麻美子	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	△	○	◎
科目の概要	<p>価値観が多様化し、国際化が進む現代だからこそ、他国の文化・生活様式・価値観を理解し受け入れることが重要です。併せて他国の文化と比較しながら、自国の文化についても理解を深めていきます。医学の進歩に伴い、世界的に高齢化が進んでいる中、他国での高齢者に対する取り組みなどにも着目して、さまざまな視点から他国の文化との比較しながら授業を展開していきます。</p>				
授業の目標	<p>他国の文化（衣食住、宗教など）を学習し、自国の文化と比較しながら理解を深めることができます。異文化間のコミュニケーションに必要な文化・価値観の違いを理解できるようになります。国際人として相手を認め、受け入れて、その気持ちを行動にうつせるコミュニケーション論も学習し、身につけることが目標です。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>毎授業テーマがあり、次回の授業内容のプリントを予習のために配布します。プリントの内容をよく読み、わからない語句などは調べておき、授業で質問できるよう自学習しておいて下さい。海外のニュースや他国のことをとりあげた番組などをみて知ったことはメモし授業内で共有できるようまとめて下さい。復習に関しては授業で学習した重要なところをノートにまとめて下さい。各回の予習復習時間の目安としては60～90分です。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	なし			
	使用設備・備品	DVD再生等AV機器			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	<p>授業参加意欲30%、レポート、グループ発表（併せて70%）の結果等を総合的に評価します。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げになる行為は退出を命ずることがあります。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 異文化理解とは何かを学ぶ。	授業の進め方を理解し、この授業の全体像を把握する。	異文化理解について自分で調べ、まとめる。次回のオリジナル日本地図作成のための予習をしておく。
第2回	異文化と比較するために日本について学ぶ。	白地図を使い、県名だけでなく、名産、有名観光地なども書き入れオリジナルの地図を作成する。	授業で習ったポイントを復習し、地図を完成させる。次回のオリジナル世界地図作成のための予習をしておく。
第3回	世界地理を学ぶ。	白地図を使い、国名だけでなく、名産、有名観光地なども書き入れオリジナルの地図を作成する。	授業で習ったポイントを復習し、地図を完成させる。次回のプリントを読んで予習しておく。
第4回	世界地理を再確認し、大陸ごとに学ぶ。	前回の国ごとでの学習を踏まえ、大陸ごとの特色などを学習する。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の「世界の衣文化」のプリントを読んで予習しておく。
第5回	世界と日本の比較衣について学ぶ。	世界の主な衣文化を学び、一般教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の「世界の食文化」のプリントを読んで予習しておく。
第6回	世界と日本の比較食について学ぶ。	世界の主な食文化を学び、一般教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の「世界の住文化」のプリントを読んで予習しておく。
第7回	世界と日本の比較住について学ぶ。	世界の主な住文化を学び、一般教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の「世界の宗教」のプリントを読んで予習しておく。
第8回	世界と日本の比較宗教について学ぶ。	世界の主な宗教を学び、一般教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の「世界の福祉事情」のプリントを読んで予習しておく。
第9回	世界と日本の比較福祉について学ぶ。	世界の福祉を学び、一般教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の「世界の高齢者事情」のプリントを読んで予習しておく。
第10回	世界と日本の比較美齢学の観点から高齢者について学ぶ。	世界の高齢者について学び、一般教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の研修旅行の振り返りの準備をしておく。
第11回	研修旅行で訪れたロンドン・パリについて再確認する。	研修旅行で訪れたロンドン・パリで感じた文化の違いについて再確認する。	授業で再確認したポイントを復習し、確認する。興味のある国を事前に考え選んでおく。
第12回	興味のある国を選び、日本や他国と比較し理解を深める。	各自興味のある国を選び、文化や日本との違いを調べる。	選んだ国の文化・日本や他国との違いについて調べ、予習復習を行う。
第13回	興味のある国を選び、日本や他国と比較し理解を深める。	各自調べた内容をグループにフィードバックし、理解を深める。グループ発表の準備をする。	選んだ国の文化・日本や他国との違いについて調べ、予習復習を行う。
第14回	興味のある国を選び、日本や他国と比較し理解を深める。	グループワークで理解を深め、プレゼンテーションする。	選んだ国の文化・日本や他国との違いをまとめ、復習する。これまでに配布されたプリント・ノートを復習しておく。
第15回	まとめ	14回の授業を振り返り、理解度を確かめる。	これまでに配布されたプリント・ノートを復習し、各自ノートにまとめる。

科目名 Subject	海外研修（ヨーロッパ） Overseas Study (EUR)		教員名	秋田 留美	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	◎	◎
科目の概要	海外のファッションや美容を学び、国際的な美容感覚を養うとともに、現地で外国語を体験する機会を得る。具体的には、ファッション、美容、それらの関連施設、美術館、博物館、等の見学研修や一流アーティストによるヘアデザイン、メイク等を中心としたショーを見学研修する。自由行動の時間では、パリ、ロンドンのさまざまな文化に触れる。				
授業の目標	海外の文化や習慣等に触れることによって、国際的な意識を高める。 また、コミュニケーション力の大切さを知るとともに、ファッションや美容に対する学習意欲を高める。 世界を知ること目指すべき目標を見つける。 また、世界を知らなければ国内でも1番に成れないことを知る。				
時間外学習 (予習・復習)	特段の時間外学習は必要ないが、説明会の内容を保護者に報告する。 帰国後は体験を報告するなどし、人に伝えることで体験を経験にする。				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	説明会への出席状況と、研修後のレポートも合わせて総合的に評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	有意義な研修とするためには、事前の説明会への参加のみならず、自らが意欲をもって事前に調査研究しておくことが望まれる。原則として集団行動をとるため、参加に当たっては特に自覚的参加とマナーを守ることが求められる。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	説明会① 海外研修の概要	海外研修に行く意義を理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第2回	説明会② 海外研修に必要な手続きについて	海外研修に行く為に必要な手続きを理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第3回	説明会③ 主な注意事項	イギリス、フランスでやってはいけないこと、注意すべきことを理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第4回	説明会④ 詳細なスケジュールについて	スケジュールを把握し、詳細な行動計画をたてられるようになる。	資料を確認し、保護者に説明する。
第5回	ロンドンでの研修 市内見学 ビューティセミナー	ロンドンにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を知る。	ただの旅行にしないように自分なりにロンドンでの体験をまとめる。
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回	パリでの研修 市内見学 ビューティショー ディナーショー	パリにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を知る。	ただの旅行にしないように自分なりにパリでの体験をまとめる。
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

科目名 Subject	英語コミュニケーション English Communication		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out various role-play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.				
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer				
時間外学習 (予習・復習)	As required				
教科書・教材	教科書	Salon English			
	教材	Note book, pen or pencil, dictionary (optional)			
	使用設備・備品	As required			
	参考文献	As required			
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Class Introduction	Overall explanation, motivation, importance of positive communication	Course requirements, career and personal life, importance of positive communication
第2回	Compliments & Small Talk	Vocabulary and phrases, Pair and group, small talk complimenting	Able to give and receive compliments, comfortable using small talk phrases
第3回	Appointments Business Hours	telephone greetings, explaining business hours, availability, taking an appointment, confirming the appointment, ending telephone call	how to take an appointment 1) Telephone greetings 2) Explain business hours 3) take client's name, telephone 4) confirm appointment 5) end the call
第4回			
第5回	Salon Greetings Escorting Shampooing	Salon greetings, appointment, first time customer, clients name, take clients bag or coat, client wait, escort client to shampoo area, mock shampoo, escort client, seat the client comfortably	Basic understanding as to how to take an appointment over the telephone salon greetings checking for appointment checking for first time client take client's name take client's bag and/or coat
第6回			
第7回			
第8回	Beauty Business Documentary	Watch foreign documentary on the beauty business	Understanding the beauty business in America and Europe, communication
第9回	What would you like to have done?	Original conversation asking the client what they would like to have done, asking (5) related questions, five (5) small talk phrases, and two (5) compliments, pair practice in real salon setting	How to ask a client what they would like to do and ask pertinent questions to confirm that they understand what the client wants. students will learn how to carry on casual conversations in English. students will learn how to give compliments
第10回			
第11回			
第12回	Small talk techniques	Pair and group practice using effective customer service small talk techniques	Students will be able to comfortably engage in small talk with clients
第13回	Final Presentation "The Total Salon Experience"	Final presentation In pairs students begin to write dialog	Students will present a complete presentation of the entire salon experience.
第14回		Pair practice in real salon setting with both students acting out the role of the stylist and customer	
第15回		Final presentation - in the salon	

科目名 Subject	グローバルスタイリスト英語 I Global Stylist English I		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out various role-play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.				
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer				
時間外学習 (予習・復習)	As required				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Class Introduction	Overall explanation, motivation, importance of positive communication	Course requirements, career and personal life, importance of positive communication
第2回	Compliments & Small Talk	Vocabulary and phrases, Pair and group, small talk complimenting	Able to give and receive compliments, comfortable using small talk phrases
第3回	Stylist and intern Role Play #1	Students will create original dialogs based on real salon situations	Students will practice useful dialogs for use in international salon internships
第4回			
第5回	Stylist and intern Role Play #2	Students will create original dialogs based on real salon situations	Students will practice useful dialogs for use in international salon internships
第6回			
第7回	Stylist and intern Role Play #3	Students will create original dialogs based on real salon situations	Students will practice useful dialogs for use in international salon internships
第8回			
第9回	Appointments Business Hours	telephone greetings, explaining business hours, availability, taking an appointment, confirming the appointment, ending telephone call	how to take an appointment 1) Telephone greetings 2) Explain business hours 3) take client's name, telephone 4) confirm appointment 5) end the call
第10回			
第11回	Salon Greetings Escorting Shampooing	Salon greetings, appointment, first time customer, clients name, take clients bag or coat, client wait, escort client to shampoo area, mock shampoo, escort client, seat the client comfortably	Basic understanding as to how to take an appointment over the telephone salon greetings checking for appointment checking for first time client take client's name take client's bag and/or coat
第12回			
第13回			
第14回			
第15回	Beauty Business Documentary	Watch foreign documentary on the beauty business	Understanding the beauty business in America and Europe, communication

科目名 Subject	グローバルスタイリスト英語Ⅱ Global Stylist English II		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary-In this class we will focus on communication between an intern and stylist and an intern and client				
授業の目標	Aim- The aim of this course is to prepare students to interact with stylists and clients. Students will practice effective techniques to stay engaged, interested and positive when in a salon				
時間外学習 (予習・復習)	Original material and Hair Salon English (Canada Styles)				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	Introduction / Orientation	students will be briefed on course contents and schedules	
第 2 回	Salon Communication #1	Meeting people	Students will be able to positively approach people and initiate conversations
第 3 回			
第 4 回			
第 5 回	Salon Communication #2	Small Talk with clients	Students will be prepared to initiate and maintain common, everyday small talk conversations with clients
第 6 回			
第 7 回			
第 8 回	Salon Communication #2	In the salon	Students will be prepared to initiate and maintain general conversations with stylists in an international salon setting
第 9 回			
第 1 0 回			
第 1 1 回	Hair Salon English #1	Escorting the client	Students will learn 31 useful English phrases related to greeting and escorting a client
第 1 2 回			
第 1 3 回	Hair Salon English #2	Reservations	Students will learn 42 useful English phrases related to taking telephone reservations
第 1 4 回			
第 1 5 回			

科目名 Subject	グローバルスタイリスト英語Ⅲ Global Stylist EnglishⅢ		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary - In this class, we will focus on daily conversations in various situations, learning how to manage small talks we would need to lead daily conversations. We will also develop vocabulary related to design and fashion, using a textbook specialized in such fields.				
授業の目標	Aim - The goal of this class is to develop general conversation skills of the students in daily situations as well as developing a variety of vocabulary, including specialized ones in design and fashion.				
時間外学習 (予習・復習)	As required				
教科書・教材	教科書	Global 3			
	教材	Note book, pen or pencil, dictionary			
	使用設備・備品	As required			
	参考文献	As required			
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習、テストなど 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Class Introduction / Meeting People	Overall explanation, motivation, importance of positive communication, self-introduction.	Prepare for a short presentation of your self-introduction.
第2回	Clothes and Apparel	(1) Short self-introduction. (2) Able to describe outfits. Vocabulary of clothing.	Write a short essay about yourself.
第3回	Colors and Patterns	Able to talk about your favorite outfit.	Draw and describe your favorite outfit.
第4回	Materials	Learn how to describe materials.	Practice how to describe your favorite outfit.
第5回	Coordination	Able to describe coordination. Learn how to use prepositions. Ask for opinions.	Think about your favorite styles and how to explain them.
第6回	Styles and Trends	Able to ask others for opinions. Learn how to describe styles and trends.	Prepare for a review quiz
第7回	Review Test	Review Quiz	Review of the past classes.
第8回	Describing People	Learn vocabulary about body-parts. Able to describe how others look like.	Prepare to talk about your room.
第9回	Home Decorating	Able to talk about your room. Learn vocabulary describing locations.	Prepare to talk about your favorite places.
第10回	Shops and Cafes	Able to talk about your favorite shops, cafes and reasons you like them.	Write about your favorite things and places.
第11回	Sewing and cooking	Able to explain the way to make something, or recipes.	Write a recipe of your favorite food.
第12回	Daily Routines 1	Learn how to describe daily routines. Learn vocabulary to describe time and activities.	Start planning your final presentation.
第13回	Daily Routines 2	Able to describe daily routines. Learn adverbs of frequency. Learn how to manage an effective presentation.	Practice presentation
第14回	Review Test & Presentation Rehearsal	Review Test & Presentation Rehearsal	Prepare for the final presentation.
第15回	Final Presentation "My Daily Life"	Do a presentation about your daily life with pictures or your favorite items.	Watch others doing presentation and learn how they can manage effective presentation.

科目名 Subject	グローバルスタイリスト英語Ⅳ Global Stylist EnglishⅣ		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out various role-play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.				
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer				
時間外学習 (予習・復習)	As required				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	What would you like to have done?	Original conversation asking the client what they would like to have done, asking (5) related questions, five (5) small talk phrases, and two (5) compliments, pair practice in real salon setting	How to ask a client what they would like to do and ask pertinent questions to confirm that they understand what the client wants. students will learn how to carry on casual conversations in English. students will learn how to give compliments
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回	Client small talk and compliments	Students will create original conversations	Students will be able to initiate and maintain normal, everyday conversations with clients
第7回			
第8回			
第9回	Salopn Image Creation	In preparation for final presentation students will create an original salon image	Students will be able to creat an original salon concept for use in final presentation
第10回			
第11回	London and Paris	General discussion on traveling in Europe	Learn about traveling in Europe to prepare them for their school trip
第12回	Final Presentation "The Total Salon Experience"	Final presentation In pairs students begin to write dialog Pair practice in real salon setting with both students acting out the role of the stylist and customer Final presentation - in the salon	Students will present a complete presentation of the entire salon experience.
第13回			
第14回			
第15回			

科目名 Subject	グローバルスタイリスト英語Ⅴ Global Stylist EnglishⅤ		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary-In this class we will focus on communication between an intern and stylist and an intern and client				
授業の目標	Aim- The aim of this course is to prepare students to interact with stylists and clients. Students will practice effective techniques to stay engaged, interested and positive when in a salon				
時間外学習 (予習・復習)	Original material and Hair Salon English (Canada Styles)				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Salon English #3	Having the client wait	Students will learn 40 useful English phrases related to having the client wait and general small talk
第2回			
第3回	Salon English #4	Paying and Escorting	Students will learn 16 useful English phrases related to having the client pay and thanking the client
第4回			
第5回	Salon English #5	Counseling	Students will learn 26 useful English phrases related to hairstyles and asking the client what they would like to have done
第6回			
第7回			
第8回	Salon English #6	Shampoo	Students will learn 16 useful English phrases related to language needed for performing a shampoo
第9回			
第10回	Salon English #7	Haircutting	Students will learn 32 useful English phrases related to haircutting and asking client how they would like their hair cut
第11回			
第12回			
第13回	Salon English #8	Hair coloring and Perming	Students will learn 40 useful English phrases related to haircoloring and perming and asking client how they would like their hair colored and permed
第14回			
第15回			

科目名 Subject	グローバルスタイリスト英語Ⅵ Global Stylist EnglishⅥ		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out 278 key phrases that are commonly used in a hair salon.				
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer				
時間外学習 (予習・復習)	As required - at least 60 minutes per lesson				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Greeting and Escorting a client	Students will practice 36 key phrases and vocabulary related to greeting and escorting a client	Students will review the first 36 phrases and check next 44 phrases
第2回			
第3回	Taking reservations	Students will practice 44 key phrases and vocabulary related to taking reservations	Students will review the first 20 phrases and check next 24 phrases
第4回			Students will review the 44 phrases and check the next 44 phrases relating to waiting
第5回			
第6回	Having a client wait	Students will practice 44 key phrases and vocabulary related to having a client wait	Students will review the first 20 phrases and check next 24 phrases
第7回			Students will review the 44 phrases and check the next 44 phrases relating to paying and escorting a client
第8回			
第9回	Paying, giving change and escorting	Students will practice 20 key phrases and vocabulary related to having a client	Students will review the 20 phrases and check next 24 phrases
第10回			
第11回	Counseling a client	Students will practice 20 key phrases and vocabulary related to counseling a client	Students will review all 20 phrases
第12回			
第13回			
第14回	Review first 124 phrases	Students will create and act out a role play based on the first 5 units	Students will create a general outline of their role play
第15回			

科目名 Subject	グローバルスタイリスト英語Ⅶ Global Stylist EnglishⅦ		教員名	英語チーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out 278 key phrases that are commonly used in a hair salon.				
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer				
時間外学習 (予習・復習)	As required - at least 60 minutes per lesson				
教科書・教材	教科書	Canada Styles - Hair Salon English			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Shampoo	Students will practice the 32 key phrases pertaining to shampooing	Students will review the 32 shampoo phrases and check the next 24 phrases dealing with haircutting
第2回			
第3回	Haircutting	Students will practice the 32 key phrases pertaining to haircutting	Students will review the 32 shampoo phrases and check the next 24 phrases dealing with coloring and perming
第4回			
第5回			
第6回	Color / Perm	Students will practice the 32 key phrases pertaining to coloring and perming	Students will review the 32 shampoo phrases and check the next 18 phrases dealing with handling client complaints
第7回			
第8回			
第9回	complaints	Students will practice the 18 phrases dealing with client complaints	Students will review the 18 key phrases pertaining to handling client complaints
第10回	Marin Tagawa	hairstylist will perform a service (cut,color,perm) on a real client	Students will review video/audio of the actual communication that took place with the stylist and customer
第11回		Students will act out the communication styles in the model video	
第12回	Lukaro Salon & Spa, Beverly Hills Kana Ishii	hairstylist will perform a service (cut,color,perm) on a real client	Students will review video/audio of the actual communication that took place with the stylist and customer
第13回		Students will act out the communication styles in the model video	
第14回	Canada Styles - Akemi Yamashita	hairstylist will perform a service (cut,color,perm) on a real client	Students will review video/audio of the actual communication that took place with the stylist and customer
第15回		Students will act out the communication styles in the model video	

科目名 Subject	日本事情 I Current Japanese Topics I		教員名	日本語チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	(1)
必修／選択	外国人留学生は必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	<p>本クラスでは、美容を学ぶ留学生が、大学の授業を受けるために必要な日本語（アカデミック・ジャパニーズ）を学習する。具体的には、以下の項目を中心に学んでいく。①講義の聞き方を学ぶ。②ノートを取り方を学ぶ。③文章の書き方を学ぶ。④発表の仕方を学ぶ。特に文章作成では、書き方の学習と並行して実際に短いレポートを書き、学習者相互にピアレスポンスをしながら仕上げていく。書き上げたレポートはクラス内で発表し、相互評価を行うことで、学生一人ひとりの自律性を高める。活動を通して、自分の考えを日本語で表現できることを目指す。</p>				
授業の目標	<p>「講義を聞き、重要な項目をメモすることができる」「文章の書き方を理解し、美容に関するレポートが書ける」「自分の言いたいことを、他者に簡潔に伝えることができる」</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>次回の授業内容について確認し理解しておくこと。また学習した日本語はできるかぎり忘れないように、練習しておくこと。各回予習 60 分。復習 60 分。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント使用			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘著、スリーイーネットワーク、2007 年			
評価方法	平常点 30%、課題 20%、レポート 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	学生の主体的な参加を期待する。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。	
第2回	講義の聞き方(1) スキルを学ぶ。	一般的な講義の特徴について理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第3回	講義の聞き方(2) ノートテイキングを学ぶ。	ノートテイキングについて理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第4回	講義の聞き方(3) 演習①	講義の聞き方の理解を深められる。	復習 60 分、予習 60 分
第5回	講義を聞く(4) 演習② 文章の書き方(1) 文体	講義の聞き方のスキルを上げることができる。文体について理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第6回	講義を聞く(5) 演習③ 文章の書き方(2) 句読点	講義の聞き方のスキルを上げることができる。句読点の打ち方を理解する。	復習 60 分、予習 60 分
第7回	講義を聞く(6) 発表 文章の書き方(3) 段落	講義を聞き、その内容が発表できる。段落の書き方が理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第8回	文章の書き方(4) 段落相互	段落相互の書き方が理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第9回	レポート(1) 動機文を書く。	自分とテーマの関係について考えることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第10回	レポート(2) 動機文を検討する。	自分とテーマの関係について理解を深めることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第11回	レポート(3) 本論を書く。	クラスメイトと深い対話ができる。	復習 60 分、予習 60 分
第12回	レポート(4) 本論を仕上げる。	テーマについて、クリティカルに考えることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第13回	レポート(5) まとめを書く。	一貫した文章が書けるようになる。	復習 60 分、予習 60 分
第14回	レポート(6) 全体を読み合う。推敲する。	自分が書いた文章を客観的に見ることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第15回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテーマが内省できる。	復習 60 分、予習 60 分

科目名 Subject	日本事情Ⅱ Current Japanese TopicsⅡ		教員名	日本語チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	(1)
必修／選択	外国人留学生は必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	<p>本クラスでは、相手に合わせた待遇コミュニケーションについて学ぶ。具体的には様々な場面における敬語表現を学び、学内やアルバイト先、就職活動における話し方、聞き方を学ぶ。その上で、敬語だけではなく、様々な場面の待遇表現も学び、相手に合わせた話し方聞き方を自分で選択できるようになることを目指す。</p>				
授業の目標	<p>(1) 敬語の基本が習得できる。(2) 様々な場面の待遇表現が習得できる。(3) 社会相手に合わせた話し方が習得できる。(4) ビジネス場面における話し方が理解できる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>次回の授業内容について確認し理解しておくこと。また学習した日本語はできるかぎり忘れないように、練習しておくこと。各回予習 60 分。復習 60 分。</p>				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『日本語敬語トレーニング』金子広幸著アスク出版			
評価方法	平常点 20%、期末テスト 50%、提出物 30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	一人一人の主体的な態度を求める。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。尊敬語が使える。	復習 90 分。
第2回	訪問する	敬語全般について理解できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第3回	簡単に挨拶する	尊敬語が使える。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第4回	誘う	敬語を使って誘うことができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第5回	お願いする	敬語を使ってお願いすることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第6回	断る	敬語を使って断ることができる	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第7回	申し出る	敬語を使って申し出ることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第8回	おわびする	敬語を使ってお詫びができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第9回	意見を言う	敬語を使って自分の意見を言うことができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第10回	予約を受ける	仕事先で、敬語を使って電話や店頭で予約を受けることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第11回	サービスの敬語	仕事先で、敬語を使ってお客から注文を受けることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第12回	相談を受ける	仕事先で、敬語を使ってお客から相談を受け対応できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第13回	面接を受ける	面接で、敬語が使える。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第14回	電話の敬語	社内の者として敬語を使い、電話対応ができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第15回	まとめ	全体の振り返りができる	全体の復習 90 分。

科目名 Subject	日本事情Ⅲ Current Japanese TopicsⅢ		教員名	日本語チーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	-1
必修／選択	外国人留学生は必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	本クラスでは、就職に必要なビジネス日本語を学習する。主に就職活動に必要な日本語を学んでいく。また、就職後、日本で仕事ができるようになるための日本語も学習していく。授業では、課題達成、問題発見開発能力、異文化理解能力を養うためのタスクをこなしながら、日本語力の向上を目指す。				
授業の目標	1) エントリーシート等の就職のための提出書類を書くことができる。2) 面接で自己アピールができる。3) プレゼンテーションやディスカッションをすることができる。				
時間外学習 (予習・復習)	課題に取り組む時間が必要になる。予習 50 分。復習 50 分。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント使用			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション』近藤彩他著、アプリコット出版、2012年			
評価方法	平常点 30%、課題 20%、レポート 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	学生の主体的な参加を期待する。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。	予習として作文課題（90分）
第2回	企業の求める人材を知る(1)企業ガイダンスについて読み、話す。	企業ガイダンスの語彙と表現が理解できる。	復習 50分、予習 50分
第3回	企業の求める人材を知る(2)企業ガイダンス（説明会）の内容を聞く。	企業ガイダンスを聞き、メモが取れる。	復習 50分、予習 50分
第4回	企業の求める人材を知る(3)企業概要を読み、メモをする。	企業について、自分で調べることができる。	復習 50分、予習 50分
第5回	エントリーシートを書く(1)メモする。	エントリーシートの内容を日本語でメモできる。	復習 50分、予習 50分
第6回	エントリーシートを書く(2)全体を書く	エントリーシートの内容を日本語で記述できる。	復習 50分、予習 50分
第7回	エントリーシートを書く(3)話し合う	エントリーシートの内容を協働で深められる。	復習 50分、予習 50分
第8回	エントリーシートを書く(4)発表する	エントリーシートに書いたことを他者に向けて分かりやすく話すことができる。	復習 50分、予習 50分
第9回	E-mailの書き方、敬語表現を学ぶ。	敬語を使ってE-mailが書ける。	復習 50分、予習 50分
第10回	自己アピールをする(1)自己アピールを聞いて考える。	他者の自己アピールを聞き取ることができる。	復習 50分、予習 50分
第11回	自己アピールをする(2)自己アピール文を書く。	自己アピール文を日本語で書くことができる。	復習 50分、予習 50分
第12回	自己アピールをする(3)	自己アピールが話せる。自己評価ができる。	復習 50分、予習 50分
第13回	自分の作品をプレゼンテーションする(1)	PPTでプレゼンテーションする方法を学ぶ。	復習 50分、予習 50分
第14回	自分の作品をプレゼンテーションする(2)	自分のプレゼンテーションができるようになる。	復習 50分、予習 50分
第15回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテーマが内省できる。	復習 50分、予習 50分

科目名 Subject	美容関係法規 Laws and Regulations for Beauty Matter		教員名	渡辺 演久	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	△	—
科目の概要	美容師になるためには、必要な関係法規・制度を理解し、国家試験に合格する必要がある。この講義では、社会における法の役割、衛生法規の概要、衛生行政の概要をまず理解し、美容師法の理解へとつなげる。美容師法では、美容師試験や免許と登録をはじめとして、美容師が必ず知っておかなければならない諸規定について学ぶ。そして、行政処分や罰則について理解し、美容師の社会的責任の重さを理解する。また美容師法以外の関連法規についても知識を深めるものとする。				
授業の目標	法制度の概要を理解したうえで、わが国の衛生行政の仕組み、美容師法・施行令・施行規則について理解を深めるとともに、美容師法の諸規定を説明できるようになる。さらに、顧客に対して責任を持って美容の業を行うという職業意識も身につける。				
時間外学習 (予習・復習)	シラバスを参照し、「関係法規・制度」の教科書の該当ページを読んでおく(予習 30分) 授業の板書を参考にしながら配布された練習問題をもう一度解答すること(復習 30分)				
教科書・教材	教科書	『関係法規・制度』日本理容美容教育センター 2018年			
	教材	教員作成プリント			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	平常点 10%、期末試験 90%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	法制度の概要(1) (法の役割)	法の役割について説明できるようになる	教科書 8~10 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第2回	法制度の概要(2) (憲法・法律・命令・自治法規)	憲法、法律、命令、自治法規について説明できるようになる。	教科書 11~14 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第3回	衛生行政の概要	衛生行政の意義・役割について説明できるようになる。	教科書 15~29 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第4回	衛生行政の種類と行政機関 (保健所の役割と機構)	保健所について説明できるようになる	教科書 30~36 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第5回	美容師法 (美容師法の目的と構成)	美容師法がなぜ存在するのか説明できるようになる	教科書 38~41 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第6回	用語の定義	美容の業に必要な用語を説明できるようになる	教科書 42~51 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第7回	美容師(1) (美容師試験、免許と登録)	試験のしくみと免許のしくみについて説明できるようになる。	教科書 52~75、83~87 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第8回	美容師(2) (管理美容師、美容師の義務)	管理美容師と美容師の義務について説明できるようになる。	教科書 76~83、89~93 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第9回	美容所(1) (美容所の開設)	美容所の開設手続について説明できるようになる。	教科書 94~103 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第10回	美容所(2) (開設者の衛生措置)	開設者の衛生措置について説明できるようになる。	教科書 104~109 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第11回	美容所外営業・立入検査	美容所外営業と保健所の立入検査について説明できるようになる。	教科書 109~115 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第12回	行政処分・罰則	行政処分と罰則について説明できるようになる。	教科書 116~127 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第13回	関連法規	美容師法に関連する法規について説明できるようになる。	教科書 130~138 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第14回	問題演習(1) (法の役割から管理美容師)	第1回から第8回までの知識を問題演習に応用できるようになる。	教科書 8~93 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)
第15回	問題演習(2) (開設から関連法規)	第9回から第13回までの知識を問題演習に応用できるようになる。	教科書 94~138 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)

科目名 Subject	美容衛生管理演習 I Beauty Sanitation Practice I		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	△	—
科目の概要	公衆衛生・環境衛生・感染症など複合的な観点から美容師、美容所における衛生管理の重要性と必要性を学び、消毒実験などのをふまえ美容師が自分自身とお客様に安全な技術を、安心して施術できるようになるために必要な知識・技術学んで行く。				
授業の目標	美容師法における衛生管理技術と消毒技術、美容室においての衛生管理業務を行う上で必要な知識・技術を習得するしその重要性を理解する。 美容師国家試験（筆記）合格できるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	授業内にて、次回講義までの予習用・復習用の課題テキストを配布 予習復習は概ね 60 分程度を想定しているが、内容によって 90 分以上かかる回もある。時間では無く、内容の理解を念頭に学習すること。				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	授業態度 20%、提出物 10%、期末試験 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	遅刻・欠席は原則認めません。 授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 公衆衛生の意義と必要性、歴史を知ろう	授業の流れを把握する 公衆衛生の必要性と意味を理解する。	衛生業背にまつわる専門用語をまとめたテキストを使用し、今後の授業内容の理解度を高める。
第2回	予防医学と母子保健の統計を学び公衆衛生水準の基本を知ろう	母子保健の推移統計や公衆衛生水準の比率を知り、美容師と公衆衛生の深い関わりを理解する。	公衆衛生の専門用語と医学・保健の統計に関する数字の予復習テキスト
第3回	成人・高齢者保健といろんな病気の死亡率を知ろう	成人・高齢者保健を理解するし、生活習慣病・各病気による死亡統計を理解する。	成人・高齢者保健と死亡率・死亡理由の病名と数字の予復習用テキスト
第4回	精神保健と福祉、医療介護、介護保険制度とは？	精神保健、医療保険制度の現状と基礎知識を理解する。	成人・高齢者保健と精神保健・介護保健の制度と対象者の仕組みをまとめたテキストを使用
第5回	栄養素とその働き、日々の栄養摂取状況を知ろう。	各種栄養素の役割と必要性を理解し、栄養不足による病気も理解する。	栄養素の人体への影響と、病気の関係性の復習と環境の人体影響の予習テキストを使用
第6回	環境衛生とは？ 空気・水・光と健康の関係って？	人に影響をおよぼす各種環境要因を学び、衣食住と健康を理解する。	人体へ環境がおよぼす影響と要因をまとめたテキストを使用
第7回	ゴミ問題と衛生害虫、美容室での衛生対策は	上下水道と廃棄物、美容師法にかかわりの深い害虫を知り、美容所の環境衛生を理解する。	公衆衛生・衛生行政の総復習問題テキストを使用
第8回	感染症とは？ 人と感染症の歴史と各種病気の分類方法を知る。	感染症発見の歴史と各病気の重症度、法律上の分類を理解する。	各感染症の分類と、病気の特徴を復習
第9回	美容師法に関係の深い感染症とは？ウィルスや菌の違い	感染症の分類のより細かな分け方と原因となる病原体の特徴を理解する。	感染症学に必要な基礎用語、専門用語を予復習テキストで理解する
第10回	感染症の発生原因を知り予防法を学ぼう！	感染症発生要因と人体の病状の違いを学び、免疫と予防接種の意味を理解する。	病原性微生物の分類理由と特徴を理解する
第11回	感染症予防と各感染症の感染経路を学ぼう！	空気、飛沫・飲食物・血液感染の違いを知り正しい知識を理解する。	予防医学・免疫学、それにまつわる各種感染経路の復習テキスト
第12回	美容業務と消毒の関係。美容道具・美容器具ごとの消毒方法	消毒の意義、消毒時の注意、理的・化学的消毒方法の違いを理解する	感染症の総復習問題テキスト
第13回	消毒薬の希釈法を学ぶ。	各種化学的消毒法を知り、その薬液調整方法を習得する。	各消毒方法の特徴の復習と消毒薬の希釈計算問題で計算式を覚える
第14回	消毒実験！	薬液を実際に調合し美容器具や手指を消毒をする。	実験レポート作成
第15回	実験結果！ 衛生管理技術まとめ	実験の結果を検証・反省し美容師法・美容所における消毒の重要性を理解する。	衛生技術と消毒法の総復習問題テキストを使用

科目名 Subject	美容衛生管理演習Ⅱ Beauty Sanitation PracticeⅡ		教員名	相馬 勉	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	△	—
科目の概要	美容業はいろいろな情報交換の場所であるため、地域の公衆衛生の維持と増進を図る必要がある。これらを行うための正確な情報や知識をより美容室に即した方法で学習していく。また、そこで得た事が美容師国家試験にもつながっていきます。				
授業の目標	美容器具や人頭に対して衛生上の正しい取り扱いを行えるようになると共に、美容室内での環境衛生の目的でもある環境悪条件の除去や健康的な環境作りができるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の科目で下記を行う 予習：次回行う課題の技術練習や情報収集を行う。30分 復習：授業内で板書したものをまとめ、学んだ技術を反復練習する。30分				
教科書・教材	教科書	「美容技術理論 1.2」「衛生管理」日本理容美容教育センター編			
	教材	筆記用具、配布プリント			
	使用設備・備品	美容実習室			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物 20%、期末試験（実技） 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	遅刻、欠席は原則認めません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	授業の流れを知り、毎回の目標を確認できるようになる。	
第2回	用具・衛生上の取り扱い(1) 用具別の使用方法での汚染を学ぶ	どのような行動で用具が汚染されるのを知り、予防できるようになる。	
第3回	用具・衛生上の取り扱い(2) 美容用具の種類によつての適切な使用方法を学ぶ	美容用具の種類によつての適切な使用方法を説明できる。	
第4回	用具・衛生上の取り扱い(3) 衛生面での美容用具の取り扱い方を遵守する方法を学ぶ	衛生面での美容用具の取り扱い方を遵守する方法を学ぶ。	
第5回	理容所・美容所における消毒の原則を学ぶ	教室内の衛生を維持するために必要な知識を説明できる。	
第6回	理容・美容器具の消毒法(1) 皮膚に接する器具類の消毒原則を学ぶ	皮膚に接する器具類の消毒原則を行うことができるようになる。	
第7回	理容・美容器具の消毒法(2) 消毒の前処理について学ぶ	消毒を行う前処理について説明できるようになる。	
第8回	理容・美容器具の消毒法(3) 消毒方法の違いを学ぶ	各道具類による消毒方法の違いを知り、実践できるようになる。	
第9回	理容・美容器具の消毒法(4) その他の物の消毒方法を学ぶ	その他の物の消毒方法を説明することができるようになる。	
第10回	理容所・美容所の消毒の現状(1) 過去の検査報告を学ぶ	過去の検査報告を踏まえた上で、道具の汚染度を推測することができる。	
第11回	理容所・美容所の消毒の現状(2) 消毒の原則を学ぶ	消毒する際に必要な心構えを理解することができる。	
第12回	清潔保持と清掃を学ぶ	清掃道具の扱い方や不潔な場所を素早く発見できるようになる。	
第13回	清掃(整理整頓)を学ぶ	教室内は勿論、自身の使用道具の清掃と整理整頓を行うことができる。	
第14回	振り返り、知識の確認を行う	今まで行ってきた授業内の衛生知識を振り返り、知識を定着することができる。	
第15回	まとめを行う	衛生面での美容用具の取り扱い方を遵守できるようになる。	

科目名 Subject	保健 I Public Health I		教員名	坂口 佐代子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	△	△
科目の概要	美容師が毛髪、肌、爪の容貌を整えるために、その科学的基礎知識を持つことは必要不可欠である。うわべだけを整えるのは簡単であるが、その根本を整えるために知っておくべき知識を習得し真の美容を習得するために、皮膚の構造、皮膚の役割、皮膚の栄養、病気、感染症を学ぶ。また、皮膚と毛髪、爪の関係を知り総合的な美容とは何かを学ぶ。				
授業の目標	皮膚の構造を理解できるようになる。皮膚と毛髪、爪の関連性を理解できるようになる。皮膚の役割を理解できるようになる。皮膚の真の栄養とは何かを知ることによって自身の食生活、生活習慣を改めるきっかけを作ることができる。皮膚の状態によって健康状態を知ることができるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	最終的に皮膚の真の健康を理解できるように毎回授業内でわかりやすくその回のポイントを説明し、次回の授業開始時にそのポイントを明記したレポートを提出させる。レポートは開始時以外は受け取らない。レポート作成に毎回 50 分程度最終のレポートに 120 分程度想定しています。				
教科書・教材	教科書	美容保健 日本理美容教育センター編			
	教材	必要に応じて配布			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	毎回小テストを行います。受講態度も評価します。真の皮膚の健康というタイトルでレポートを作成してもらい評価の対象にします。毎回のレポート 20%、態度 20%、テスト 60%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	特にありません				
本科目履修と 関連する資格	資格名				

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション。皮膚の表面、皮膚の断面、表皮	学生がこの授業の目的を理解している。皮膚の断面が理解できている。	皮膚の構造を部位の名前を覚えながら知る。
第2回	表皮と真皮の境、真皮、皮下組織、皮膚の部位差	表皮、真皮、皮下組織の構造を理解している。	皮膚に中の構造の名前を覚える。
第3回	毛、脂腺、汗腺、爪	爪、脂腺、汗腺の役割と基本的な知識を理解している。	毛の構造、役割、成長の段階を知り覚える。
第4回	皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経	皮膚の血管の名前、神経に関して理解している。	皮膚に関係する血管の名前や神経を理解し覚える。
第5回	分泌、排泄、呼吸、貯蔵、免疫解毒作用等、爪と毛の働き	皮膚の働きを理解している。	皮膚の働きを覚える。
第6回	皮膚と全身状態、皮膚と精神状態、皮膚と栄養、皮膚と体内病変	皮膚の状態から健康面や精神状態がわかるようになることを理解する。	皮膚の栄養について自分なりの考えを確立できるようにする。
第7回	皮膚附属器官とホルモン、皮膚の保護と手入れ	皮膚に関連するホルモンの仕組みを理解する。	皮膚、毛の真の美しさについて自分なりの考えを確立させる。
第8回	毛、爪の保護と手入れ、子どもたちのおしゃれによる皮膚トラブル	真にの皮膚の健康を知る。	自分や家族にとって、自分が親になったときに子どもの皮膚の健康に良くないことは何かを考える。
第9回	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因と治療法	皮膚の異常を知る。	皮膚の病気を覚える。漢字を読めるようにする。
第10回	皮膚炎と湿疹、薬疹、蕁麻疹	皮膚炎の原因を理解する。	皮膚の病気を覚える。漢字を読めるようにする。
第11回	温熱・寒冷による皮膚疾患、角化異常による皮膚湿疹	皮膚に異常をもたらす原因を知る。	熱傷の種類を理解し覚える。
第12回	色素異常及び分泌異常による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患	感染症から起こる皮膚疾患を知る。	感染症とは何か、美容師として感染症がどんな危険な事かを理解する。感染症の種類を覚える。
第13回	化膿菌、ウイルス、真菌、動物による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防	感染症と皮膚の疾患の関連を理解する。	感染症とは何か、美容師として感染症がどんな危険な事かを理解する。感染症の種類を覚える。
第14回	毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍	毛や爪におこる疾患と腫瘍を知る。	毛の病気を知り覚える。爪の病気を知り覚える。
第15回	まとめ	1回から14回までの授業内容を総合的に理解する。	総合的に理解する。

科目名 Subject	毛髪健康科学 Science of Healthy Hair		教員名	相馬 勉	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	△	△	△
科目の概要	毛髪は皮膚の付属器官である。それ故に、毛髪を健康に維持するためには、単に毛髪のケアのみならず、頭皮(表面およびその内部)の環境も非常に重要となる。ここでは、それらに関する科学的知識を、美容師としての必要性を理解しながら学習する。				
授業の目標	美容師は、お客様の頭皮や毛髪の状態を観察し、その方に適した方法で施術を行わなければならない。正しい診断をするためには、皮膚やその付属器官(毛髪等)における科学的知識が必要不可欠となる。本授業においては、それらの知識を美容に関連付けながら学習し、理解を深める。				
時間外学習 (予習・復習)	授業内にて、次回講義までの復習用・予習用の課題テキストを配布(70分程度) テキストは授業内容の約80%を網羅する復習用課題と次回授業内容分の約20%を含んだ予習用課題で構成する 予習には教科書以外に美容雑誌等を使用可				
教科書・教材	教科書	美容保健			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献	しんびよう、ヘアモード、marcel等美容雑誌			
評価方法	授業態度、小テスト、期末試験				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	遅刻、欠席は原則認めません。また授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科履修と 関連する資格	資格名	美容師免許、ヘアケアマイスター(プライマリーコース)			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 毛髪科学理論とは？	毛髪の、人種・性別による差、特徴を理解する。	毛髪科学の専門用語をまとめたテキストを使用し、今後の授業内容の理解度を上げる
第2回	前回の復習&毛の構造、その特性や働きはなにか？	前回の内容の理解を深め、毛髪の役割や働きを理解する。	毛髪構造に重点を置いたテキストを図まで作成する、引き続き専門用語の復習問題含
第3回	前回の復習&毛髪の特性、毛の型と毛の生長周期を学ぶ	前回の内容の理解を深め、小児の毛、大人の毛の違い、抜け毛について理解する。	毛髪科学の1~3回の総復習テキストを使用し、再確認と、今後の授業の基礎を固める
第4回	前回の復習&毛の型の変化と毛の生長についての興味を深めよう。	前回の内容の理解を深め、毛の生長と変化、薬物・化学物質など外的要因の関係を知る。	ケミカルの知識と専門用語に対応できるオリジナルテキストを使用
第5回	前回の復習&毛の性状、構造、対水、対熱反応を知ろう。	前回の内容の理解を深め、毛の性状・タンパク質の構造と反応について理解する。	毛髪科学のより専門的な内容と科学的变化の確認用テキストとタンパク質構造のまとめ資料配布
第6回	前回の復習をし、引き続きタンパク質構造の理解と、毛髪の特異性反応とは？	前回の内容を理解したうえで、タンパク質の薬剤による変化とダメージを知る。	美容業務における主要薬剤の成分をまとめたオリジナル資料を使用し薬剤知識を深めておく
第7回	シャンプー剤・トリートメント剤・スカルプトリートメント剤の種類と分類。シリコンの良し悪しとは？	前回の内容を復習し、シャンプー・トリートメントの効果とそれによる頭皮環境、育毛効果の影響を知る。	美容業務における主要薬剤の復習+需要の高いシャンプー剤の特徴の復習資料で現行の傾向を知る
第8回	毛髪科学理論 実践編1 毛髪の機能と毛髪の構造を徹底分析！	毛髪の構造と詳細なデータをより深くサロンベースで理解する。	前半授業内容の総復習テキストと、より緻密な専門用語集で予復習をする
第9回	毛髪科学理論 実践編2 多様性に対応！カラーの知識	染毛剤による毛髪、皮膚への影響、メラニンの構造を理解し、綺麗な発色の仕組みを理解する。	カラー剤の知識と現在の傾向をより深く理解できるテキストを使用
第10回	毛髪科学理論 実践編3 形状記憶？パーマ剤の知識	パーマ剤の毛髪と皮膚への影響、結合組織のダメージコントロールを理論的に理解する。	パーマの種類と技術内容により、変化する毛髪成分を複雑さを理解するテキストを使用
第11回	潤い？ツヤ？ハリ&コシ？ トリートメントの違いを知ろう。	施術内容にあわせたケアの方法、前後処理剤選定の効果的な使用方法を実践レベルで理解する。	カラー剤とパーマ剤の髪に及ぼす変化と効果の復習
第12回	頭皮と頭毛の手入れ法と、皮膚のトラブルと育毛メカニズムを知ろう。	頭皮頭毛の正しい手入れ法と毛と皮膚疾患の種類と特徴、その原因などを学びお客様にアドバイスできる	頭皮、頭毛の知識を説明できる用語集を使用し、現場で活かせる知識を得る
第13回	頭皮&毛髪診断と目的別カウンセリングなど。	現状の毛髪の状況（髪質・クセ毛・ダメージなど）を見極め方や前・後処理の目的を知る。	薬、熱、クセの違いのまとめ問題集を使用
第14回	ヘアケア剤の多様性について知ろう。	界面活性剤・シャンプー剤・トリートメント剤・スタイリング剤の成分と働き効果を知る。	ヘアケアの知識と応用技術の理解を深める問題集を使用
第15回	授業の振り返り	ヘアケアマイスター試験に必要な箇所の再確認し、資格取得に向けて流れを理解する。	15回の授業のまとめテキストと総復習

科目名 Subject	美容と栄養 Beauty and Nutrition		教員名	木村 康一	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	△	△
科目の概要	美容の基本は心身の健康にある。その健康の維持・増進はもとより、疾病の予防や治療においても栄養の果たす役割はきわめて大きい。本科目では、健康の概念、各栄養素の食品中の分布・構造やその働きを学ぶほか、各栄養素の消化、吸収、代謝等を理解することで、美容における栄養の重要性を教授する。				
授業の目標	本科目で習得した栄養に関する知識をもって、自分自身の食生活を見直す材料とすることができるようになるとともに、今後の社会生活の中で、他者に対しても活用し応用できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	毎時ごとの復習及び次回の内容に関する予習を合わせ、1時間程度行う。				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	定期試験の結果、60点以上の者に単位を認定する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	講義の妨げとなる行為をおこなった場合は、退出を命じる。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、概要を知る。	次回の予習
第2回	健康の捉え方	健康の定義やヘルスプロモーションについて理解する。	今回の復習と次回の予習
第3回	生活習慣病	我が国における疾病構造を知る。	今回の復習と次回の予習
第4回	栄養学の基礎知識	食品成分の分類と5大栄養素を知る。	今回の復習と次回の予習
第5回	炭水化物	炭水化物の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第6回	脂質	脂質の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第7回	たんぱく質	たんぱく質の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第8回	無機質	無機質の種類とそれぞれの役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第9回	ビタミン	ビタミンの種類とそれぞれの役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第10回	水	水の体内で果たす役割を知る。	今回の復習と次回の予習
第11回	食事摂取量と基準	日本人の食事摂取量や食事摂取基準を知る。	今回の復習と次回の予習
第12回	消化吸収	それぞれの栄養素の消化吸収のされ方を知る。	今回の復習と次回の予習
第13回	栄養学からみた食品	食品6群分類、各食品の栄養学的特徴を知る。	今回の復習と次回の予習
第14回	美齢と栄養	エイジングと栄養の関係を知る。	今回の復習と次回の予習
第15回	肥満	肥満の分類や判定方法を知る。	今回の復習と全体のまとめ

科目名 Subject	化粧品化学 Cosmetic Chemistry		教員名	橋 友理香	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	△	△	△
科目の概要	<p>化粧品は、美容技術・美容の業務を行う上で欠くことができないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものである。化粧品を安全かつ効果的に選択するには、化粧品の正確な科学的知識と適正な取り扱い方法を熟知しておく必要がある。</p> <p>本科目では、化粧品を理解する上で必要な基礎化学、化粧品に含まれる主要な成分とその機能、取扱上の注意について学ぶ。また、化粧品に関わる調査学習とディベートを主としたグループワークを実施する。これにより、化粧品に関する知識を深め、課題解決のための思考力・表現力を養う。</p>				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>化粧品の科学的知識と取り扱い方法に関する問いに正しく回答することが出来る。</li> <li>化粧品に関する課題を発見し解決するために、様々な媒体から信頼できる情報を収集し、自身の考えをまとめて述べる事が出来る。</li> </ul>				
時間外学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書あるいは配布資料を読み、授業内容を完全に理解する。</li> <li>小テストの問題は全問正解できるようになるまで反復練習する。</li> <li>図書やインターネットを用いて調査学習を行う。</li> </ul>				
教科書・教材	教科書	(書籍名) 化粧品化学 (著者・発行) 公益社団法人日本理容美容教育センター、(2018年)			
	教材	ipadにデータ配信またはプリントを配布			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	<p>定期試験の得点で評価する(100点)。          その他、発表とレポートの課題について、以下の基準で最大各10点を加算する。          (1) 正確に調査してある(+5点)、(2) 自身の考えを明確に表現できている(+5点)。          ただし、総合評価の最高点は100点とする。</p>				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>ipad(充電済)と教科書を必ず持参してください。</li> <li>クラス全体への連絡はipad(classroom)に配信します。</li> <li>担当教員への連絡方法 E-mail: yurika.hashi@yamano.ac.jp</li> </ul>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	本科目の概要を知り、学び方を実現できる。	教科書の通読 (30分) 調査学習・資料作成 (30分)
第2回	物質の構造	物質の構造と化学反応の基礎を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第3回	溶液とコロイド	様々な溶液の状態を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第4回	酸・塩基・塩酸化還元反応	酸、塩基、塩、酸化還元反応を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第5回	有機化合物(1) 低分子化合物	低分子の有機化合物の種類と性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第6回	有機化合物(2) 高分子化合物	高分子の有機化合物の種類と性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第7回	前半のまとめと解説	1～6回講義の重要事項を記憶し、問いに正しく解答できる。	配布資料の復習 (30分) 調査学習・資料作成 (30分)
第8回	香粧品の社会的意義と品質特性	香粧品の社会的意義と品質特性を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第9回	香粧品の規制と取り扱い	香粧品を安全かつ合理的に取り扱うことができる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第10回	香粧品の原料(1) 水性原料と油性原料、界面活性剤	水性原料と油性原料について説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第11回	香粧品の原料(2) 界面活性剤、高分子化合物、色材	界面活性剤、高分子化合物、色材について説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第12回	香粧品の原料(3) 香料・その他の配合成分	香料・その他の配合成分について説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第13回	香粧品と美齢学を考える	香粧品と美齢学を関連づけて自身の考えをまとめ説明することができる。	レポート作成 (30分) 小テストの復習 (30分)
第14回	まとめと解説	全講義の重要事項を再度確認し、具体的に説明できる。	レポート作成 (60分)
第15回	課題発見・解決に関する演習	香粧品における課題を発見し、習得した知識を適用して問いに対する回答を導ける。	課題設定と解決の宿題 (60分)

科目名 Subject	ファッション文化史 History of Fashion and Art Culture		教員名	青木 和子	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	○	○	○
科目の概要	ひとは自分を飾らないではいけない。ひとは流行を意識しないで生きることができない。この科目では、本学の「美道五大原則」の全ての項目や「美麗学」を意識した講義を基軸に、人が「何か」を身体につけた時代から今の時代に至るまでの日本と西洋のファッション文化史を学ぶことにより「美」とは「文化」とは何かを考える。				
授業の目標	上の概要を踏まえ「ファッション文化」が概観でき、美容産業で活躍できるレベルに達している。「美容文化論」の美容師国家試験合格のレベルに達している。ファッション文化を自分なりの見解で説明できる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習：授業では、教科書の内容が理解されていることを前提に説明を開始する。 復習：本授業は座学であるため、授業の復習は次回の授業へ向けて重要なものとなる。各授業後、1時間程度の復習を行うことが必要である。				
教科書・教材	教科書	「美容文化論」日本理美容教育センター			
	教材	学生全員に配布の iPad、配布プリント、			
	使用設備・備品	プロジェクター 他			
	参考文献	授業時に説明			
評価方法	毎時の授業態度及び小テスト 50%、レポート 25%、試験 25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と関連する資格	資格名	フォーマルスペシャリスト・ブロンズライセンス			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	日本編 縄文時代から古代	縄文時代から古代までのファッション文化史が概観できるようになる	
第2回	日本編 中世から近世Ⅰ	中世から近世Ⅰまでのファッション文化史が概観できる	
第3回	日本編 近世Ⅱ	近世Ⅱのファッション文化史が概観できる	
第4回	日本編 近代	近代のファッション文化史が概観できる	
第5回	日本編 現代Ⅰから現代Ⅱ	現代Ⅰから現代Ⅱまでのファッション文化史が概観できる	
第6回	日本編 現代Ⅲから現代Ⅳ	現代Ⅲから現代Ⅳまでのファッション文化史が概観できる	
第7回	西洋編 古代エジプトから中世ヨーロッパ	古代エジプトから中世ヨーロッパまでのファッション文化史が概観できる	
第8回	西洋編 近世Ⅰから近代Ⅰ	近世Ⅰから近代Ⅰまでのファッション文化史が概観できる	
第9回	西洋編 近代Ⅱから現代Ⅲ	近代Ⅱから現代Ⅲまでのファッション文化史が概観できる	
第10回	西洋編 現代Ⅳから現代Ⅶ	現代Ⅳから現代Ⅶまでのファッション文化史が概観できる	
第11回	復習Ⅰ	ファッション文化史・日本編が概観できる	
第12回	復習Ⅱ	ファッション文化史・西洋編が概観できる	
第13回	復習Ⅲ	ファッション文化史が概観できる	
第14回	総復習Ⅰ	ファッション文化史・日本編が客観的に理解できる	
第15回	総復習Ⅱ	ファッション文化史・西洋編が客観的に理解できる	

科目名 Subject	美容芸術文化史 History of Aesthetics and Art Culture		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	○	△	△
科目の概要	<p>美容の文化の歴史を学びます。 美容文化は、人の一生において大きな役割を担います。 各時代が作り出す美容はどのようなものだったのか。 西洋と日本のヘアスタイル、ファッション、メイクアップをはじめとする美容の文化を、美的感覚の変遷とその文化の理解を深めながら、美的教養を備えた人を目指し、多彩な芸術作品を見聞し表現することで美的感性を養います。</p>				
授業の目標	<p>西洋・日本のヘアスタイル、ファッション、メイクアップなどの美的原理、あり方などを学びます。 各時代の様式美を理解する過程において、自らの手で表現しながら発想力をも身に付け、国際人として活躍できるよう、美齢学の一部として知識を習得することを目標とします。 また、国家試験筆記科目として合格のための対策も行います。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>タブレットに毎回資料が配られます。授業前に各時代の概要を確認して授業に臨みましょう。(約60分程度) また、授業後は受講した美容文化に関する書籍、文献をタブレットや本学図書館などで調べ(約60分程度)、展覧会やギャラリー、他大学での研究会、芸術鑑賞等、自主的に学ぶことを推奨します。</p>				
教科書・教材	教科書	美容文化論 ((公財) 日本理容美容教育センター 発行)			
	教材	適宜プリントを配布します。			
	使用設備・備品	スライド、タブレット等			
	参考文献				
評価方法	小テスト、課題レポート、授業中の提出物、授業に対する意欲を総合的に評価します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業の出席状況・授業態度を重視します。				
本科目履修と関連する資格	資格名	美容師免許			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	西洋Ⅰ（古代）の文化を学ぶ	古代エジプト、ギリシア、ローマの時代様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第2回	西洋Ⅱ（中世）の文化を学ぶ	ビザンティン帝国、中世の時代様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第3回	西洋Ⅲ（近世）の文化を学ぶ	ルネサンス（イタリア・イギリス）、バロック、ロココの時代様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第4回	西洋Ⅳ（近代）の文化を学ぶ	フランス革命期、19世紀、20世紀初頭の時代様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第5回	西洋Ⅴ（現代）の文化を学ぶ	第一次世界大戦後、20世紀、2000年代の時代様式と美容のあり方を理解する	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第6回	まとめ 小テスト	西洋を振り返り、それらをキーワードとして、今後の美容のあり方を推察し、表現できるようにする。	事前にタブレットや資料で授業内容を振り返る。
第7回	日本Ⅰ（大陸文化・古代）の文化を学ぶ	大陸文化がどのようにして日本の結髪・風俗文化に影響を与えたかを理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第8回	日本Ⅱ（中世）の文化を学ぶ	飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第9回	日本Ⅲ（近世）の文化を学ぶ	戦国・安土桃山・江戸時代初期の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第10回	日本Ⅳ（近世）の文化を学ぶ	江戸時代後期の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第11回	日本Ⅴ（近・現代）の文化を学ぶ	明治以降の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第12回	まとめ 小テスト	日本における結髪風俗文化を振り返り、それらをキーワードとして、日本の伝統文化を表現できるようにする。	事前にタブレットや資料で授業内容を振り返る。
第13回	ポートフォリオ制作	西洋および日本文化への理解を基に、様式美を美齢学の一部として考察し、ポートフォリオにまとめる。	事前にタブレットや資料で授業内容を振り返り、作品制作に臨む。
第14回	プレゼンテーション	作成したポートフォリオのプレゼンテーションを通して、学生間で表現や作品についての相互評価を行う。	作成した作品をもとに、発表内容を調整する。
第15回	現代の日本髪について	現代の日本髪の展示から日本文化の理解を深める。	事前にタブレットで授業内容を確認。終了後は文化史を振り返る。

科目名 Subject	美容技術理論 I Hairstyling Theory I		教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	△
科目の概要	美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。 ここでは技術を施す際の作業姿勢や美容用具などをはじめとした基礎理論を学び、理解を深める。				
授業の目標	美容技術とは人体に施す手技であり、時には取り扱いに特に注意を要する薬剤も使用する。 施術を円滑に行うため、また施術の際の事故を未然に防ぐため、基礎的理論をしっかり会得する。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ内容を復習し、理論ノートにまとめる。 各回の復習・予習は60分～90分程度行い、次回の授業につなげる。				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1、2』 日本理容美容センター			
	教材	適宜、資料配布			
	使用設備・備品	プロジェクター			
	参考文献				
評価方法	授業態度 (10%)、提出物・ノートまとめ (10%)、期末試験 (80%)				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 序章：美容技術理論を学ぶにあたって 美容理論・技術について	正しい作業姿勢・美容技術に必要な人体各部の名称を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 序章の復習と、次回学ぶ1章：美容用具についての予習
第2回	1章：美容用具① 美容の道具について	美容技術に必要な用具類の名称や使用方法を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 1章：美容用具についての復習と次回学ぶ美容道具・器具についての予習
第3回	1章：美容用具② 美容の器具・道具について	美容技術に必要な用具類の名称や使用方法を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 1章：美容用具についての復習と次回学ぶ3章：ヘアカッティングについての予習
第4回	3章：ヘアカッティング① カッティング道具の扱い方	シザーとレザーの扱い方について理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 3章：ヘアカッティングについての復習と次回学ぶ施術時の姿勢についての予習
第5回	3章：ヘアカッティング② 施術時の姿勢について	ヘアカッティングの正しい姿勢について理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 3章：ヘアカッティングについての復習と次回学ぶブロッキングの重要性を予習
第6回	3章：ヘアカッティング③ ブロッキングの重要性	ブロッキング、ヘアカッティングの基礎理論について理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 3章：ヘアカッティングについての復習と次回学ぶカット技法の種類について予習
第7回	3章：ヘアカッティング④ カット技法の種類	カット技法の種類について理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 3章：ヘアカッティングについての復習と次回学ぶワインディング技術の予習
第8回	4章：ワインディング① ワインディング技術の基本	ブロッキング、ベース、コーミング、ペーパーの使用方法について理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 4章：ワインディングについての復習と次回学ぶワインディング上巻きについて
第9回	4章：ワインディング② ワインディング上巻きについて	ベースのスライス、コーミング、上巻きについて理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 4章：ワインディングについての復習と次回学ぶワインディング下巻きについて
第10回	4章：ワインディング③ ワインディング下巻きについて	ベースのスライス、コーミング、下巻きについて理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 4章：ワインディングについての復習と次回学ぶワインディング技術の注意ポイントについて予習
第11回	4章：ワインディング④ ワインディング技術の注意ポイントについて	セクションごとのワインディングポイントについて理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 4章：ワインディングについての復習と次回学ぶワインディングの技術理論について予習
第12回	4章：ワインディング⑤ ワインディングの技術理論について	ワインディング技術理論を復習し、知識の定着度を把握し、説明することが出来る。	美容技術理論1) 4章：ワインディングについての復習と次回学ぶ2章：シャンプーング総論について予習
第13回	2章：シャンプーング① シャンプーング総論について	シャンプーングの目的を理解し、シャンプー剤の種類について理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 2章：シャンプーングについての復習と次回学ぶシャンプーの様々な手法について予習
第14回	2章：シャンプーング② シャンプーングの様々な手法について	シャンプーングの際の注意点や手法について理解し説明することが出来る。	美容技術理論1) 2章：シャンプーングについての復習と次回学ぶこれまで学習した内容について予習
第15回	総括	今期に学んだ全章を確認し知識を定着させ、理解を深め今後の授業に応用することが出来る	美容技術理論1の教科書にて今期学んだ全ての総復習

科目名 Subject	美容技術理論Ⅱ Hairstyling Theory II		教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	△
科目の概要	美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。ここでは技術を施す際の方法やプロセスなどをはじめとした基礎理論を学び、理解を深める。				
授業の目標	美容技術とは人体に施す手技であり、時には取り扱いに特に注意を要する薬剤も使用する。施術を円滑に行うため、また施術の際の事故を未然に防ぐため、基礎的理論をしっかり会得する。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ内容を復習し、理論ノートにまとめる。 各回の復習・予習は60分～90分程度行い、次回の授業につなげる。				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1. 2』 日本理容美容教育センター			
	教材	適宜、資料配布			
	使用設備・備品	プロジェクター			
	参考文献				
評価方法	授業態度 (10%)、提出物・ノートまとめ (10%)、期末試験 (80%)				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	4章：パーマントウェービング① 理論、歴史と現在について	パーマントウェービング理論とパーマントウェーブの歴史と現在について理解し説明することが出来る	美容技術理論1)4章：パーマントウェービング①の復習と、次回学ぶパーマ剤の分類について予習
第2回	4章：パーマントウェービング② パーマ剤の分類について	パーマ剤の分類、パーマ剤に関する注意事項について理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)4章：パーマントウェービング②の復習と、次回学ぶパーマントウェーブ技術理論
第3回	4章：パーマントウェービング③ パーマントウェーブ技術理論	パーマントウェーブの技術プロセスを理解し、様々なバリエーションを理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)4章：パーマントウェービング③の復習と、次回学ぶ5章：ヘアセッティングについての予習
第4回	5章：ヘアセッティング① ヘアセッティングとは	ヘアセッティングについての基礎的要素を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)5章：ヘアセッティング①の復習と、次回学ぶヘアパーティング、ヘアシェーピングの予習
第5回	5章：ヘアセッティング② ヘアパーティング、ヘアシェーピングについて	ヘアパーティング、ヘアシェーピングの名称、種類を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)5章：ヘアセッティング②の復習と、次回学ぶヘアカーリングについて予習
第6回	5章：ヘアセッティング③ ヘアカーリングについて	ヘアカーリングについて、名称・種類を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)5章：ヘアセッティング③の復習と、次回学ぶヘアウェービングについて予習
第7回	5章：ヘアセッティング④ ヘアウェービングについて	ヘアウェービングについて、名称・種類を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)5章：ヘアセッティング④の復習と、次回学ぶローラーカーリングの予習
第8回	5章：ヘアセッティング⑤ ローラーカーリングについて	ローラーカーリングの基礎技術について、理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)ヘアセッティング⑤の復習と、次回学ぶブロードライについて復習
第9回	5章：ヘアセッティング⑥ ブロードライについて	ブロードライの基礎技術について、理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)5章：ヘアセッティング⑥の復習と、次回学ぶアイロンセッティングについて予習
第10回	5章：ヘアセッティング⑦ アイロンセッティングについて	アイロンセッティングの基礎技術について、理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)5章：ヘアセッティング⑦の復習と、次回学ぶ
第11回	5章：ヘアセッティング⑧ ウィッグとヘアピースについて	ウィッグとヘアピースの種類、手入れ法を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)5章：ヘアセッティング⑧の復習と、次回学ぶヘアカラーリングについて予習
第12回	6章：ヘアカラーリング① ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、タイプ別特徴について	ヘアカラーリング概論、各種カラー剤の特徴を理解し説明することが出来る。	美容技術理論1)6章：ヘアカラーリング①の復習と、次回学ぶ染毛のメカニズムについて予習
第13回	6章：ヘアカラーリング② 染毛のメカニズムについて	染毛のメカニズム、毛髪のレベルとアンダートーンについて知る。	美容技術理論1)6章：ヘアカラーリング②の復習と、次回学ぶ各種ヘアカラーリングの技術理論について予習
第14回	6章：ヘアカラーリング③ パッチテスト、各種ヘアカラーリングの技術理論	パッチテストの必要性、染毛剤使用時の注意事項について知る。	美容技術理論1)6章：ヘアカラーリング③についての復習と次回学ぶこれまで学習した内容について予習
第15回	総括	今期に学んだ全章を確認し知識を定着させ、理解を深め今後の授業に応用することが出来る	美容技術理論1の教科書にて今期学んだ全ての総復習

科目名 Subject	美容技術理論Ⅲ Hairstyling TheoryⅢ		教員名	富田 知子	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	△	△
科目の概要	<p>現代社会において美容に求められることは多様化している。しかしながら、造形要素としての美容デザインの持つ効果は普遍的なものである。美容施術をする際、対象者の条件を読み取る力が必要であり、美容デザインの構成要素が美容施術に及ぼす効果を学ぶことは有効である。本授業では、デザインの構成要素である、線、面などのイメージが顔に及ぼす影響学ぶ。またデザイン要素を理解するために、美容デッサンという手法を用い、その理解を深めるように学習する。</p>				
授業の目標	<p>本授業では、理論による美容デザインの成り立ちを学び、実際の美容に行かせることを目標とする。また美容デッサンをすることで、顔とヘアスタイルの関係性、顔のパーツが作り出すイメージと個性を見出す力をつける。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>各回の授業の理解を深めるよう、学んだ事項を実際のヘアスタイルなどと照らし合わせる。授業計画に必要な準備は必ずおこなう。</p>				
教科書・教材	教科書	日本理容美容教育センター教科書			
	教材	資料の配布 デッサン用デザインボード			
	使用設備・備品	画材			
	参考文献	図書館美容雑誌 他随時提示			
評価方法	各回の授業で配布した資料の提出と作品の提出。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	作品が計画通り進むように、取り組む。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容師国家資格			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業内容ガイダンス	授業の目的を理解し、各回の到達点について理解する	自身が思う線の要素が強い美容写真作品を用意する
第2回	美容造形要素（線について）	髪型に存在する線の要素の理解	自身が思う点的要素が強い美容写真作品を用意する
第3回	美容造形要素（点）について	髪型に存在する点的要素の理解	自身が思う面的要素が強い美容写真作品を用意する
第4回	美容造形要素（面）	髪型に存在する面的要素の理解	人が存在する印象が深い広告写真を用意する
第5回	美容表現効果について（広告写真を例に）	美容表現にお超える調和とコントラストの表現を知る	目について2つ以上の写真を用意する
第6回	顔のパーツの形の理解	顔のパーツの形のもつイメージを知る	実際の写真を見て2つ以上描いてくる 子供と大人の顔写真を準備する
第7回	顔のバランスの理解	顔のバランスを知りそのイメージを理解する	顔型がイメージ通り描けるように練習する
第8回	顔と髪型の理解	髪型が顔とどのような関係性があるのかを学ぶ	写真1枚を選択し、顔と髪型について分析する
第9回	デッサンによる髪形状の理解	毛髪の形状を描くことで理解する	毛髪の形状の違う写真を2枚以上用意し分析する
第10回	美容デザインのアレンジ	前回描いたデッサンをカラージュなどでアレンジしイメージを変化させる	次回から描く写真を図書館などで選択しておく
第11回	美容デッサン①デザインの選択	図書館の美容資料から選択した写真をコピーし、デッサンの準備を完了させる	自身で美容写真の収集を行う
第12回	美容デッサン②下書き	デッサンの下書きを完成させ、顔のパーツを完成させる	進み具合では持ち帰り制作を進める
第13回	美容デッサン③描き込む	毛髪を描き込む	進み具合では持ち帰り制作を進める
第14回	美容デッサン④完成させる	完成させ	プレゼンテーション原稿の準備
第15回	美容デッサン⑤展示をする	展示とプレゼンテーション	展示終了後作品をポートフォリオに収集する

科目名 Subject	美容技術理論Ⅳ Hairstyling TheoryⅣ		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	△
科目の概要	美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。 ここでは1年時に学んだ基礎理論を基に応用的な内容、またトータル的な美容について学び、さらに国家試験課題の理論についても知識を深める。				
授業の目標	サロンワークでの技術を安全かつ円滑に行うため、美容に関するより高度な理論を学び、幅広い知識を得る。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ内容を復習し、理論ノートにまとめる。 各回の復習・予習は60分～90分程度行い、次回の授業につなげる。				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1』 日本理容美容センター			
	教材	適宜、資料配布			
	使用設備・備品	プロジェクター			
	参考文献				
評価方法	授業態度 (10%)、期末試験 (90%)				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ヘアセッティング①を学ぶ	ウェーブ理論を理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) 5章：ヘアカーリング理論についての予習と、今回の復習
第2回	ヘアセッティング②を学ぶ	ヘアカーリング理論を理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) 5章：オールウェーブ理論についての予習と、今回の復習
第3回	国家試験実技第二課題 オールウェーブ理論を学ぶ	オールウェーブ理論を理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) 5章：カールの種類についての予習と、今回の復習
第4回	カールの種類を学ぶ	カールの種類を理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) カールとフィンガーウェーブについての予習と、今回の復習
第5回	カールとフィンガーウェーブの構成を学ぶ	カールとフィンガーウェーブの構成を理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) 5章：ブロードライ・アイロンセッティング・ローラーカーリングについての予習と、今回の復習
第6回	ヘアセッティング③を学ぶ	ブロードライ・アイロンセッティング・ローラーカーリングについて理解し、説明することができる。	美容技術理論1) 5章：バックコーミング・アップスタイル・ウィッグとヘアピースについての予習と、今回の復習
第7回	ヘアセッティング④を学ぶ	バックコーミング・アップスタイル・ウィッグとヘアピースについて理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) 2章：シャンプー理論についての予習と、今回の復習
第8回	シャンプーングを学ぶ	シャンプー理論を理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) 2章：リンス・コンディショナー・トリートメントについての予習と、今回の復習
第9回	リンス・コンディショナー・トリートメントを学ぶ	リンス・コンディショナー・トリートメントの違い、種類成分などを理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) 2章：スカルプトリートメントの目的・種類についての予習と、今回の復習
第10回	スカルプトリートメントを学ぶ	スカルプトリートメントの目的・種類について理解し、説明することが出来る。	美容技術理論1) これまでのまとめと復習
第11回	まとめと解説	ヘアセッティング・シャンプーング～スカルプトリートメントまでを復習し、理解を深める。	美容技術理論1) 6章：ヘアカラーの種類およびタイプ別特徴についての予習と、今回の復習
第12回	ヘアカラーリング①	ヘアカラーの種類およびタイプ別特徴について復習し、知識を応用することが出来る。	美容技術理論1) 6章：染毛のメカニズム・色の基本・毛髪のレベルとアンダートーンについての予習と、今回の復習
第13回	ヘアカラーリング②	染毛のメカニズム・色の基本・毛髪のレベルとアンダートーンを復習し、知識を応用することが出来る。	美容技術理論1) 6章：パッチテスト・染毛剤使用時の注意事項についての予習と、今回の復習
第14回	ヘアカラーリング③	パッチテスト・染毛剤使用時の注意事項について復習し、正しく説明することが出来る。	全範囲の確認をし、知識として未定着の部分の復習
第15回	総括	全範囲の確認をし、知識として未定着の部分を把握する。	美容技術理論1で今期学んだ全ての総復習

科目名 Subject	美容技術理論Ⅴ Hairstyling TheoryⅤ		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	△
科目の概要	美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。 ここでは1年時に学んだ基礎理論を基に応用的な内容、またトータル的な美容について学び、さらに国家試験課題の理論についても知識を深める。				
授業の目標	サロンワークでの技術を安全かつ円滑に行うため、美容に関するより高度な理論を学び、幅広い知識を得る。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ内容を復習し、理論ノートにまとめる。 各回の復習・予習は60分～90分程度行い、次回の授業につなげる。				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1、2』 日本理容美容センター			
	教材	適宜、資料配布			
	使用設備・備品	プロジェクター			
	参考文献				
評価方法	授業態度 (10%)、期末試験 (90%)				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	7章：エステティックについて学ぶ	エステティック概論・マッサージ理論等について理解し説明することが出来る。	美容技術理論2)8章：ネイル技術についての予習と、今回の復習
第2回	8章：ネイル技術について学ぶ	ネイル技術についての理論を理解し説明することが出来る。	美容技術理論2)7章：エステティック・8章：ネイル技術についてのまとめと、今回の復習
第3回	7章・8章の確認と解説	エステティックとネイルについて復習し、理解を深める。	美容技術理論2)9章：メイクアップについての予習と、今回の復習
第4回	9章：メイクアップについて学ぶ	メイクアップ・基本テクニックについて理解し、説明することが出来る。	美容技術理論2)10章：日本髪についての予習と、今回の復習
第5回	10章：日本髪について学ぶ	日本髪の由来・種類と特徴・各部名称・装飾品について理解し、説明することが出来る。	美容技術理論2)9章：メイクアップ・10章：日本髪についてのまとめと、今回の復習
第6回	9章・10章の確認と解説	メイクアップと日本髪について復習し、理解を深める。	美容技術理論2)11章：着付けの理論と技術についての予習と、今回の復習
第7回	11章：着付けの理論と技術について学ぶ	着付けの目的・着物や帯の種類・着付けに用いる小物などについて理解し、説明することが出来る。	美容技術理論2)11章：着付けの理論と技術についてのまとめと、今回の復習
第8回	11章：着付けの理論と技術についての確認と解説	着付けの理論と技術について復習し、理解を深める。	美容技術理論1)1章：美容用具に関するまとめと、今回の復習
第9回	1章：美容用具の復習	美容用具に関する内容について再確認し、理解を深める。	美容技術理論1)2章：シャンプーイングについてのまとめと、今回の復習
第10回	2章：シャンプーイングの復習	シャンプーイングに関する内容について再確認し、理解を深める。	美容技術理論1)3章：ヘアカッティングについてのまとめと、今回の復習
第11回	3章：ヘアカッティングの復習	ヘアカッティングに関する内容について再確認し、理解を深める。	美容技術理論1)4章：パーマネントウェービングについてのまとめと、今回の復習
第12回	4章：パーマネントウェービングの復習	パーマネントウェービングに関する内容について再確認し、理解を深める。	美容技術理論1)5章：ヘアセッティングについてのまとめと、今回の復習
第13回	5章：ヘアセッティングの復習	ヘアセッティングに関する内容について再確認し、理解を深める。	美容技術理論1)6章：ヘアカラーリングについてのまとめと、今回の復習
第14回	6章：ヘアカラーリングの復習	ヘアカラーリングに関する内容について再確認し、理解を深める。	美容技術理論1・2で学んだことのまとめと、今回の復習
第15回	総括	全範囲の確認をし理解を深める。	美容技術理論1・2で学んだことの総復習

科目名 Subject	経営 Business Administration		教員名	山口 信和	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	△	○
科目の概要	<p>「経営学」は字のごとく経営の責任者が習得すべき学問であることから「帝王学」とも呼ばれています。経営管理論、経営組織論、マーケティング論、そして企業会計論の4つの学問の総称が「経営学」で、授業を通して各論の真髄である経営戦略、顧客志向、製品差別化戦略などを学習してゆきます。経営は常に市場環境の変化に適応してゆかねばなりません。テレビ教養番組から録画したビデオをケーススタディの教材として活用します。ビデオ鑑賞後、ケーススタディの要旨を相互にシェアし、同時に、みなさんから感想文をレポートとして提出していただきます。</p>				
授業の目標	<p>本学校を卒業し、社会人として新しい人生がスタートします。ビジネスの世界で成功するためには学ばなければならないルールがあります。サッカーにはサッカーのルールがあるように、ビジネスにもルールがあり、これが「経営学」です。社会生活が始まると、目標管理、人間関係、自己啓発など諸問題に直面し、ストレスがたまることがあると思います。経営学を学ぶことによって、ストレスの原因がどこにあるのか、そして、それを解決するにはどうすれば良いかを理解できるようになります。その結果、個人の成長に役立つ「生き方」や「考え方」を学ぶことができるようになります。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>次回の授業内容について事前に目を通し予習してくる。予習内容は「経営学読本ブリテン」として毎回、配布する。必要予習時間は毎回90分程度。</p>				
教科書・教材	教科書	経営学読本、私のメモ帳から			
	教材	配布プリント			
	使用設備・備品	プロジェクター			
	参考文献				
評価方法	<p>授業態度（40%）、レポート提出（40%）、期末試験（20%）などから総合的に判断します。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>出席状況、受講態度を重視。特に、おしゃべりは厳禁します。必要がある場合は、退席を要求します。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	経営学とは	経営学の領域、グローバリゼーションを理解できるようになる。	配布プリント：グローバリゼーション、消費者行動の変化など
第2回	日本経済の現状事情について	終身雇用制、世の中の動向を理解できるようになる。	配布プリント：不信の時代、男と女は異人種など
第3回	現代消費者事情について	ニーズとウォンツの違い、AIDMA理論を理解できるようになる。	配布プリント：経営理念、PDCAなど
第4回	経営管理論について	戦略と戦術の違い、マネジメントサイクルを理解できるようになる。	配布プリント：経営管理システム、組織化の原則など
第5回	経営組織論について	マクレガーのXY理論、マズローの欲求五段階説を理解できるようになる。	配布プリント：平均値、競争状態、パレートの法則など
第6回	情報の種類について	リーダーシップ、管理職の役割を理解できるようになる。	配布プリント：マーケティングの定義、業種から業態へなど
第7回	マーケティング論について	マーケティングの定義と種類を理解できるようになる。	配布プリント：行動経済学、形と心など
第8回	各種戦略論について	顧客志向、製品差別化戦略を理解できるようになる。	配布プリント：ブランドマーケティング、ナショナルブランドとプライベートブランドなど
第9回	ブランドマーケティングについて	ランチェスターの法則、市場細分化戦略を理解できるようになる。	配布プリント：マーケティングミックス、フィリップコトラーなど
第10回	マーケティングミックス論について	マーケティングミックス論、コトラーのSTP論を理解できるようになる。	配布プリント：製品の種類、価格競争と非価格競争、価格決定方式など
第11回	製品戦略と価格戦略	製品の種類、価格決定方式を理解できるようになる。	配布プリント：百貨店の再生、広告とPRなど
第12回	流通戦略とプロモーション戦略	チャネル政策、ビジュアルマーチャンダイジングを理解できるようになる。	配布プリント：人材の条件、顧客管理法則など
第13回	販売員戦略について	CP理論、接客を理解できるようになる。	配布プリント：プレステージマーケティング、限定流通戦略など
第14回	プレステージ戦略について	プレステージマーケティングを理解できるようになる。	配布プリント：自己のSWOT分析、マーケティングセンスなど
第15回	まとめ	自己マーケティング戦略を立案できるようになる。	

科目名 Subject	美容技術 I Hairstyling Skills I		教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	3
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	美容に関する基礎的理論と知識を学び、実習を通して基本技術を効率的に習得する。 ワインディング技術（パーマメント技術におけるロッド巻き）を中心に、シャンプー技術も 加え様々な美容の基礎技術を学びながら、美容に対する興味を深めるべく礎を築いていく。				
授業の目標	国家試験の合格に主眼を置きながら、サロンの現場を主体とした実践的教育（技術）を導入し、 技術力を的確に蓄積していく。 主に国家試験実技試験課題であるワインディングの基礎技術、ならびにサロンの現場で必要 とされる技術を学び、実践を重ねることによりステップアップを図る。 カット、ワインディング、シャンプー、デザインパーマそれぞれの基礎技術を理解し、施術 が出来るようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	学んだ技術を、研究もしつつ繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分～90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないよう に定着させておくこと。学んだ技術を研究もしつつ、繰り返し練習する。また学習内容をノ ートに記録し次の目標を掲げる				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1.2』日本理容美容教育センター編			
	教材	美容用具一式、配布プリント			
	使用設備・備品	美容実習室、プロジェクター			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物（宿題としての技術及びノートまとめ）20%、期末実技試験 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、 そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退 室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 美容技術理論を学ぶにあたって教育カリキュラムの説明及び諸注意	美容技術の教育カリキュラムの説明及び諸注意を理解する	配布資料を熟読しておくこと
第2回	美容における頭部の区分と名称 美容用具の取り扱い方	美容における頭部の名称及び用具類の取り扱い方を理解出来る	美容技術理論Ⅰテキスト序章・1章を熟読し復習をすること
第3回	ヘア・カットिंग カットの基礎知識とシザーズアクションのデモンストレーション・実践	カットの基礎知識、シザーズアクションを習得できる	美容技術理論Ⅰテキスト3章を熟読し復習をすること
第4回	ヘア・カットिंग 頭部ブロッキング	頭部の名称を覚えブロッキングを確実に取れる	
第5回	ヘア・カットिंग モデルウィッグ（オールウェーブ）カットの実践	カット技術を理解し、実際に行うことが出来る	
第6回	ヘア・カットिंग トップ・サイド部分カットデモンストレーション・実践	トップ・サイド部分のカット技術を理解し、実際に行うことが出来る	
第7回	ヘア・カットिंग バック部分カットデモンストレーション・実践	バック部分のカット技術を理解し、実際に行うことが出来る	
第8回	ヘア・カットिंग ネープ部分の実践及びチェック	ネープ部分のカット技術を理解し、実際に行うことが出来る	
第9回	ヘア・カットिंग モデルウィッグ（ワインディング）カットの実践	カット技術を理解し、実際に行うことが出来る	
第10回	ヘア・カットिंग 頭部ブロッキング	頭部の名称を覚えブロッキングを確実に取れるようになる	
第11回	ヘア・カットिंग トップ・サイド部分カットデモンストレーション・実践	トップ・サイド部分のカット技術を理解し、実際に行うことが出来る	
第12回	ヘア・カットिंग バック部分カットデモンストレーション・実践	バック部分のカット技術を理解し、実際に行うことが出来る	
第13回	ヘア・カットिंग ネープ部分の実践及びチェック	ネープ部分のカット技術を理解し、実際に行うことが出来る	
第14回	ワインディング（オールパーパス）10ブロッキング・スライス・シェーブ学びと実践	ワインディング技術の10ブロッキング・スライス・シェーブが出来る	以下、ワインディングはWDと表記する 授業内で行った技術を90分程度復習しておくこと
第15回	WD技術（オールパーパス）上巻き・センター部分ロッドの収め方を学び、実践	上巻き・センター部分ロッドの収め方が出来る	上巻き・センター部分の技術を90分程度復習すること

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	WD 技術（オールパーパス）ブロッキング／上巻きの復習	ブロッキング／上巻き技術が出来る	
第17回	WD 技術（オールパーパス）下巻き・センター部分ロッドの収め方を学びと実践	下巻き・センター部分ロッドの収め方を理解し出来る	下巻きを授業後、60分程度復習すること
第18回	WD 技術（オールパーパス）下巻きの復習 センター部分ロッドの収まり方の確認	下巻き技術、センター部分ロッドの収まり方を理解し出来る	
第19回	WD 技術（オールパーパス）左バックサイド・サイドの収め方	左バックサイド・サイドの収め方を理解し習得する	バックサイド・サイドの収め方を90分程度復習すること
第20回	WD 技術（オールパーパス）右バックサイド・サイドの収め方	右バックサイド・サイドの収め方を理解し習得する	バックサイド・サイドの収め方を90分程度復習すること
第21回	WD 技術（オールパーパス）10 ブロッキングと全頭の収まり方の確認と復習	10 ブロッキングと全頭の収まり方を理解し習得する	10 ブロッキング・全頭を授業前に90分程度予習しておく
第22回	WD 技術（オールパーパス）10 ブロッキングと全頭の収まり方の確認と復習	時間を意識し、10 ブロッキングと全頭の収まり方を理解し習得する	
第23回	WD 技術（オールパーパス）10 ブロッキング及び全頭を実践する	時間を意識し、10 ブロッキングと全頭の収まり方を理解し習得する	以後、毎回授業内で行った技術を90分程度復習すること
第24回	WD 技術（オールパーパス）10 ブロッキング及び全頭を実践する	設定時間45分を意識し、10 ブロッキングと全頭の収まり方を理解し習得する	設定時間の45分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第25回	シャンプー技術 指圧シャンプー基礎理論	指圧シャンプーの基礎を理解出来る	毎回シャンプー技術の授業後は、配布されるテキストを熟読し手順の復習をすること
第26回	シャンプー技術 指圧マッサージ	指圧マッサージを理解し実践出来る	
第27回	WD 技術（オールパーパス）10 ブロッキング及び全頭を実践する	設定時間45分でWD全頭を完成させることが出来る	
第28回	WD 技術（オールパーパス）10 ブロッキング及び全頭を実践する	設定時間45分でWD全頭を完成させることが出来る	
第29回	シャンプー技術 指圧シャンプー基礎理論 復習	指圧シャンプーの基礎を理解出来る	
第30回	シャンプー技術 指圧マッサージ 復習	指圧マッサージを理解し実践出来る	



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	WD 技術（オールパーパス） 10 ブロッキング及び全頭を実践する	設定時間 40 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 40 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第32回	WD 技術（オールパーパス） 10 ブロッキング及び全頭を実践する	設定時間 40 分で WD 全頭を完成させることができる	
第33回	シャンプー技術 指圧シャンプー① デモンストレーション	指圧シャンプーの目的を理解し実践出来る	
第34回	シャンプー技術 指圧シャンプー② シャンプー実践・復習	指圧シャンプーの目的を理解し実践出来る	
第35回	WD 技術（オールパーパス） 10 ブロッキング及び全頭を実践する	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 35 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第36回	WD 技術（オールパーパス） 技術チェック	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることができる	
第37回	シャンプー技術 指圧シャンプー③ ヘアトリートメント	ヘアトリートメントの目的を理解し実践出来る	
第38回	シャンプー技術 指圧シャンプー④ ヘアトリートメント復習	ヘアトリートメントの目的を理解し実践出来る	
第39回	WD 技術（オールパーパス） 10 ブロッキング及び全頭を実践する	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることができる	
第40回	WD 技術（オールパーパス） 10 ブロッキング及び全頭を実践する	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることができる	
第41回	シャンプー技術 技術総復習	設定時間 25 分でモデルに対しシャンプー技術が出来る	設定時間の 25 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第42回	シャンプー技術 技術チェックとまとめ	設定時間 25 分でモデルに対しシャンプー技術が出来る	
第43回	WD 技術（オールパーパス） まとめと復習	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることができる	総復習とし、授業後これまで技術を踏まえ 90 分程度 WD 技術を行うこと
第44回	WD 技術（オールパーパス） まとめと復習	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることができる	総復習とし、授業後これまで技術を踏まえ 90 分程度 WD 技術を行うこと
第45回	WD 技術（オールパーパス） まとめと復習	規定時間内で出来た作品を自ら理解し正確なものへ修正できるようにする	総復習とし、授業後これまで技術を踏まえ 90 分程度 WD 技術を行うこと

科目名 Subject	美容技術Ⅱ Hairstyling SkillsⅡ		教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	3
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	<p>美容に関する基礎理論と知識を学び、実習を通して基礎技術を的確に習得する。 主に、美容師国家実技試験課題であるワインディング及びオールウェーブセッティング技術を中心に美容の基礎的理論と知識を学ぶ。またサロンにおいて、最初の重要な実践的技術であるシャンプー技術を、相モデルを通して習得する。</p>				
授業の目標	<p>国家試験（実技）での規定タイム内の仕上げに向け、基礎技術力を養う。主に国家試験実技課題であるワインディング及びオールウェーブセッティングの基礎技術、ならびにサロン現場で必要とされる基礎技術を学び、実践を重ねることによりレベルの高い技術が出来るようになる。 ノーパートオールウェーブ、パーマントウェーブ、シャンプーの基礎技術を繰り返すことにより基礎技術が確実に出来るようになる。 ワインディング（国家試験課題）について、基礎技術から応用技術への転換を図り、国家試験内容の基礎部分が出来るようになる。</p>				
時間外学習 （予習・復習）	<p>学んだ技術を、研究もしつつ繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分～90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないように定着させておくこと。</p>				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1.2』日本理容美容教育センター編			
	教材	美容用具一式、配布プリント			
	使用設備・備品	美容実習室、プロジェクター			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物（宿題としての技術およびノートまとめ）20%、期末試験 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	パーマネントウェーブ パーマネント技術を行う際の 諸注意	パーマネント技術の目的を理解する	美容技術理論 I テキスト4章を熟読すること
第2回	パーマネントウェーブ パ ーマネントウェーブ用ワイン ディング説明	パーマネントウェーブ用ワイ ンディング技術を理解し習得 する	美容技術理論 I テキスト4章を熟読 し必要なところはノートに記入し ておくこと
第3回	パーマネントウェーブ パ ーマネントウェーブ用ワイン ディング実践	パーマネントウェーブ用ワイ ンディング技術を理解し習得 する	
第4回	パーマネントウェーブ 2 浴式コールドウェーブ施術 プロセス説明	2 浴式コールドウェーブ施術 プロセスを理解し習得する	
第5回	パーマネントウェーブ 2 浴式コールドウェーブ施術 プロセス実践	2 浴式コールドウェーブ施術 プロセスを理解し習得する	
第6回	オールウェーブ技術 フィンガーウェーブ理論	フィンガーウェーブ理論を理 解する	美容技術理論 I テキスト5章を熟読 すること
第7回	AW 技術 ワンストローク・リッジのつ なぎ方の実践	ワンストローク・リッジのつな ぎ方を理解し出来る	以下、オールウェーブを AW と表記 する
第8回	AW 技術 ワンストローク・リッジのつ なぎ方の実践と復習	ワンストローク・リッジのつな ぎ方を理解し出来る	
第9回	シャンプー技術 指圧シャンプー⑤ 手順と実践	指圧シャンプー技術の手順を 相モデルにて出来る	毎回シャンプー技術授業後はテキ ストを熟読し、60分程度実践練習を すること
第10回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 1 線目デモ・実践	ノーパートオールウェーブ 1 線目を理解し出来る	1 線目を授業終了後 60 分程度復習 すること
第11回	シャンプー技術 指圧シャンプー⑥ 手順と実践の復習	指圧シャンプー技術の手順を 相モデルにて出来る	
第12回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 1 線 目復習	ノーパートオールウェーブ 1 線目を理解し出来る	
第13回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 2 線目デモ・実践	ノーパートオールウェーブ 2 線目を理解し出来る	2 線目を授業終了後 60 分程度復習 すること
第14回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 1・2 線目復習	ノーパートオールウェーブ 2 線目を理解し出来る	
第15回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 3 線目デモ・実践	ノーパートオールウェーブ 3 線目を理解し出来る	3 線目を授業終了後 60 分程度復習 すること

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ ～3線目復習	ノーパートオールウェーブ 3線目を理解し出来る	ノーパートオールウェーブ 1・2・3 線目を出来るように 90 分程度復習 すること
第17回	ワインディング（国家試験課 題）ブロッキング及びセンタ 一部分の説明と実践	ブロッキング及びセンタ一 部分を理解し出来る	以下、ワインディングを WD と表記 する
第18回	シャンプー技術 ヘッドスパ 実践	ヘッドスパの目的、手順を理解 できる	
第19回	ワインディング（国家試験課 題）ブロッキング及びセンタ 一部分の復習	ブロッキング及びセンタ一 部分を理解し出来る	ブロッキング及びセンタ一部分を 巻けるように 90 分程度予習してお くこと
第20回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 4・5・6線目デモ・実践	ノーパートオールウェーブ 4・5・6線目を理解し出来る	ノーパートオールウェーブ 4・5・6 線目を出来るように 90 分程度復習 すること
第21回	WD 技術 右フロント・バックサイド巻 き方の説明と実践	右フロント・バックサイドの巻 き方を理解する	右フロント・バックサイドを巻ける ように 90 分程度復習しておくこと
第22回	シャンプー技術 ヘッドスパ 復習	ヘッドスパの目的、手順を理解 し実践出来る	
第23回	WD 技術 右フロント・バックサイド巻 き方の復習	右フロント・バックサイドの巻 き方を理解し出来る	
第24回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 1 ～6線目復習	ノーパートオールウェーブ 4・5・6線目を理解し出来る	ノーパートオールウェーブ 1～6 線 目まで確実に出来るように練習し ておくこと
第25回	WD 技術 左フロント・バックサイド巻 き方の説明と実践	左フロント・バックサイドの巻 き方を理解する	左フロント・バックサイドを巻ける ように 90 分程度復習しておくこと
第26回	シャンプー技術 ヘッドスパとトリートメント	ヘッドスパとトリートメント の目的、手順を理解する	
第27回	WD 技術 左フロント・バックサイド巻 き方の復習	左フロント・バックサイドの巻 き方を理解し出来る	
第28回	AW 技術 クロッキノールカール説明と 実践	クロッキノールカールを理解 し出来る	美容技術理論 I テキスト 5 章を熟読 し復習すること
第29回	WD 技術（国家試験課題） 全頭	WD（国家試験課題）を全頭理解 し実践出来る	WD（国家試験課題）が全頭負巻ける ように 90 分程度復習しておくこと
第30回	シャンプー技術 ヘッドスパとトリートメント 復習	ヘッドスパとトリートメント の目的、手順を理解し実践出来る	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	WD 技術 (国家試験課題) 全頭	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 35 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第32回	AW 技術 クロッキノールカール復習	クロッキノールカールを理解し出来る	
第33回	WD 技術 (国家試験課題) 全頭	設定時間 30 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 30 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第34回	シャンプー技術 総復習	設定時間 20 分でモデルに対しシャンプー技術が出来る	設定時間の 20 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第35回	WD 技術 (国家試験課題) 全頭	設定時間 30 分で WD 全頭を完成させることができる	以後、毎回授業内で行った WD 技術を 90 分程度復習すること
第36回	AW 技術 一パートオールウェーブ全頭	ノ一パートオールウェーブ全頭を理解し出来る	以後、毎回授業内で行った AW 技術を 90 分程度復習すること
第37回	WD 技術 (国家試験課題) 全頭 技術チェック	設定時間 25 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 25 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第38回	AW 技術 一パートオールウェーブ全頭 技術チェック	設定時間 40 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 40 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第39回	WD 技術 (国家試験課題) 全頭	設定時間 25 分で WD 全頭を完成させることができる	
第40回	AW 技術 一パートオールウェーブ全頭	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 35 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第41回	WD 技術 (国家試験課題) 全頭	設定時間 20 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 20 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第42回	AW 技術 一パートオールウェーブ全頭	設定時間 30 分で WD 全頭を完成させることができる	設定時間の 30 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第43回	WD 技術 (国家試験課題) 全頭 まとめ	設定時間 20 分で WD 全頭を完成させることができる	
第44回	AW 技術 一パートオールウェーブ全頭 まとめ	設定時間 30 分で WD 全頭を完成させることができる	
第45回	WD 技術・AW 技術 まとめと総復習	規定時間内で出来た WD・AW 作品を自ら理解し正確なものへ修正できるようになる	WD・AW 技術共にこれまでの技術を踏まえ 90 分程度復習しておくこと

科目名 Subject	美容技術Ⅲ Hairstyling SkillsⅢ		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	3
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	○
科目の概要	美容技術Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を基に、国家試験第二課題であるノーパートオールウェーブセッティングおよびワインディングの技術プロセスを習得する。				
授業の目標	<p>国家試験の合格を主眼に置き、美容に関する知識および技術力の向上を目指し、そのレベルにあった技術が習得出来る。併せて、社会人として必要なルールやマナーなども身につけることが出来る。</p> <p>国家試験課題である、ノーパートオールウェーブセッティング、ワインディングの技術力を底上げする中で自己分析などの能力を得る。個々に技術向上を模索し、タイム短縮などの結果を出すことができる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>学んだ技術を、研究もしながら繰り返し練習をする。</p> <p>また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。</p> <p>なお、各回の復習には概ね60分～90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないように定着させておくこと。</p>				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1.2』日本理容美容教育センター編			
	教材	美容用具一式、配布プリント			
	使用設備・備品	美容実習室、プロジェクター			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物（宿題としての技術およびノートまとめ）20%、期末試験 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ワインディング(国家試験課題)を実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	以下ワインディングはWDと表示する
第2回	ノーパートオールウェーブ (フィンガーウェーブ)を復習する	構成、シェーブなどに注意し、30分以内に仕上げられるようになる	以下ノーパートオールウェーブはAWと表示する
第3回	WD(国家試験課題)を実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	以下ワインディングは全て国家試験課題
第4回	AW(国家試験課題) スカルプチュアカールを学び実践する	フィンガーウェーブとのつながり及びシェーブに注意しながらバランスよく作れるようになる	以下オールウェーブは全て国家試験課題
第5回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第6回	AW スカルプチュアカールを復習する	フィンガーウェーブとのつながり及びシェーブに注意しながらバランスよく作れるようになる	学んだカールの手つきを思い出しながら研究し、構成等に注意して全頭を仕上げる
第7回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第8回	AW スカルプチュアカールを復習し、リフトカール(右巻き)を学び実践する	FWとの繋がりとシェーブに注意し、リフトカール(右巻き)までバランスよく作れるようになる	以下フィンガーウェーブはFWと表示する
第9回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第10回	AW スカルプチュアカール、リフトカール(右巻き)を復習する	FWとの繋がりと、シェーブに注意し、リフトカール(右巻き)までバランスよく作れるようになる	学んだカールの手つきを思い出しながら研究し、構成等に注意して全頭を仕上げる
第11回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第12回	AW スカルプチュア、リフトカール(右巻き)を復習し、リフトカール(左巻き)を学び実践する	FWとの繋がりと、シェーブに注意し、リフトカール(左巻き)までバランスよく作れるようになる	学んだカールの手つきを思い出しながら研究し、構成等に注意して全頭を仕上げる
第13回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第14回	AW スカルプチュアカール、リフトカール(右巻き・左巻き)を復習する	FWとの繋がりと、シェーブに注意し、リフトカール(左巻き)までバランスよく作れるようになる	学んだカールの手つきを思い出しながら研究し、構成等に注意して全頭を仕上げる
第15回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	AW スカルプチュアカール、リフトカールを復習し、メイポールカールを学び実践する	FW との繋がりと、シェープに注意し、メイポールカールまでバランスよく作れるようになる	学んだカールの手つきを思い出しながら研究し、構成等に注意して全頭を仕上げる
第17回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープなどに注意し、20 分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を確認しながら反復練習をする
第18回	AW メイポールカールを復習し、全頭を仕上げる	FW との繋がりと、シェープに注意し、全頭を仕上げられるようになる	学んだカールの手つきを思い出しながら研究し、構成等に注意して全頭を仕上げる
第19回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープなどに注意し、20 分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を確認しながら反復練習をする
第20回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成等を確認しながら反復練習をする
第21回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープなどに注意し、20 分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を確認しながら反復練習をする
第22回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成等を確認しながら反復練習をする
第23回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープなどに注意し、20 分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を確認しながら反復練習をする
第24回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成等を確認しながら反復練習をする
第25回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープなどに注意し、20 分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を確認しながら反復練習をする
第26回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成等を確認しながら反復練習をする
第27回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープなどに注意し、20 分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を確認しながら反復練習をする
第28回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50分以内に仕上げられるようになる	次回レベルチェックに向け、カールやウェーブのシェープ、構成等を確認しながら反復練習をする
第29回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープなどに注意し、20 分以内に仕上げられるようになる	次回レベルチェックに向け、ステムの角度、構成、シェープ等を確認しながら反復練習をする
第30回	WD と AW のレベルチェックを受ける	WD は 20 分、AW は 50 分以内に正しい構成で仕上げることが出来る	レベルチェックの結果を確認し、不得意部分を重点的に反復練習をする



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第32回	AWを実践する	シェーブ、構成等に注意し、40分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら反復練習をする
第33回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第34回	AWを実践する	シェーブ、構成等に注意し、40分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら反復練習をする
第35回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第36回	AWを実践する	シェーブ、構成等に注意し、35分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら反復練習をする
第37回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第38回	AWを実践する	シェーブ、構成等に注意し、35分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら反復練習をする
第39回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第40回	AWを実践する	シェーブ、構成等に注意し、35分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら反復練習をする
第41回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第42回	AWを実践する	シェーブ、構成等に注意し、35分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら反復練習をする
第43回	WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする
第44回	まとめ AWを実践する	シェーブ、構成等に注意し、35分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら反復練習をする
第45回	まとめ WDを実践する	ステムの角度、構成、シェーブなどに注意し、20分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら反復練習をする

科目名 Subject	カット&カラー I Haircutting & Hair Coloring I		教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	○
科目の概要	美容技術教育プログラム・ピボットポイントシステムを基に、ヘアカット・ヘアカラーリングの基礎理論を理解すると共に、マネキンを使用して基礎テクニックを習得する。また映像や資料を多く使用する事で創造力を刺激し、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力の基盤を作り上げる。				
授業の目標	世界基準のカット理論であるピボットポイントのベーシックフォームの特徴を説明できるようになる。また、ヘアカット・ブローの基礎プロセスを実践する事でサロンでの確かな美容技術の基盤作りを行う。 ヘアカラーリングでは、基礎知識と化学作用を理解し、毛束（バージンヘア～白髪まで）・マネキンを使い実習を行う。その結果、ヘアカラーの仕上がりがイメージを予測できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習：課題のテキストを熟読しておく(30分) 予習：「デザインの決定」(展開図などを記入)を予測記入しておく(20分) 復習：テキスト内の評価表を記入し、点数化しておくこと(20分) 復習：課題の展開図などの黒板を板書し、次回に向けて内容を見返し理解を行う(30分) ※指定時間は平均的な時間を記載している。人によって時間が掛かる学生もいるだろう。時間にとらわれ過ぎず次回授業までに知識・技術が漏れないようにすることが重要です。				
教科書・教材	教科書	HAIR SCULPTURE PIVOT POINT 2014、教員作成資料			
	教材	なし			
	使用設備・備品	310教室・シャンプー室			
	参考文献	美容技術理論 I・『COLOR DESIGN』 PIVOT POINT			
評価方法	提出物10%、毎回の作品評価40%、期末試験50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻・欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退出等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科履修と 関連する資格	資格名	ピボットポイント・ヘア・スカルプチャー ピボットポイント・カラーデザイン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション hair sculpture 理論 (1) ヘアデザイナーの考え方を学ぶ	授業に関する諸注意を知り、 hair sculpture 基礎理論を説明できる。	予習：トレンドヘアスタイルを3点準備を行う。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第2回	hair sculpture 理論 (2) シザーズの扱い方・開閉を実践する	シザーズの使用方法を説明できる。	予習：道具の使用例を調べる。30分 復習：自分の使用しやすいシザーズの持ち方を探す。30分
第3回	ワンレングス (1) 基礎理論・ブロー理論を学ぶ	ブロー、ワンレングスの基礎理論を述べることができる。	予習：ワンレングス理論 (P20~26、44~52) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書。30分
第4回	ワンレングス (2) 課題2-1を実践し、スタイル評価 (A~Z まで) を受ける	部分かつらでワンレングススタイルをカット&ブローすることができる。	予習：課題2-1 (P27~29) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書。30分
第5回	グラデーション (1) 基礎理論を学ぶ	グラデーションの基礎理論を説明できる。	予習：グラデーション理論 (P82~91) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第6回	グラデーション (2) 課題2-2、3を実践し、スタイル評価 (A~Z まで) を受ける	部分かつらでグラデーションヘアスタイルをカット&ブローすることができる。	予習：課題2-2、3 (P30~36) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書の見直し。30分
第7回	レイヤー (1) 基礎理論を学ぶ	レイヤーの基礎理論を説明できる。	予習：レイヤー理論 (P110~117) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第8回	レイヤー (2) 課題2-4を実践し、スタイル評価 (A~Z まで) を受ける	部分かつらでレイヤーヘアスタイルをカット&ブローすることができる。	予習：課題2-4 (P37~39) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書の見直し。30分
第9回	セიმレイヤー (1) 基礎理論を学ぶ	セიმレイヤーの基礎理論を説明できる。	予習：セიმレイヤー理論 (P142~147) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第10回	セिमレイヤー (2) 課題2-5を実践し、スタイル評価 (A~Z まで) を受ける	部分かつらでセिमレイヤーヘアスタイルをカット&ブローすることができる。	予習：課題2-4 (P40~42) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書の見直し。30分
第11回	ワンレングス (3) 基礎理論を再確認し、トレンド・全体のヘアバランスを学ぶ	ワンレングスヘアスタイルの種類と全体バランス・展開図を述べることができる。	予習：ワンレングス理論 (P20~26、44~52) の再熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第12回	ワンレングス (4) 課題2-W1を実践し、スタイル評価 (A~Z まで) を受ける	ワンレングススタイル (平行ライン) を行うことができるようになる。	予習：課題2-W1 (P53~59) の熟読・予測記入。50分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書の見直し。30分
第13回	ワンレングス (5) 課題2-W3の説明を聞き、デモンストレーションを見る	ワンレングススタイル (斜め前下がりにライン) の展開図と手順を説明できる。	予習：課題2-W3 (P71~77) の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第14回	ワンレングス (6) 課題2-W3を実践し、スタイル評価 (A~Z まで) を受ける	ワンレングススタイル (斜め前下がりにライン) を行うことができるようになる。	予習：課題2-W3 (P71~77) の再熟読・予測記入。50分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書見直し。30分
第15回	グラデーション (3) 基礎理論を再確認し、トレンド・全体のヘアバランスを学ぶ	グラデーションヘアスタイルの種類と全体バランス・展開図を述べることができる。	予習：グラデーション理論 (P82~91) の再熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	グラデーション(4) 課題2-W4を実践し、スタイル評価(A~Zまで)を受ける	グラデーションスタイル(斜め前下がりがりライン)を行うことができるようになる。	予習: 課題2-W4 (P92~96) の再熟読・予測記入。50分 復習: 授業の振り返りを行う・黒板板書見直し。30分
第17回	グラデーション(5) 課題2-W5の説明を聞き、デモンストレーションを見る	グラデーションスタイル(斜め後ろ下がりがり・コンベックスライン)の展開図と手順を説明できる。	予習: 課題2-W5 (P100~105) の熟読。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第18回	グラデーション(6) 課題2-W5を実践し、スタイル評価(A~Zまで)を受ける	グラデーションスタイル(斜め後ろ下がりがり・コンベックスライン)を行うことができるようになる。	予習: 課題2-W5 (P100~105) 再熟読・予測記入。50分 復習: 授業の振り返りを行う・板書見直し。30分
第19回	ヘアカラーリング(1) color design 理論(ヘアマニキュア)を学ぶ	加齢などによって起こる白髪(グレイヘア)の基礎理論を説明することができる。	予習: トレンドヘアカラースタイルを3点準備を行う。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第20回	ヘアカラーリング(2) 課題1(スウォッチ作成×2 12色相環作成)を実践する	ヘアマニキュアを使用してスウォッチを作成し、色味の仕上がりを測定することができる。	予習: 美容理論(ヘアマニキュア)熟読。30分 復習: 宿題(W-C、12色COLORWHEEL)の完成。30分
第21回	ヘアカラーリング(3) color design 理論(アルカリカラー)を学ぶ	color design 基礎理論(アルカリカラー)を説明することができる。	予習: 美容理論(アルカリカラー)熟読。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第22回	ヘアカラーリング(4) 課題2(スウォッチ作成×5)を実践する	アルカリカラーを使用したスウォッチを作成し、色味の仕上がりを測定することができる。	予習: アルカリカラーの色の違いを調査しノートにまとめる。30分 復習: 宿題(5シート)の完成。30分
第23回	ヘアカラーリング(5) color design 理論(ブリーチ)学ぶ	color design 基礎理論(ブリーチ)を説明することができる。	予習: 美容理論(ブリーチ)熟読。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第24回	ヘアカラーリング(6) 課題3(スウォッチ作成×2、ウィッグカラー)を実践する	脱色剤を使用したスウォッチを作成し、仕上がり度合いの比較とウィッグに施術することができる。	予習: ブリーチをしたヘアスタイルを3点準備を行う。30分 復習: 宿題(5シート)の完成。30分
第25回	ヘアカラーリング(7) color design 理論(ウィービング)を学ぶ	color design 基礎理論(ウィービング)を説明することができる。	予習: ウィービングの情報収集し説明出来るようにする。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第26回	ヘアカラーリング(8) 課題4(ウィッグカラー)を実践する	1タッチ塗布・ウィービングテクニック(シングルフォルト)を行うことができる。	予習: ウィービングコンテスの情報収集。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第27回	ヘアカラーリング(9) color design 理論(ヘアカラー塗布)を学ぶ	color design 基礎理論(ヘアカラー塗布)を説明することができる。	予習: アルカリカラーの既染毛塗布理論を調べる。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第28回	ヘアカラーリング(10) 課題5(ウィッグカラー)を実践する	2タッチテクニックの施術が行うことができるようになる。	予習: アルカリカラーの塗布テクニックを調べる。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第29回	刈り上げ(1) 基礎理論を学ぶ	刈り上げ理論を説明することができる。	予習: 刈り上げの語源を調べる。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第30回	刈り上げ(2) かつらで練習を行い、その後ウィッグで自由制作を行う。作品の他者評価をする	刈り上げテクニックを使い、ウィッグで自由制作を行うことができる。	予習: 自由制作に向けてデザインを考える。30分 復習: 他者評価の考察を行う。30分

科目名 Subject	着装技術 I Techniques of Kimono Dressing I		教員名	着装チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	◎
科目の概要	<p>日本の伝承美、着装の技術および着物の基本知識を学び、「日本の心を着る」という豊かな感性と人を思いやる心を育て、日本人としての文化教養を身につけます。</p> <p>また「自分で着る、人に着せる」実習を通して美齢学に通ずる子供から高齢者へ向けた着つけの基本技術を習得し、接客の心得を学びながら美容総合実践として着つけ技術基礎を固めます。さらにこの科目は社会で活躍する自分の姿を常にイメージし、職業実践専門課程に基づくカリキュラムの実践を通し就職、社会事業に沿った学びができます。社会人としての素養を日本人としての資質を一回一回の授業で身につけることで、自分自身の成長を感じることができる科目となります。</p>				
授業の目標	<p>本科目の履修を通して、</p> <p>① 生活の中に関わる着物文化と装いを理解し、四季に応じたコーディネートや装いの表現力を養う事が出来る。</p> <p>② 山野流美道五大原則に基づいたトータルビューティの習得と美齢学の基礎実践が出来るようになる。</p> <p>③ 「自分で着る、人に着せる」の着つけの基本技術を習得する事が出来る。</p> <p>④ 社会人となる自分を常にイメージし、就職1年目から社会に貢献できる技術、マナー、日本文化の知識を習得する。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>予習・復習共に技術者として接客を意識した生活学習を行う。予習：次回授業対象の範囲につきTVや雑誌ほかSNSなどでTPOやコーディネイトを確認する。復習：学びの経過をSNSに掲載したり各自タブレットに保存するなど技術向上を目で見て確認する。又TVや雑誌、SNSなどからテクニックの相違を確認すること。他、コンテストやイベントの教員指導による時間外予習復習も場合により有り得る。総合で30-40時間以上の予習を見込む</p>				
教科書・教材	教科書	着つけ教本は初回に配布 ほか必要に応じてプリント配布			
	教材	授業に必要な教材を初回に配布			
	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル（保管は短大教室内）			
	参考文献	（一財）国際美容協会貯蔵			
評価方法	実技試験、筆記試験、評価シート、授業態度、小テスト				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>①個人持参物 /半紙、筆記用具、白ソックス、白タオル5本、ハサミ、名前ペン 女子は前後の衿が大きく開いたシャツ（キャミソール）、7分丈迄のレギンス 男子はVかU字型シャツ、短パン②マナー/ 実習時は髪を一つに束ねる事、素足入室は厳禁</p>				
本科目履修と関連する資格	資格名	美容着付師			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション トータルビューティと美齢学	山野が目指すトータルビューティ及び美齢学の概念を理解する	山野美容芸術短期大学の理念を覚えてくること
第2回	浴衣の知識 着付けと帯結び	着付けに必要な小物と着物の名称を覚え、一人で着物を着る事を理解する	着付けに必要な小物と各部名称について予習復習が必要
第3回	礼装 留袖の知識	礼装の着物を知る	着付けに必要な小物と各部名称について予習復習が必要
第4回	着付け前の準備	着付けの備品を覚え、着付け前の準備が出来るようになる	準備の方法につき各自 30 分程度復習すること
第5回	外出着の装い	着物の種類を学び、街着の着物について知る。	準備方法の小テストのため 30 分程度の予習が必要
第6回	小紋① 着物と名古屋帯	一人で着物が着れるようになる	小紋のについて社会情報を得てくること
第7回	小紋②	自分で小紋の着物を着ることが出来る	テキストを見て復習
第8回	一人で着る着物と帯結び	一人で名古屋帯を結ぶ事を理解する	テキストを見て復習
第9回	小紋③	一人で着物と名古屋帯を結ぶことが出来る	テキストを見て復習
第10回	一人で着る着付け仕上げ 小テスト	一定の時間内に綺麗に着付けと帯結びが出来るようになる	小テストのため事前予習が必要 (テキストでプロセスを確認)
第11回	留袖①	礼装にふさわしい、ヘアスタイル着付けのバランス感覚を学ぶ	留袖の TPO について予習
第12回	留袖のヘアメイクと着付けの デモンストレーション	留袖着付けのトータルバランスとイメージを理解する	社会情報から礼装のヘアメイクを予習して来る
第13回	留袖②	長襦袢、留袖の着付けのプロセスを理解する	テキストを見て復習
第14回	長襦袢と留袖の着付け	長襦袢、着物を上手にたたむ事が出来るようになる	テキストを見て復習
第15回	留袖③	留袖の着付けができる(復習) 袋帯の知識を学ぶ	各自学習成果を保存し確認。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	留袖の着付け帯結び	二重太鼓を結び仕上りの型が理解する	保存した画像からテキストを比較して復習
第17回	留袖④	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	美しい着付けのイメージ学習をしていく
第18回	留袖の着付けと帯結び	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を美しく仕上げる事を理解する	テキストを見て復習
第19回	留袖⑤	留袖の知識を確認し、着物の格と家紋を学び装いの違いを理解する	テキストを見て復習
第20回	格式ある席の装い ミセスの礼装	礼装にふさわしい、留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ	
第21回	留袖⑥	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	技術自主学習(所要時間は90分程度)
第22回	留袖の表情と身のこなし	着る人にふさわしい、ヤングミセスから高齢者の装いの表現が出来るようになる	
第23回	留袖⑦	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	技術自主学習(所要時間は90分程度)
第24回	手早く着心地の良い着付け	更に技術を磨き、手早く美しい着つけが出来るようになる	
第25回	留袖⑧	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	技術自主学習(所要時間は90分程度)
第26回	総仕上げ	ミセスの礼装を意識し、品格のある着つけが出来るようになる	
第27回	留袖⑨	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ(復習)	技術自主学習(所要時間は90分程度)
第28回	技術試験	限られた時間に留袖と帯結びの仕上げが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場合は再試験の予習が必要
第29回	知識確認	着物に関する基礎知識を確認	テキストを熟読し前期の学びに関する知識を覚える
第30回	まとめ	着物に関する知識を総合的に理解できる	十分に知識の習得が出来なかった場合は再試験への予習が必要

科目名 Subject	メイクアップ I Make-up I		教員名	ティミー 西村 他	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	<p>スキンケアからベーシックメイクアップまでの日常的なメイクアップを中心に実習を行う。道具の使用法、化粧品の種類や使用方法などメイクアップを学ぶための基本からはじめ、メイクアップの基本技術を毎回1項目ずつ学び、フルメイクアップができるまで育成する。フルメイクアップをマスターした後は、高齢者へのメイクアップ、フォーマルメイクアップの基礎、着物に合わせたメイクアップ等を学び、美容の現場で必要とされるメイクアップ技術と知識を持った技術者を育成する。</p>				
授業の目標	<p>メイクアップの基礎知識（道具名称、日常メイク、アンチエイジングメイク、フォーマルメイクの手順）を理解し、練習の繰り返しにより技術を身につけ実践できるようになる。</p>				
時間外学習 （予習・復習）	<p>入学時に配布されるタブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、及び課題制作に必要な時間数は合計で約30時間である。</p>				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	タオル、ティッシュ、コットン、綿棒			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	実技試験25%、筆記試験25%、小課題25%、授業参加意欲25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科履修と 関連する資格	資格名	特になし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	メイクアップする意味を学ぶ。	なぜ化粧をするのかを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第2回	メイクアップの歴史を学ぶ。	日本の化粧の歴史を理解する。	講義内容を自宅で復習。タブレット内でのクラスルーム参加作業
第3回	スキンケアの意味を学ぶ。	スキンケアの重要性と肌の美しさを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第4回	スキンケア化粧品の使い方を学ぶ。	何種類ものスキンケア化粧品を使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第5回	ベースメイクアップ化粧品の種類を学ぶ。	ベースメイクアップの重要性と化粧品の種類を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第6回	コントロールカラー、コンシーラーを学ぶ。	コントロールカラーとコンシーラーを使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第7回	ファンデーションを学ぶ。	ファンデーションの種類を理解する。リキッドファンデーションを使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第8回	フェイスパウダーを学ぶ。	フェイスパウダーとそれを使用するための道具を使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第9回	ハイライト、ローライトを学ぶ。	人種による顔の立体感の違いを理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第10回	フェイスプロポーションを学ぶ。	顔の形やパーツの配置を理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。顔写真で自身の特徴を分析し課題として提出。
第11回	アイシャドウを学ぶ。	アイメイクアップの意味を理解し、アイシャドウが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第12回	アイライン、マスカラを学ぶ。	アイライン、ビューラー、マスカラが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第13回	アイブローを描く意味を学ぶ。	アイブローによって顔の印象が変化することが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第14回	アイブローの描き方を学ぶ。	アイブローを描く道具の種類を理解し、描くことができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第15回	リップメイクを学ぶ。	リップメイクの道具種類を理解し、描くことができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	チークメイクアップを学ぶ。	チークカラーによる印象の変化を理解し、使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第17回	メイクアップのバランスを学ぶ。	各パーツのバランスがとれたメイクアップを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第18回	カラーハーモニーを学ぶ。	色の調和がとれたメイクアップを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第19回	パーティションのベースメイクアップを学ぶ。	クリームファンデーションが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第20回	パーティションのポイントメイクアップを学ぶ。	パール、ラメ、つけまつげ、リップグロスが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第21回	着物全般に合わせたメイクアップを学ぶ。	洋装と和装のメイクアップの違いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第22回	留袖のメイクアップを学ぶ。	留袖に合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第23回	老化による顔の変化を学ぶ。	老化による顔の変化が理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第24回	アンチエイジングメイクを学ぶ。	若々しく見えるメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第25回	コンセプトメイクアップの意味を学ぶ。	コンセプトに合わせてメイクアップする意味を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第26回	コンセプトメイクアップの表現を学ぶ。	コンセプトに合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第27回	アーティスティックなメイクアップを学ぶ。	アーティスティックなメイクアップを表現するための方法を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第28回	模写メイクアップを学ぶ。	アーティスティックなメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第29回	トータルメイクアップを学ぶ。	テーマに合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第30回	基礎メイクアップ全般の意味を学ぶ。	メイクアップIで学んだこと全般を統合して理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。

科目名 Subject	基礎ネイル技術 Basic Nail Techniques		教員名	加藤 宏美 他	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	<p>ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術を習得するために必要な技術理論と技能を習得する。ネイルに関する検定の取得も視野に入れる。関連科目としてネイルアートやカラーリングにおいては色彩学、メイクアップⅠの学習、またネイルケアに関する基礎知識として美容技術理論、ハンドマッサージ製品の成分において香粧品科学の学習が必要である。</p>				
授業の目標	<p>ハンド&amp;ネイルケアの実践をとおして爪に関する美学を研究し、老若男女問わず健康で美しい爪を維持するための正しい知識と技術を身につける。ネイルケアとカラーリングの基礎的な技術を適正な手順で、他者に施術できるようになる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>ネイルの資格取得にあたり、授業以外においても各自で反復練習を行うこと。予習としてテキストの内容を確認する。ネイルケア技術においては1回につき60分～90分程度の復習を行なうことが望ましい。</p>				
教科書・教材	教科書	JNA テクニカルシステム BASIC 発行 NPO 法人日本ネイリスト協会			
	教材	配付教材は別紙参照 * 授業初回で配付します			
	使用設備・備品	美容実習室 水道			
	参考文献	ネイル・プロフェッショナル 第4版 発行 株) インターメディカル			
評価方法	<p>授業内の参加意欲、ネイルに関するコンテストへの参加や受賞は評価に反映します。筆記試験内容は、主に授業で配付するテキストより出題し、実技試験は授業内での作品制作を含めて評価します。授業態度 20%、筆記 40%・実技試験 40%</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>授業の実習について開講期間中はナチュラルネイルとし、カラーリング、人工爪などは全て除去してきてください。授業内で迷惑行為にあたる言動は慎むこと。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	ネイリスト技能検定試験3級			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 道具、器具の説明 テーブルセッティング ネイルの歴史	道具、器具の役割を理解する	復習として、扱う器具の役割と特徴を覚える（60分程度）
第2回	手指消毒 ネイル技術体系 検定受験について	衛生的に道具器具を取り扱えるようになる。	
第3回	カウンセリング ポリッシュリムーブ 爪の構造と働き	テーブルセッティング～消毒～ポリッシュリムーブまでを習得する。	復習として爪の構造と働きを覚える（60分程度）
第4回	ファイリング ネイルのための皮膚科学	ファイルの持ち方、動かし方 爪の形状の種類を理解する。	
第5回	ファイリング復習 ネイルのための生理解剖学	カウンセリングをし、爪の形状を10本揃えられるようになる。	復習として爪の形状を覚え、モデルでファイリングを実践する（60分程度）
第6回	クリーンナップ ネイルのための生理解剖学	道具の正しい動作を理解する	
第7回	クリーンナップ復習 爪の病気とトラブル	キューティクル周りの処理がスムーズに行えるようになる。	復習として消毒からファイリングまでの技術をモデルで実践する。（60分～）
第8回	ニッパーの使い方 消毒法	ニッパーの持ち方、動かし方を習得する。	
第9回	ネイルケアの手順の確認	これまでの実習内容を理解し手順に従って行えるようになる。	復習としてニッパーの扱い方を覚え、モデルで実践する（120分～）
第10回	ネイルケアの手順の復習	器具を衛生的に扱うことができる	
第11回	テーブルセッティング（10分） ネイルケア（30分）	時間内に作業を終えることを目標とする	復習としてネイルケアの一連の流れを習得し時間を意識して反復練習を行う。（60分～）
第12回	テーブルセッティング（10分） ネイルケア（30分）	時間内に作業を確実に終わることができるようになる	
第13回	実技チェック テーブルセッティング～ネイルケアまで	道具、器具を正確に扱える 時間内に作業を終えることができるようになる。	復習として時間に確実に収まるように反復練習を行う（60分～）
第14回	実技チェック テーブルセッティング～ネイルケアまで	正確な手順で施術することができるようになる。	
第15回	ハンドマッサージ ハンドマッサージ理論	手の構造を把握し、ハンドマッサージの役割を理解する。	復習としてハンドマッサージの手順を習得する（30分～）

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ハンドマッサージ	マッサージの手順の習得	ボランティアなどで活用できるように反復練習を行なう(60分程度)
第17回	カラーリング 化粧品学	ポリッシュの持ち方、塗り方を理解する	
第18回	カラーリング 色彩理論	カラーリングから修正まで行うことができる	カラーリングをモデルに実践する(60分程度)
第19回	ネイルアート	アクリル絵の具を使用してネイルチップにアートを描けるようになる	課題：次回の授業までにネイルアートの図案を考える
第20回	ネイルアート	アクリル絵の具を使用して人の爪にアートを描けるようになる	
第21回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで60分。アートのテーマは「フラワー」とする。	JNEC3級野内容を把握することができる	消毒～カラーリングまでの技術を時間を意識しながら、反復練習を行う。(60～90分程度)
第22回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで60分。アートはネイルチップを使用する。	JNEC3級に相当する技術を行なうことができる	
第23回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで55分。アートは相モデルで実践する。	時間内に作業を終えることができるようになる。	消毒～カラーリングまでの技術を時間内に収めるように、反復練習を行う。(60～90分程度)
第24回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで55分。アートは相モデルで実践し、15分で仕上げる。	確実に作業を時間内に収めることができるようになる	
第25回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで50分。アートは相モデルで実践し、15分以内で仕上げる。	テーブルセッティング、衛生面、技術面においての全てを習得している	
第26回	消毒～ネイルケア～カラーリング～アートまで(70分)	テーブルセッティング、衛生面、技術面においての全てを習得している	
第27回	チップラップ① 自分の爪に装着する	手順を習得し、道具を正しく扱える	復習として材料の役割、扱い方を覚える。(30分～)
第28回	チップラップ② 相モデルで装着する	爪表面、先端を滑らかに整える	
第29回	まとめ 消毒～カラーリングまで	衛生面において不備が無く、正しく扱える	ネイルの基礎知識を含め技術がスムーズに行えるように反復練習を行なう(70分～)
第30回	まとめ 消毒～カラーリングまで	爪の長さ、形が揃えられ、全ての作業がスムーズに行える	

科目名 Subject	アクセサリデザイン Accessories Design		教員名	梶原 恵子	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	◎	△	△
科目の概要	<p>授業は装身具の歴史や知識についての講義と、実際にアクセサリを制作する実習の組み合わせで構成します。知識と技術の両面に触れることで、アクセサリのもつ意味を考えてほしいと思います。</p> <p>装身具は、身分を示す、お守りにするなど、単なる飾りとどまらない「意味」を持たされることが少なくありません。このような、人々の美意識や宗教観を取り込んだ装身具のもつ意味について考えます。</p> <p>さらには、本科目を通して、アクセサリのデザインの枠を越えた「もの作りをする人」の姿勢や考え方を身につけて欲しいと思います。</p>				
授業の目標	<p>学生が制作を通して、もの作りの喜びを知る。</p> <p>学生が、装身具の持つ意義を理解する。</p> <p>アクセサリの制作行程を理解する。</p> <p>学生自身が、立体造形についての考え方を理解し、創作することができる。</p> <p>素材を活かして表現することができる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>雑誌等のアクセサリ関連記事を意識して確認しておくこと。</p> <p>課題に遅れが生じている場合は次の授業までに進めておくこと。</p> <p>各課題の前にシラバスの内容を確認し、制作するデザイン(配色等)を考えておくこと。</p> <p>予習復習は、毎回60分程度を想定するが、時間にとられ過ぎず、課題の遅れに対する対応や、デザインの構成などをしっかり行うこと。</p>				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	適宜用意します			
	使用設備・備品	工具、薬品類は適宜用意します			
	参考文献	雑誌等のアクセサリ関連記事は意識して見ておくこと			
評価方法	<p>受講態度基礎点を最重要視して評価します。これに、課題に取り組む姿勢と熱意、作品の完成度と提出状況を加点することで評価とします。配点は受講態度基礎点を60%、その他を40%とします。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>全ての課題は早く終われば良いというものではありません。丁寧な作業を望みます。</p> <p>材料費は別途徴収(一人5000円。作品重量により追徴があります)。</p> <p>実習では刃物や電動工具、薬品等を使用するため、ケガには注意すること。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容師免許			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ガイダンス 装身具の歴史 課題内容説明	学生自身が装身具について考え、知識を得る	2回目に授業料徴収します
第2回	ラップブレスレット制作 入門編	ビーズと革紐を使用したブレスレットの制作を習得する	予習として第3回のデザイン配色を決めておく
第3回	オリジナルラップブレスデザイン提出(最終課題用)	コンセプトに合わせた配色を考え、イメージを形にすること 工夫する	第2回と3回は同時進行で進みませ
第4回	シルバーリング制作①	ガスバーナーを使用し金属加工の基礎を学ぶ	リングに刻む文字を決定しておくこと
第5回	シルバーリング制作②	制作に必要なリングのサイズや計算方法を学び 習得する	制作するリングのサイズを決定しておくこと
第6回	シルバーリング制作③	シルバーの研磨方法を学び 習得する	予習として制作するデザインを決定しておくこと
第7回	WAXによるチャーム制作	実制作を通して、アクセサリの意味や、ものづくりの喜びについて考えるきっかけを作る	予習としてレジンアクセサリのデザインを調べておくこと
第8回	樹脂アクセサリ講習①	UVレジンの取り扱いの習得	予習としてオリジナルレジンアクセサリの(第9回分) デザインを決定しておくこと
第9回	樹脂アクセサリ制作②	UVレジンによるアクセサリ制作の工程を学ぶ	シルバーアクセを観察し、チャームの仕上げ方法を決定しておくこと
第10回	WAXチャーム研磨仕上げ	鑄造の工程を知り、シルバーの研磨方法を学ぶ	予習としてオリジナルレジンアクセサリの(第11回分) デザインを決定しておくこと
第11回	樹脂アクセサリ制作③	UVレジンによるアクセサリ制作の工程を学ぶ	オリジナルブレスの材料を教材から調達し、次回授業の準備をしておくこと
第12回	オリジナルラップブレスレット(3連)制作①	自らデザインしたブレスレットを制作、技術の習得	全3回のオリジナルブレスレット制作の進みを個人で判断し、進めておくこと
第13回	オリジナルラップブレスレット(3連)制作②	自らデザインしたブレスレットを制作、技術の習得	次回授業で作業が終了するようにブレス制作を進めておくこと
第14回	オリジナルラップブレスレット(3連)制作③	樹脂パーツとWAXチャームを取り付けオリジナルブレスを完成。取り付け方法を学ぶ	授業まとめレポートの内容をまとめておくこと
第15回	授業の総まとめ	構想から製作までの一連の流れを学ぶ	授業まとめレポートの提出

科目名 Subject	フォトシューティング Photo Shooting		教員名	西 将隆 浦川 良将	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	△	◎	○	△
科目の概要	一眼レフカメラを使用し、ビューティ、ファッション、ポートレート等の撮影を行い、作品を作成します。屋外での撮影や、スタジオでの撮影方法を学びます。				
授業の目標	一眼レフカメラの操作、ライティングの技術を身につける。ヘアメイクのスキルを生かし、個人での撮影、チームでの撮影を経験し、作品を作りポートフォリオを制作します。ポートフォリオは、A4サイズのプリントを制作します。就職活動にも、役に立てて下さい。				
時間外学習 (予習・復習)	各授業ごとに、復習の内容を説明します。				
教科書・教材	教科書	オリジナルプリントを配布			
	教材	プリント、資料を授業事に用意します。			
	使用設備・備品	一眼レフカメラ、撮影照明機材、プロジェクター、写真室スタジオ			
	参考文献	図書館にある本全般。			
評価方法	個人課題 50% グループ課題 25% 授業参加意欲 25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	SD カード (16G 以上を推奨) を各自持参して下さい。(第 1 回目の授業で説明します。)				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 講師自己紹介、授業内容紹介	授業、評価の内容を把握する。	授業で必要になるものの 説明 SD カード
第2回	カメラの仕組み 絞りとシャッタースピード ピントを合わせる練習	絞りとシャッタースピードを 理解する。ピントを合わせられ ようになる。	カメラ操作の復習。プリント参照。
第3回	カメラの操作① 絞りを変えて撮る	絞りを変えることで写真がど う変化するか理解する。	カメラ操作の復習。プリント参照。
第4回	カメラの操作② シャッタースピードを変えて 撮る。	シャッタースピードを変えて 写真がどう変化するか理解す る。	カメラ操作の復習。プリント参照。
第5回	カメラの操作③ Mモード・マニュアル撮影	絞り、シャッターの組み合わせ で マニュアル撮影が出来る。	カメラ操作の復習。プリント参照。 バストアップ写真を予習。
第6回	バストアップの撮影	ヘアメイクをして、自然光をい かした作品をつくる。	課題①
第7回	課題①の作品提出と総評	他の人の写真を見て勉強する。	ライティングを予習。
第8回	ライティング実習① アイランプ基礎編	アイランプで効果的なライテ ィングを考え撮影する。	ライティングを復習。
第9回	ライティング実習② アイランプ応用編	逆光やバウンス光を利用した ライティングを考える。	ライティングを復習。
第10回	ライティング実習③ ストロボ 基礎編	ストロボの特性を理解する。	ライティングを復習。
第11回	ライティング実習④ ストロボ応用編	逆光やバウンス光を利用した ライティングを考える。	作品撮りのアイデア調査、チームの 編成。
第12回	作品撮り企画会議	グループに分かれテーマを企 画する。	モデル、撮影イメージを決める。必 要なものを確認。
第13回	修了制作 作品撮り	チーム一丸となり、1枚の写真 作品を作る。	課題③
第14回	修了制作 作品撮り	チーム一丸となり、1枚の写真 作品を作る。	課題③
第15回	修了制作 作品撮り	作品撮りプリントアウト ポートフォリオ完成。	

科目名 Subject	服飾デザイン Apparel Design		教員名	大野 淑子 渡辺 聡子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	△	△
科目の概要	<p>服飾デザインでは美齢学の一つ、装うことの大切さを実習を通して学ぶ授業です。美容のトータルなおしゃれとしてファッションは欠かせないものです。服飾という大きなくりの中でデザインと必要性を学んでいきましょう。 一人一人が自分の生活の中に服飾デザインを見出し、作り出す喜びを学んでいただきたいと思います。</p>				
授業の目標	<p>[知識] 授業の中で取り扱う布の知識、どんな種類があるか、どんな布が服飾に適しているかを知ってほしい。 [技能] 服飾を構成するためには手縫い（接着剤を用いる場合もある）ミシンの操作を学ぶ。また、服飾を構成するための型紙（パターン）を理解してほしい。 [態度] 未経験の内容が多いだけに説明をよく聞き、わからないことは質問する。まわりの人たちとの協調も必要。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>実習に必要なスカート、パンツのための布地は各自購入するので必ず予定を組んで必要な用尺、糸などを購入する。また、デザインを決めるときは前もって各自雑誌等を見たり、授業の中で提示されたデザインの中から決めてくる。</p>				
教科書・教材	教科書	特に必要としない			
	教材	プリントを配布する。			
	使用設備・備品	家政実習室での作業になるので、ミシン、アイロン、洋裁用具等			
	参考文献	デザインを考えるときの雑誌など			
評価方法	作品の完成度で評価するが、授業中の態度、授業の習熟度を加味する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>演習の授業であり人数制限があります。一クラス 20 人までとする。各自製作するスカート、パンツの布地は各自購入する。授業の前半での説明が多いので遅刻は厳禁。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業内容の説明・授業で使用する用具その他の説明	美齢学を基本とし、自分たちが身に着ける衣服・服飾に関心をもち如何に美しく構成するかを学ぶ	日常的に自分の身に着けている衣服、服飾に関心を持つ
第2回	衣服の構成を学ぶ	衣服・服飾を通してトータルな美容を学ぶ	衣服の成り立ち、素材等に関心を持ち、生活の中での服飾を学ぶ
第3回	手縫い、ミシン縫い（直線縫い、ロックミシン）の使い方	衣服の構成に必要なミシン縫い、手縫いなどそれぞれに応じた手法を学ぶ。	自分の身に着けている衣服のボタン付け、縫いなどができるようにする。
第4回	ミニクッションカバーの作成	直線縫いがきれいにできること。アイロンの手法を学ぶ。	生活の中でアイロンのかけ方を習得する。
第5回	トートバック（エコバック）の作成。	直線縫いの応用としてトートバックの縫製をする。布と糸との関係を学ぶ	市販のトートバックなど袋物の縫製を観察する。デザインによって見え方がどう変わるのかもチェックしたい。
第6回	前回の続き	バックに付ける持ち手の種類、縫製等注意深く行う。地厚なものにはミシン縫製が困難になることを学ぶ。	家庭にミシンを所有している人は少ないが空き時間で縫製の応用を試してみたい。
第7回	スカートまたはパンツの作成。デザインを考える。	服飾デザインとして多くの中から自分に合ったデザインを考える。	市販の服飾デザインに関心を持ちショッピング、雑誌等で人が身に着けるものとして学ぶ。
第8回	スカート、パンツの構成を考える。パターンとはどういうものかを学ぶ。	自分の体に合ったパターンを作成する。	パターン作成にはどんな方法があるか調べてみよう。
第9回	前回の続き。自分のスカートまたはパンツのパターンを作成する。	縫い代をつけたパターンを作る。	市販のパターン、雑誌に付録としてついているパターンなど、洋服のパターンについて調べてみよう。
第10回	布について。スカート、パンツに合った素材を学ぶ。	デザインによって適している素材を学ぶ。	ショッピングする際、デザインによってどんな布が使われているか調べてみよう。
第11回	スカート、パンツの裁断、しるし付け。	縫い代をつけ裁断しチャコペーパーを用いて印付けを行う。	布によって印のつけ方はいろいろある。また、個人の衣服の裁断と既製服の裁断との違いも調べてみよう。
第12回	縫製1	脇縫いなどの縫製	返し縫いなど手法を学ぶ
第13回	縫製2	裾上げ	普段から裾上げなど自分でできるように心がける。
第14回	縫製3	ウエストゴムの始末	ゴム通しは簡単なようだがなかなかうまくいかない、幅の広いもの、狭いものそれぞれについて学ぶ。
第15回	完成、試着、評価	服飾は身に付けてはじめてその美を感じるものである。美齢学を基本に置いて試着、評価を見る	授業を受けてからは今まで以上に細部にわたり服飾に関心をもって生活してほしい。

科目名 Subject	特別活動 Special Activities		教員名	秋田 留美	
開講年次	2	開講時期	通年	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>本学が学生にとって意義や必要性があると判断した、特別講師による講演や授業の他、ボランティア活動について随時開講する。学内行事についても特別活動の一環である。行事に参加することによって、大学生としてのマナーや協調性、自主性を身につける。資格取得のための実力を向上させる。</p>				
授業の目標	<p>平常の授業とは異なる講座等によって、見識を広める 教育目標でもある、自ら考え、行動できるようになる。振り返る力を養う。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>授業の性質上、時間内学習と時間外学習との区別が出来ないが、講演レポート作成、ボランティア等時間外学習と感ずる部分も時間内との意識でしっかりと取り組むこと。</p>				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	<p>受講態度で評価する。課題やレポート提出。 内容により、レポートや提出物がある。全ての内容を勘案して評価する。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<p>授業の実施については、掲示板を確認すること。</p>				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	※学校行事について ①すべて出席をもって評価対象とする。	ホスピタリティ及びコミュニケーション力等の社会人基礎力を養う。	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回	※特別講師による講演、授業について ①すべて出席をもって評価対象とする。 ②課題・レポート等課された場合 提出物も評価対象とする。	普段の授業では得られない知識経験を心得、社会人基礎力を養う。	
第7回			
第8回	※ボランティア活動について ①原則八王子市から提供されている活動に参加すること。 (地方出身学生については地元での活動を認める場合もある) ②必ず年1回以上参加すること。 ③参加に関しては各個人で申請すること。ただし、通常授業を避け、時間割で空いている時間帯にするか、夏季、冬季、春季休業期間中、土日祝祭日を利用すること。 ④活動終了後は、ボランティア活動報告書にサイン等をもってゼミ担当へ提出すること。	ホスピタリティ及びコミュニケーション力等の社会人基礎力を養う。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回	国家試験対策① 習熟度別にクラス分けをし、筆記試験課目内容の確認と理解をする	練習問題を解きながら理解を深め、知識を増やす	
第14回	国家試験対策② 実技試験における技術と衛生の理解と実践を徹底的に行う	技術面、衛生面ともに国家試験合格レベルへ到達する	
第15回	国家試験対策③ 筆記試験課目における知識を定着させるため、内容理解を徹底して行う	筆記試験の全課目が合格レベルに到達する	

科目名 Subject	ジェロントロジー (USC) Gerontology (USC)		教員名		五十嵐 靖博
開講年次	1	開講時期	通年	単位	4
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	△	○
科目の概要	超高齢化社会を豊かに生きるために、個人レベルの加齢の問題だけでなく、社会構造の変化や諸問題まで幅広く学ぶ。その知見を美容の諸領域と結びつけ、美齢学へと発展させる基礎を築く。南カルフォルニア大学ジェロントロジー学部による e-learning を用いた遠隔授業である。				
授業の目標	高齢者に限らず、あらゆる年齢層の人を加齢と美容の視点から理解する。美容を通して超高齢化社会において個人と公共の発展と福祉の向上に貢献する意識をもつ。美容とジェロントロジーを融合して美齢学の基礎を習得し、職業生活に活かす知識を習得するとともにあらゆる年齢層の人をより深く理解する。				
時間外学習 (予習・復習)	繰り返しビデオプログラムを視聴し、深く学ぶ。 各回の復習時間は60分程度を想定します。				
教科書・教材	教科書	特に指定しない。			
	教材	USC ジェロントロジー・プログラム			
	使用設備・備品	e-learning によって受講するため、iPad やインターネットにアクセスできる環境が必要である。			
	参考文献	山野正義著『生き方の革命：ますます輝く人生を』IN 通信社 R. C. アッチェリー・A. S. パルシェ著『ジェロントロジー：加齢の価値と社会の力学』きんざい			
評価方法	全てのレッスンを受講し Q&A に正答する必要がある。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	自発的に受講する姿勢が必要である。繰り返しビデオプログラムを視聴し、深く学んでほしい。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ジェロントロジーとは何か	ジェロントロジーとは何か説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること。
第2回	エージングに関する固定概念	エージングにかかわる諸問題を自分の言葉で説明できる。	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第3回	ライフコースの展望	ライフコースの観段階について説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第4回	介護と社会支援	介護と社会支援の必要性と現在、直面している諸問題を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第5回	エージングの社会学的理論	加齢を説明する主な社会学理論を自分の言葉で要約できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第6回	エージングにともなうパーソナリティの変化	加齢とともにパーソナリティがどう変わるか説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第7回	高齢者の人口動態	日本と世界の高齢者の人口動態の特徴を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第8回	加齢の生物学的理論	生物学が加齢をどのように説明するか、概略を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第9回	記憶と認知能力	加齢にともなう記憶と認知能力の変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第10回	視覚と聴覚	加齢にともなう視覚と聴覚の変化と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第11回	加齢による変化と病気の違いを理解する	加齢による変化と病気の違いを説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第12回	加齢による高齢者の心身の機能的変化と効果的な支援	加齢による高齢者の心身の機能的変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第13回	加齢にともなう慢性疾患	加齢にともなう主な慢性疾患を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第14回	高齢者の抑うつ	高齢者の抑うつの特徴と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第15回	死と死にゆく過程	死にゆく過程を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること

科目名 Subject	インターンシップ Internship		教員名	鈴木 ひろ子	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>インターンシップの意味や目的、社会常識やコミュニケーションスキルについて事前準備を行い、実践に臨みます。 一定期間、企業等で仕事を体験することにより、社会人として働くとはどういうことか、社会人として必要な心構えや、知識、技術はどのようなものか、について学びます。</p>				
授業の目標	<p>一定期間、企業等で就業体験を行う。 就業体験を通して、業種・職種・企業を理解する。また、自分の適性や将来について考える。 そして、社会人として必要な知識・能力・コミュニケーション力を知り、養う。 インターンシップ先の幅広い年代層の顧客に対応する力を養う。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	事前訪問・インターンシップ（現場体験）及び期間中の日々の記録・まとめ				
教科書・教材	教科書	プリント			
	教材	プリント			
	使用設備・備品	PC他（報告会対象者）			
	参考文献	長谷川文代編著「インターンシップリテラシー」西文社			
評価方法	<p>授業や研修への取組み姿勢等とインターンシップ先の評価をもとにします。事前教育課題 10%、日誌 20%、レポート 20%、インターンシップ先の評価 30%、報告会等での発表 20%</p>				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>インターンシップは企業別に希望者を募り、選抜面接を行います。 合同ゼミで成果発表をしてもらう場合があります。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	事前教育1	インターンシップを理解する	参考文献を読み授業の目的を把握する
第2回	事前教育2	社会人常識を学ぶ	配布資料を読みインターンシップ先で困らないための準備を行う
第3回	事前教育3	社会人常識を学ぶ	企業研究を行いインターンシップ先で困らないための準備を行う
第4回	事前訪問	事前に企業研究を行い、インターンシップ先について理解する。	企業研究を行いインターンシップ先で困らないための準備を行う
第5回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第6回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第7回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第8回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第9回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第10回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第11回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第12回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第13回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 担当教員に報告
第14回	御礼状を書き、インターンシップのまとめを行う	経験したことを再度確認・精査し、今後の学習に活かすことが出来る部分を知る。	学習の成果の確認 担当教員に報告
第15回	インターンシップの成果について報告する	自分の経験を発表することでプレゼンテーション等の知識、技術を学ぶ。	パワーポイント資料を作成し学習の成果の確認

科目名 Subject	海外インターンシップ Overseas Internship		教員名	大野 淑子	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>インターンシップの意味や目的、社会常識や英語も含めたコミュニケーションスキルについて事前準備を行い、実践に臨みます。一定期間、海外の企業やサロンで仕事を体験することにより、海外で働くとはどういうことか、また社会人として必要な心構えや、知識、技術はどのようなものか、について学びます。行先により時期が異なりますが、7月初旬までに決定し7～8月に説明会及び事前学習を行います。インターンシップは8月末～9月末までの間で1週間程度の実施となります。</p>				
授業の目標	<p>海外の企業やサロン等での現場体験を通して社会を知り、グローバルに働くために必要な知識や技術が何か理解できるようになります。日本で経験できない環境の中でチャレンジ精神を持って取り組み、英語を含めたコミュニケーション能力やホスピタリティなど社会人基礎力を身につけ、進路選択のきっかけとします。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>企業研究、英語コミュニケーション力の強化など各自自覚を持って準備します。インターンシップ期間は業務内容や学んだことを整理し日々日誌をまとめながら理解を深めます。</p>				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	教員作成資料・レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材			
	使用設備・備品	ipad・PC 他			
	参考文献	「インターンシップリテラシー」長谷川文代 西文社 2010			
評価方法	事前教育課題 20%、日誌 40%、レポート 20%、報告会等での発表 20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>取り組み姿勢、健康状態によっては希望に添えない場合もあります。また海外事情により実施の変更や中止の可能性があります。渡航の注意をよく読んで参加すること。</p>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	事前教育1 インターンシップを理解する	インターンシップの意味や目的を理解する	インターンシップ先について事前に調べ、授業で共有したことをまとめる
第2回	事前教育2 海外渡航について学ぶ	安全に海外でのインターンシップに臨むことができる	海外渡航についての資料を読み、事前に必要な情報や物を手配する
第3回	事前教育3 英語コミュニケーションを学ぶ	海外で英語でのコミュニケーションができる	英語教材による課題をこなし、授業で学んだコミュニケーションを繰り返し練習する
第4回	事前教育4 レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材により目標を明確にする	目標に向かってモチベーションをもって臨むことができる	目標をまとめた上で授業に望み、授業後に改めて整理する
第5回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	スケジュールを把握し、事前に確認の上必要な情報をまとめる。日誌をまとめる
第6回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める。日誌をまとめる。
第7回	インターンシップ	多様な客層に対し美しく齢を重ねる美齢の視点で関わる事ができる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める。日誌をまとめる。
第8回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める。日誌をまとめる。
第9回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める。日誌をまとめる。
第10回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める。日誌をまとめる。
第11回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める。日誌をまとめる。
第12回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める。日誌をまとめる。
第13回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める。日誌をまとめる。
第14回	インターンシップのまとめ	経験したことを整理しその後の学習に活かすことができる	経験したことをレポートにまとめる
第15回	成果報告	お互いの学びを共有し今後の学習に活かすことができる	自分の体験をプレゼンテーションできるよう準備する。友達の発表から共感したものを活用する

科目名 Subject	美容衛生管理論 Sanitation administration Theory		教員名	菅野 康則	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	△	—
科目の概要	美容衛生管理論は、これまで学習してきた「人々を疾病から守り、健康の保持・増進をはかる知識と技術」を確実なものにするため、公衆衛生（予防医学と保健）、環境衛生（快適な生活環境条件、環境と健康障害）、感染症（病原微生物、主な感染症、感染症の予防）、衛生管理技術（感染症を予防する重要手段の消毒法）などで構成されている。				
授業の目標	この科目は、4分野から構成されているが、これを（公衆衛生・環境衛生）、（感染症）、（衛生管理技術）の3分野に整理し、分野ごとに教科書と教材を用いて学生自ら課題に取り組み、質疑応答を通して最新の正しい知識を身に付ける。				
時間外学習 （予習・復習）	講義区分（1～6回）、（7～11回）、（12～15回）の教育が終了しだい、その都度授業計画の予習・復習・備考欄に記述したテーマについてのレポートの提出を求めます。				
教科書・教材	教科書	衛生管理（2017）、日本理容美容教育センター			
	教材	配布プリント（教科書と国家試験に基づくまとめ）			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	試験（80%）、平常点（10%）、レポート（10%）				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中の居眠り、おしゃべり、内職等の行為者には退室を命ずる事がある。				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	・公衆衛生とは ・公衆衛生の歩み ・公衆衛生とWHOの役割を学ぶ	公衆衛生は、人々の生命と生活を守ることを目標にしていることが理解できる。	・病気になる生活の仕方を考えてみよう(45分)。 ・公衆衛生の発展に寄与した人々を調べてみよう(45分)。
第2回	・公衆衛生水準の評価法 ・先進国の疾病構造(生活習慣病)と対策を学ぶ	国民の健康水準を明らかにして、我が国の死亡率の半数以上を占める生活習慣病予防の重要性が理解できる	我が国の死亡原因は、100年前、50年前と比較してどのように変化したかをまとめてみよう(100分)。
第3回	・母子保健、介護保険、精神保健、医療保険などの社会保障制度について学ぶ	社会保障とは国民が相互に支えあい、国が必要な扶助を行うことで成立していることの重要性が理解できる	寝たきりや認知症にならないで、生涯現役社会を実現するには、日常生活の中でどうすればよいかまとめてみる(100分)
第4回	・栄養と食生活 栄養とその働き、栄養摂取状況、食生活指針などを学ぶ	国民の栄養は良好だが、食生活は、生活習慣病との関連が深く食生活の改善の重要性が理解できる。	体を構成している成分と食品に含まれている成分の関係についてまとめ、肉食中心の食生活の問題点をまとめる(100分)
第5回	・空気、水、日光と健康について学ぶ	空気、水、日光は自然環境要因であり、人の生命と生活に深い関連があることが理解できる。	健康は様々な環境要因によって左右される。空気、水、日光が人の健康にどのような影響を与えるかをまとめてみる(90分)
第6回	・生活環境衛生 衣と住居と健康 上下水道と廃棄物と健康を学ぶ	生活に必要な上水、人々に快適な環境を与える衣服や住居、し尿やごみの適正処理について理解できる。	衣服下気候と体温調節について、人間の健康に影響する住居条件や、ごみの中の資源の大切さをまとめてみよう(90分)
第7回	・感染症の原因となる微生物とはどんな生物かを学ぶ	大きさ、形、構造、生活現象、増殖と環境の影響などが理解できる。	細菌は細胞構造をとり自ら分裂する。ウイルスは細胞構造をとらないのに子孫を残す仕組みをまとめてみよう(100分)
第8回	・感染症成立のための3大要因と感染のなりゆきについて学ぶ	①病原体の存在②病気になるやすい人の存在③病原体を運搬する動物や物の存在が理解できる。	感染症は、3大要因の1つを欠くと成立しないことを調べて理解しよう(90分)。
第9回	・感染症法で規定している感染症の種類を学ぶ	類型、感染症名、性格、主な対応・措置などについて理解できる。	この中に発病すると美容業務に従事してはならない感染症名とその特徴をまとめてみよう(100分)。
第10回	・空気、飛まつを介する感染症を学ぶ	結核、ジフテリア。インフルエンザ(含むトリ、新型)、麻疹、百日咳。風しんについて理解できる。	空気感染と飛まつ感染の違いをまとめてみよう(100分)。
第11回	・飲食物を介する感染症 ・血液を介する感染症 ・動物、節足動物を介する感染症を学ぶ	・消化管感染症5種 B型肝炎、C型肝炎、エイズ、梅毒、ラッサ熱、ペストなどについて理解できる	病原体が飲食物を介して感染した場合に食中毒と感染症に区分されるが、どう違うのかまとめてみよう(100分)。
第12回	・消毒とは ・消毒の意義(重要性) ・滅菌と消毒の区別を学ぶ	・感染症の発症には3大要因がある。消毒は、感染源と感染経路に対する防止対策であることが理解できる	美容器具は3大要因の感染経路(病原体を運ぶもの)に該当することを調べて理解しよう(90分)。
第13回	・美容の分野における消毒を学ぶ	・消毒に関連のある美容師法令が理解できる。	血液が付着した器具や疑いのある器具類は特別な方法で消毒する。血液を介する感染症を調べてまとめてみる(90分)。
第14回	・消毒法各論 理学的消毒法 化学的消毒法を学ぶ	・理学的・化学的消毒法に関する正確な知識が得られる。	理学的消毒法と化学的消毒法にどのようなものがあるか調べてまとめてみよう(100分)。
第15回	・消毒薬の調整を学ぶ	・教科書の消毒薬希釈法の手順が理解できる。	212P(教科書)のエタノール水溶液の調整法を予習・復習する(100分)。

科目名 Subject	保健Ⅱ Public HealthⅡ		教員名	柏戸 奈苗	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	△	△	△
科目の概要	美容保健Ⅱは身体の構造（解剖学）と機能（生理学）を総合的に学ぶ科目です。身体各部の構造（つくり）と機能（働き・役割り）を理解し、ヘアケア・ネイル・メイクの医学的基礎知識を確立してください美容保健Ⅱは美容保健Ⅰ（皮膚科学）の基礎となる科目です。				
授業の目標	①系ごとの、構造と機能を理解できる。②それぞれの器官の構造と機能を理解できる③総合的に身体をつくりと働きをとらえ、美容の施術、お客様へのアドバイスに活かすことができる。美容保健Ⅰ（皮膚科学）の基礎として活かせる。				
時間外学習 （予習・復習）	予習：予習プリントを配布しますので、教科書を見て、基本構造図を仕上げてください。復習：復習プリントを配布しますので、授業ノートを参考に仕上げ、翌週提出してください。				
教科書・教材	教科書	理容・美容保健			
	教材	毎回、プリントを配布いたします。			
	使用設備・備品				
	参考文献	ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版）			
評価方法	①予習プリントと復習プリントの提出状況 ②授業への取り組み ③定期試験の結果から総合的に評価致します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	指定された席に着席しない場合は、欠席と見なします。授業妨害と見なされる行為が確認された場合には退出して抱くことがあります。授業中の携帯操作は禁止させていただきます。携帯のスイッチは切ってください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容師国家試験 筆記試験科目			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 1章 美容保健	第 身体各部と顔部の名称と役割を説明できる。	『復習』課題プリント-1 『予習』予習プリント-1
第2回	第2章 細胞と体液	細胞・組織・器官・系の関係が理解できる。体液と血液の役割と特徴を理解し、説明できる	『復習』課題プリント-2 『予習』予習プリント-2
第3回	第3章 骨格器系	骨格の役割と構造を理解できる。主な骨の名称と特徴を説明できる	『復習』課題プリント-3 『予習』予習プリント-3
第4回	第4章 筋系	筋の役割と分類・それぞれの特徴を理解できる。主な筋の名称と特徴を説明できる	『復習』課題プリント-4 『予習』予習プリント-4
第5回	第5章 神経系	神経の役割・分類を理解し、説明できる。中枢神経の構造と役割を理解し、説明できる	『復習』課題プリント-5 『予習』予習プリント-5
第6回	第5章 神経系	2つの末梢神経の分類を理解し、説明できる。体性神経と自律神経を理解し説明できる	『復習』課題プリント-6 『予習』予習プリント-6
第7回	第6章 感覚器系	身体のリサとしての感覚の種類と役割を理解できる。また、特殊感覚器の構造と役割を理解できる	『復習』課題プリント-7 『予習』予習プリント-7
第8回	第7章 循環器系	循環系の役割と構造を理解し、説明できる	『復習』課題プリント-8 『予習』予習プリント-8
第9回	第8章 呼吸器系	呼吸器系呼吸の役割と種類、呼吸器系の構造と働きを理解し、説明できる	『復習』課題プリント-9 『予習』予習プリント-9
第10回	第9章 消化器系	消化器系の構造と役割を理解し説明できる。また、美容との関連を説明できる	『復習』課題プリント-10 『予習』予習プリント-10
第11回	第10章 泌尿器系	泌尿器の役割と種類を理解し美しさとの関連を説明できる	『復習』課題プリント-11 『予習』予習プリント-11
第12回	第11章 内分泌系	内分泌系の構成と役割・外分泌との相違、内分泌の中枢を理解し、説明できる	『復習』課題プリント-12 『予習』予習プリント-12
第13回	第12章 環境と生体	「ホメオスタシス」の役割を理解する。免疫の仕組みと役割を説明できる。	『復習』課題プリント-13 『予習』予習プリント-13
第14回	1～12章 重要事項の再確認	系ごとの臓器の役割・並び順を確実に覚える。	『復習』課題プリント-14 『予習』予習プリント-14
第15回	1～12章 国家試験頻出問題にチャレンジ	国家試験頻出問題を50%正解できる	『復習』課題プリント-15 (試験対策用)

科目名 Subject	化粧品研究 Study of Cosmetics		教員名	橋 友理香	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	△	△
科目の概要	<p>化粧品は、美容技術・美容の業務を行う上で欠くことができないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものである。化粧品を安全かつ効果的に選択するには、化粧品の正確な科学的知識と適正な取り扱い方法を熟知しておく必要がある。</p> <p>本科目では、化粧品に関する正確な知識と適正な技術を身につけるために、美容において使用される主な化粧品の種類、使用目的、成分、作用原理、使用上の注意を学ぶ。また、化粧品に関わる調査学習とディスカッションを主としたグループワークを実施する。これにより、化粧品に関する知識を深め、課題解決のための思考力・表現力を養う。</p>				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容技術、美容の業務を行う上で必要な化粧品の基礎知識と取り扱い方法を熟知し、問いに正しく回答することが出来る。</li> <li>・化粧品に関する課題を発見し解決するために、様々な媒体から信頼できる情報を収集し、自身の考えをまとめて他者と議論することが出来る。</li> </ul>				
時間外学習 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書あるいは配布資料を用いて授業内容を完全に理解する。</li> <li>・小テストの問題は全問正解できるようになるまで反復練習する。</li> <li>・図書やインターネットを用いて調査学習を行う。</li> </ul>				
教科書・教材	教科書	(書籍名) 化粧品化学 (著者・発行) 公益社団法人日本理容美容教育センター、(2018年)			
	教材	ipadにデータ配信またはプリントを配布			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	<p>定期試験の得点で評価する(100点)。          その他、発表とレポートの課題について、以下の3項目を満たしたものに最大10点を加算する。●課題の背景を述べている●正しく情報收拾ができる●他者の意見等を考慮した上で自身の考えを明確に表現できている。ただし、総合評価の最高点は100点とする。</p>				
	<p>なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。</p>				
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ipad(充電済)と教科書を必ず持参してください。</li> <li>・クラス全体への連絡はipad(classroom)に配信します。</li> <li>・担当教員への連絡方法 E-mail: yurika.hashi@yamano.ac.jp</li> </ul>				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 香粧品の社会的意義と品質特性	本科目の概要と学び方を知り実現できる。香粧品の社会的意義と品質特性を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第2回	香粧品の規制と取り扱い	香粧品を安全かつ合理的に取り扱うことができる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第3回	香粧品の原料(1) 水性原料と油性原料、界面活性剤	水性原料、油性原料、界面活性剤について説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第4回	香粧品の原料(2) 高分子化合物、色材、香料、その他の配合成分	高分子化合物、色材、香料、その他の配合成分について説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第5回	基礎香粧品(1) 皮膚洗浄用香粧品、化粧水	皮膚洗浄用香粧品、化粧水の種類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第6回	基礎香粧品(2) クリーム、乳液、その他	クリーム、乳液の種類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第7回	前半のまとめと解説	1～6回講義の重要事項を記憶し、問いに正しく解答できる。	配布資料の復習 (30分) 調査学習・資料作成 (30分)
第8回	メイクアップ用香粧品	各種メイクアップ用香粧品の種類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第9回	頭皮・毛髪用香粧品(1) 頭皮や毛髪の性状、シャンプー剤、スタイリング剤	シャンプー剤、スタイリング剤(油状、液状)の種類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第10回	頭皮・毛髪用香粧品(2) スタイリング剤、パーマ剤	シャンプー剤、スタイリング剤(高分子基剤)の種類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第11回	頭皮・毛髪用香粧品(3) ヘアカラー、育毛剤	ヘアカラー、育毛剤の種類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第12回	芳香製品と特殊香粧品	芳香製品と特殊香粧品の種類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)
第13回	香粧品と美齢学を考える	香粧品と美齢学を関連づけて考えを発表し議論することができる。	レポート作成 (30分) 小テストの復習 (60分)
第14回	まとめと解説	全講義の重要事項を再度確認し、具体的に説明できる。	レポート作成 (60分)
第15回	課題発見・解決に関する演習	香粧品における課題を発見し、習得した知識を適用して問いに対する回答を導ける。	課題設定と解決の宿題 (60分)

科目名 Subject	美容芸術演習 Art of Beauty Work		教員名	富田 知子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	○	△
科目の概要	美容には、日常の美容施術とは別に、作者の表現活動としての作品がある。この作品活動は時にして日常に新しい技術を提供することもある。この授業では日常の社会性からは離れ、美容芸術という自身の表現活動を目指す。しかし美容の表現であることが原則とされ、人体を中心にいたものとする。人がおかれる環境をコンセプトの枠組みとしえ、作品表現を行う。				
授業の目標	自身が思い描く世界観を、いかに美容技術を超えるあらゆる手段を用いて表現できるかを経験することで、美容表現に新しい気づきをもたらすことを目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	作品制作に関する準備を行い、授業内の作業を計画通り進めるように心がける。				
教科書・教材	教科書	資料を配布			
	教材	ミニウイッグ			
	使用設備・備品	エアブラシ等画材			
	参考文献	図書館の資料			
評価方法	自身の思い描く世界観が表現された作品の提出				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	制作に必要な準備をしっかりと行うこと				
本科目履修と 関連する資格	資格名	特にありません			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業内容に関するガイダンス	授業の流れを理解する	自身の表現したい世界感について考えてくる
第2回	時代の美意識	時代の美意識を知る	最終目標であるミニウィッグ作品のイメージソースを収集しておく
第3回	頭部のバランスの自由度を知るイラストレーション	パターンアートを使用し、偶然性を利用しヘアスタイルを構成する	最終目標であるミニウィッグ作品のコンセプトを決定しておく
第4回	コンセプトコラージュ	イメージソースのコラージュを行い構想を固める	ヘアスタイルの構想を初める
第5回	リンクブックの完成	リンクブックにヘアスタイルのデザインを行う	ヘアスタイルの色を決定しておく
第6回	デザイン構成と手順計画	制作に必要な美容材料の選定	ヘアアクセサリを検討する
第7回	展示用土台の完成	ミニウィッグの作品背景となる土台の制作	アクセサリに使用する材料の収集
第8回	使用素材の加工	収集した材料の加工	加工を完成させておく
第9回	毛髪の下準備	ヘアカラー施術	ヘアスタイルに必要な材料を収集
第10回	毛髪の下準備	毛髪の加工	メイクの下絵を完成させて来る
第11回	メイクの下準備	ミニウィッグの肌色の加工	ヘアスタイルのパーツを完成させておく
第12回	髪型を完成させる	髪型を作る	ヘアアクセサリを完成させておく
第13回	メイクを完成させる	ミニウィッグにメイクをする	展示用土台を完成させる
第14回	作品を完成させる	ウィッグ完成と土台への設置	プレゼンテーション原稿準備
第15回	展示とプレゼンテーション	プレゼンテーションを行う	作品の写真をにポートフォリオに収める

科目名 Subject	カット&カラーⅡ Haircutting & Hair ColoringⅡ		教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	○
科目の概要	美容技術プログラム・ピボットポイントシステムにおける、ヘアスカルプチャー・ヘアカラーリングの基礎理論を理解し、テクニックを習得していく。また創造力を刺激し、洗練されたデザインの基盤を作り上げる。				
授業の目標	4つのベーシックフォームヘアスタイルを再確認し、2つ以上を組み合わせた応用ヘアスタイル・ヘアスカルプチャープロセスを実践し習得する。 また、カラーデザインでは、基礎知識と化学作用の知識を再確認し、更に加齢などによって起こる白髪（グレイヘア）の応用理論やテクニック、また高齢者がどのように美容を意識しているかなどの現状把握を行い、より求められるカラーデザインを行うための塗布テクニックを習得する。その理論と技術を駆使して、モデルまたはウィッグにカラーデザインを施すことができる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習・毎回の課題についてテキストを熟読しておく。30分 予習・テキスト内の「デザインの決定」（展開図などを記入）を予測記入しておく。20分 復習・テキスト内の評価表を記入し、点数化しておくこと。20分 復習・課題の展開図などの黒板を板書し、次回に向けて内容を見返し理解を行う。30分 ※指定時間は平均的な時間を記載している。人によって時間が掛かる学生もいるだろう。時間にとらわれ過ぎず次回授業までに知識・技術が漏れないようにすることが重要です。				
教科書・教材	教科書	HAIR SCULPTURE PIVOT POINT 2014、教員作成資料			
	教材	なし			
	使用設備・備品	310教室・シャンプー室			
	参考文献	美容技術理論Ⅰ・『COLOR DESIGN』PIVOT POINT			
評価方法	提出物10%、毎回の作品評価40%、期末試験50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻・欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退出等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	ピボットポイント・ヘア・スカルプチャー ピボットポイント・カラーデザイン			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	レイヤー（1） 基礎理論を再確認し、トレンド・全体のヘアバランスを学ぶ	レイヤーヘアスタイルの種類と全体バランス・展開図を述べるができる。	予習：レイヤー理論（P110～117）の再熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う・黒板板書の見直し。30分
第2回	レイヤー（2） 課題4-W6を実践し、スタイル評価（A～Zまで）を受ける	レイヤースタイル（縦ライン）を行うことができるようになる。	予習：課題4-W6（P115～122）の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第3回	レイヤー（3） 課題4-W7の説明を聞き、デモンストレーションを見る	レイヤースタイル（斜め前下がりの）の展開図と手順を説明できる。	予習：課題4-W7（P126～130）の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第4回	レイヤー（4） 課題4-W7を実践し、スタイル評価（A～Zまで）を受ける	レイヤースタイル（斜め前下がりの）を行うことができるようになる。	予習：課題4-W7（P126～130）の再熟読・予測記入。50分 復習：授業の振り返りを行う・板書見直し。30分
第5回	レイヤー（5） 課題4-W8の説明を聞き、デモンストレーションを見る	レイヤースタイル（水平ライン）の展開図と手順を説明できる。	予習：課題4-W8（P134～139）の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第6回	レイヤー（6） 課題4-W8を実践し、スタイル評価（A～Zまで）を受ける	レイヤースタイル（水平ライン）を行うことができるようになる。	予習：課題4-W8（P134～139）の再熟読・予測記入。50分 復習：授業の振り返りを行う・板書見直し。30分
第7回	ヘアカラーリング（1） color design 理論（ゾーン・スライシング）を学ぶ	color design 基礎理論（ゾーン・スライシング）を説明することができる。	予習：アルカリカラーの既染毛塗布理論を調べまとめる。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第8回	ヘアカラーリング（2） 課題1（ゾーン・スライシング）を実践する	ゾーンパターン・スライシングの施術が行えるようになる。	予習：アルカリカラーの塗布テクニックを調べる。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第9回	ブロー（1） 基礎理論を再確認し、デンマンブラシ・ロールブラシの施術を実践する	デンマンブラシ・ロールブラシを使用したブローテクニックを行うことができる。	予習：ウイッグでのブロー練習を行っておく。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第10回	ブロー（2） スケルトンブラシを実践し、その後、相モデルでのブローの練習を行う	スケルトンブラシを使用したブローテクニックを行うことができる。	予習：人頭モデルでのブロー練習をしておく。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第11回	セიმレイヤー（1） 基礎理論を再確認し、トレンド・全体のヘアバランスを学ぶ	セიმレイヤーヘアスタイルの種類と全体バランス・展開図を述べることができる。	予習：セიმレイヤー理論（P142～147）の再熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第12回	セिमレイヤー（2） 課題4-W9を実践し、スタイル評価（A～Zまで）を受ける	セიმレイヤースタイル（横と縦ライン）を行うことができるようになる。	予習：課題4-W9（P115～122）の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第13回	アドバンス（1） 基礎理論と課題ウイッグの観察方法を学ぶ	アドバンスの基礎理論を説明できる。また、展開図・手順図を作成することができる。	予習：アドバンス理論（P164～172）の再熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第14回	アドバンス（2） 課題ウイッグと同じになるようにカットできるかを学ぶ	美容の逆算思考を実施することができる	予習：展開図の書く練習をしておく。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分
第15回	メンズカット（1） 基礎理論とトレンド・全体のヘアバランスを学ぶ	メンズヘアスタイルの種類と全体バランス・展開図を説明することができる。	予習：メンズカット理論（P234～240）の熟読。30分 復習：授業の振り返りを行う。30分

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	メンズカット(2) 課題4-W6を実践し、スタイル評価(A~Zまで)を受ける	レイヤースタイル(縦ライン)を行うことができるようになる。	予習:課題4-W6(P115~122)の熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第17回	ヘアカラーリング(3) color design 理論(ゼロテクニック)を学ぶ	color design 基礎理論(ゼロテクニック)を説明することができる。	予習:白髪染めカラーリングの社会思潮を調べまとめる。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第18回	ヘアカラーリング(4) 課題1(ゼロテクニック)を実践する	グレイヘア用のヘアマニキュア塗布テクニック(ゼロテクニック)を行えるようになる。	予習:ゼロテクニックの手つきを練習しておく。30分 復習:作成したウィッグを考察する。30分
第19回	アドバンス(1) 基礎理論とトレンド・全体のヘアバランスを学ぶ	より実践的なヘアスタイルの種類と全体バランス・展開図を説明することができる。	予習:アドバンス理論(P110~117)の再熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第20回	アドバンス(2) 課題3-A1を実践し、スタイル評価(A~Zまで)を受ける	アドバンススタイル(ワンレングス・オン・レイヤー:スライドカット・ノッチング)を行える。	予習:課題3-A1(P186~191)の熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第21回	サロンの知識・実践(1) シャンプー剤の理論を学ぶ	シャンプー剤の内容成分を説明することができる。	予習:使用してみたいシャンプー剤を3つ探しておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第22回	サロンの知識・実践(2) ヘアカラーの予行練習を実際のモデルで実践する	人頭モデルカラーリングをする際の注意事項を説明することができる。	予習:カラーリングの施術方法、手順を把握しておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第23回	サロンの知識・実践(3) シャンプー&ブローを相モデルで実践する	シャンプーからブローまでの一連の流れを行えるようになる。1回目担当者	予習:シャンプー手順の再確認と手つきの練習を行う。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第24回	サロンの知識・実践(4) シャンプー&ブローを相モデルで実践する	シャンプーからブローまでの一連の流れを行えるようになる。2回目担当者	予習:シャンプー手順の再確認と手つきの練習を行う。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第25回	サロンの知識・実践(5) ヘアカラーをモデルに塗布し時間を置く	ヘアカラーを人頭に塗布できるようになる。	予習:モデルの髪質やダメージ状態を確認し資料に記入する。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第26回	サロンの知識・実践(6) カラーの発色を確認し、シャンプー&ブローを行う	ヘアカラーの発色状態を確認することができる。	予習:モデルが希望する髪色をカウンセリングしておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第27回	作品制作(1) hair sculpture 作品制作を行う	自分で考えた展開図通りに作品をカットすることができる。	予習:自分で考えた展開図を作成し、カットの練習を行う。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第28回	作品制作(2) hair sculpture 作品制作を行う	作品のブローを行い、セットすることができるようになる。	予習:各ブローブラシの使用練習をしておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第29回	作品制作(3) color design 作品制作を行う	自分で考えた手順通りヘアカラーを行えるようになる。	予習:ヘアカラー手順を考え、イメージトレーニングをする。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第30回	作品制作(4) color design 作品制作を行う	フィニッシュワークを使用し作品を仕上げることができる。	予習:完成作品をイメージし仕上げ練習をしておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分

科目名 Subject	美容技術Ⅳ Hairstyling SkillsⅣ		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	3
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	美容師国家試験実技課題の受験直前対策として、美容技術Ⅲで学んだ国家試験第二課題であるノーパートオールウェーブセッティングおよびワインディングのスキルアップを目指す。さらに国家試験第一課題であるレイヤーカット技術を習得する。また美容師として必要な美容用具などの衛生上の正しい取り扱いについても、徹底して実施していく。				
授業の目標	国家試験合格を主眼に置き、3種類の実技課題の技術が合格レベルに達することが出来る。また、美容用具などの衛生上の取り扱い方法も理解できる。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ技術を、研究もしながら繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分～90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないように定着させておくこと。				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1.2』日本理容美容教育センター編			
	教材	美容用具一式、配布プリント			
	使用設備・備品	美容実習室、プロジェクター			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物（宿題としての技術およびノートまとめ）20%、期末試験 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション レイヤーカットのスタイル及び衛生に関する注意点を理解する	第一課題の内容を把握し、カットのブロッキングまでを習得する	ブロッキングの復習と、配布されたプリントを見ながらカット手順を予習する
第2回	ワインディングを実践する	規定の時間よりスピードアップを図り、19分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第3回	全頭を規定の長さにカットする	手順と評価ポイントを理解し、覚えることができる	規定の長さにカットしたウィッグを再度確認し、手順の復習をする
第4回	ノーパートオールウェーブ	シェーブ、構成に注意し、30分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第5回	ヘアカッティングを実践する	手順と評価ポイントをしっかりと理解し、覚えることができる	カットしたウィッグを再度確認し、手順の復習をする
第6回	ワインディングを実践する	ステムの角度、シェーブ、構成に注意し、19分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第7回	レイヤーカットの評価ポイントを再確認し、前回より全体を2cm短くカットする	手順をしっかりと覚えてカットし、自分でチェックできるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第8回	ノーパートオールウェーブを実践する	タイムアップを図り、シェーブ・構成に注意し、25分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第9回	ヘアカッティングを実践する	50分で正確にカットができるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第10回	ワインディングを実践する	ステムの角度、シェーブ、構成に注意し、19分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第11回	ヘアカッティングを実践する	40分で正確にカットができるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第12回	ノーパートオールウェーブを実践する	シェーブ、構成に注意し、25分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェーブ、構成等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第13回	ヘアカッティングを実践する	40分で正確にカットができるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第14回	ワインディングを実践する	ステムの角度、シェーブ、構成に注意し、19分以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェーブ等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第15回	ヘアカッティングを実践する	30分で正確にカットができるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ノーパートオールウェーブを実践する	シェープ、構成に注意し、25分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第17回	ヘアカッティングのレベルチェックを受ける (規定の長さにカット)	30分で正確に仕上げ、自己のレベルを確認する	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第18回	ワインディングのレベルチェックを受ける	ステムの角度、シェープ、構成に注意し、19分以内に仕上げ、自己のレベルを確認する	レベルチェックの結果を確認し、不得意部分を重点的に反復練習をする
第19回	ヘアカッティング (レベルチェックの結果をもとに注意点を理解する)	レベルチェック結果における不足部分に注意を払いながら、25分でカットできるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第20回	ノーパートオールウェーブを実践する	シェープ、構成に注意し、25分以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成等を確認しながら、時間も意識して反復練習をする
第21回	ヘアカッティングを実践する	25分以内に正確にカットできるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第22回	決定した第二課題について、出願可能なレベルであるかの判定を行う	規定時間内でより正確に仕上げ、自己のレベルを確認する	ワインディング 20分 オールウェーブ 25分
第23回	ヘアカッティングの実践および美容用具・衛生上の取り扱いについての理解をする	25分で規定の長さにカットをし、評価ポイントのチェック項目に従って不足点を把握する	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第24回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	ここで言う設定時間内とは、ワインディング 19分、オールウェーブ 25分。45回まで同様
第25回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第一課題であるヘアカッティングを実践する	25分で正確にカットできるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第26回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第27回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第一課題であるヘアカッティングを実践する	スピードアップを図り、20分で正確にカットできるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第28回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第29回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながらヘアカッティングを実践し、チェックを受ける	20分で正確にカットできるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第30回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながらカットिंगを実践する	20分で正確に仕上げられるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第32回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第33回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第一課題であるヘアカットングを実践する	20分で正確に仕上げられるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第34回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第35回	ヘアカットング 規定の長さにカットをし、評価ポイントに従ってチェックをする	20分で正確に仕上げられるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第36回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第37回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第一課題であるヘアカットングを実践する	20分で正確に仕上げられるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第38回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第39回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第一課題であるヘアカットングを実践する	20分で正確に仕上げられるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第40回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第41回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第一課題であるヘアカットングを実践する	20分で正確に仕上げられるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第42回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第43回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第一課題であるヘアカットングを実践する	20分で正確に仕上げられるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する
第44回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第二課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げられるようになる	決定した第二課題を時間内に正確に仕上げるため、反復練習を行う
第45回	美容用具・衛生上の取り扱いに注意しながら国家試験第一課題であるヘアカットングを実践する	20分で正確に仕上げられるようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り方を確認する

科目名 Subject	美容技術V Hairstyling SkillsV		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	○	○	○
科目の概要	美容技術IVと並行して、国家試験第二課題であるノーパートオールウェーブセッティングおよびワインディングの技術力をさらに強化し、合格レベルへと押し上げていく。また美容師として必要な美容用具などの衛生上の正しい取り扱いについても、徹底して実施していく。				
授業の目標	国家試験合格を主眼に置き、第二課題の技術が合格レベルに達することが出来る。また、美容用具などの衛生上の取り扱い方法も理解できる。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ技術を、研究もしながら繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分～90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないように定着させておくこと。				
教科書・教材	教科書	『美容技術理論 1.2』日本理容美容教育センター編			
	教材	美容用具一式、配布プリント			
	使用設備・備品	美容実習室、プロジェクター			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物（宿題としての技術およびノートまとめ）20%、期末試験 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ノーパートオールウェーブを 実践する	シェープ、構成に注意し、30分 以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第2回	ワインディングを実践する	ステムの角度、シェープ、構成 に注意し、19分以内に仕上げ られるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする
第3回	ノーパートオールウェーブを 実践する	シェープ、構成に注意し、25分 以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第4回	ワインディングを実践する	ステムの角度、シェープ、構成 に注意し、19分以内に仕上げ られるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第5回	ノーパートオールウェーブを 実践する	シェープ、構成に注意し、25分 以内に仕上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする
第6回	ワインディングを実践する	ステムの角度、シェープ、構成 に注意し、19分以内に仕上げ られるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第7回	ノーパートオールウェーブを 実践する	シェープ、構成に注意し、25分 以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第8回	ワインディングを実践する	ステムの角度、シェープ、構成 に注意し、19分以内に仕上げ られるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする
第9回	ノーパートオールウェーブを 実践する	シェープ、構成に注意し、25分 以内に仕上げられるようになる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第10回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする
第11回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする
第12回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする
第13回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする
第14回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする
第15回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする

科目名 Subject	クリエイティブヘア Creative Hairstyling		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	○
科目の概要	ヘアスタイリストとしての応用サロンワーク（カット、特殊系ヘア、パーマ）の技術を学ぶ。又、サロンワークの基礎（シャンプー）をより深く身に付ける。ヘアリセッターカットなどのカット技術により、毛量が気になる方やボリュームが気になる方への対応技術とアプローチ力を身に付ける。授業を通じて美齢学の理解を深める。				
授業の目標	サロンワークの技術を学び応用することができるようになる。 流行に敏速に対応でき、流行を創作できる感性を習得し、リーダーとして美容界に貢献できる人材になる。 応用サロンワークを学び、老若男女問わず対応できる応用力をつけ、美齢学に取り組む知識を得る。				
時間外学習 (予習・復習)	技術・理論の修得の為、授業後に授業内容を図と文章でまとめて復習をし、自身でもプレゼンテーションができるよう理解度を高めにしておくこと。 (まとめ・復習にかかる想定時間：概ね一時間)				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	カット・パーマ・ブロー・シャンプー道具			
	使用設備・備品	美容実習室、シャンプー室使用			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度などの平常点・技術試験・提出課題での評価 「試験 60%平常点 30%課題 10%」				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	2コマ続きの授業の為、授業内容が2回ずつ重複しております。 美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ブロー 髪の熱伝導理論、ブローの現状を学びウィッグでの実習を行う。	毛髪理論を取り入れ、毛髪に合わせたブロー技術の習得をする。	
第2回	ブロー 髪の熱伝導理論、ブローの現状を学びウィッグでの実習を行う。	毛髪理論を取り入れ、毛髪に合わせたブロー技術の習得をする。	
第3回	ブラントカット・エフェクトカット ブロッキング・手順・技術を展示し実習を行う。	他授業では行っていないカット技法や行ったカット技術に対する髪の動き方の違いを習得する。	
第4回	ブラントカット・エフェクトカット ブロッキング・手順・技術を展示し実習を行う。	他授業では行っていないカット技法や行ったカット技術に対する髪の動き方の違いを習得する。	
第5回	スライドカット ウィッグと補助的な役目をする新聞紙を用いてカットテクニックを実践	毛量調節の技術を習得し、スライドカットとブラントカットのシルエットの違いを理解する。	
第6回	スライドカット ウィッグと補助的な役目をする新聞紙を用いてカットテクニックを実践	毛量調節の技術を習得し、スライドカットとブラントカットのシルエットの違いを理解する。	
第7回	リセッター（毛髪交差） 毛髪理論をマイクロスコープを使い学ぶ。 毛髪について研究。	毛髪交差を学ぶことにより、毛髪の悩みを理解し、アドバイスができるようになる。	
第8回	リセッター（毛髪交差） 毛髪理論をマイクロスコープを使い学ぶ。 毛髪について研究。	毛髪交差を学ぶことにより、毛髪の悩みを理解し、アドバイスができるようになる。	
第9回	ドレッド シングルピン、ネジピンを用いてパーマをし、ドレッドヘアを実践。	美容技術の引き出しを増やすため特殊技術であるドレッドの作成方法と種類を学ぶ。	
第10回	ドレッド シングルピン、ネジピンを用いてパーマをし、ドレッドヘアを実践。	美容技術の引き出しを増やすため特殊技術であるドレッドの作成方法と種類を学ぶ。	
第11回	コーンロー 編み込みの理論を説明し、モデルでの展示・実践。	コーンローの方法を学び、デザイン性のあるスタイルをつくることができるようになる。	
第12回	コーンロー 編み込みの理論を説明し、モデルでの展示・実践。	コーンローの方法を学び、デザイン性のあるスタイルをつくることができるようになる。	
第13回	エクステンション① 三つ編み、四つ編みの技法を展示し、各自実習していく。	需要が増えている付け毛の技術を基礎だけでなく、実践的な技術まで習得する。	
第14回	エクステンション① 三つ編み、四つ編みの技法を展示し、各自実習していく。	需要が増えている付け毛の技術を基礎だけでなく、実践的な技術まで習得する。	
第15回	エクステンション② 器具を用いたエクステンションの付け方を展示・実習する。	エクステンションの色々な付け方を学び、幅広いヘアスタイルを作る要素を身につける。	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	エクステンション② 器具を用いたエクステンションの付け方を展示・実習する。	エクステンションの色々な付け方を学び、幅広いヘアスタイルを作る要素を身につける。	
第17回	縮毛矯正 インストラクターを招き、縮毛矯正の現状を把握し技術の流れを学ぶ。	縮毛矯正理論を学び、施術の流れや施術する上での注意点を理解する。	
第18回	縮毛矯正 インストラクターを招き、縮毛矯正の現状を把握し技術の流れを学ぶ。	縮毛矯正理論を学び、施術の流れや施術する上での注意点を理解する。	
第19回	パーマベーシック コールド、ホット、クリープなどのパーマ理論を学ぶ。	基礎理論からサロンでの理論を学び、それぞれのパーマの施術方法や仕上がりの違いを理解する。	
第20回	パーマベーシック コールド、ホット、クリープなどのパーマ理論を学ぶ。	基礎理論からサロンでの理論を学び、それぞれのパーマの施術方法や仕上がりの違いを理解する。	
第21回	マッサージ 技術のコツ、練習方法を展示し、相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術を習得する。	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第22回	マッサージ 技術のコツ、練習方法を展示し、相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術を習得する。	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第23回	バックシャンプー 技術のコツ、練習方法を展示し、相モデルで実習を行う。	展示を見て、相モデルで練習し、バックシャンプー技術の基礎を習得する	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第24回	バックシャンプー 技術のコツ、練習方法を展示し、相モデルで実習を行う。	展示を見て、相モデルで練習し、バックシャンプー技術の基礎を習得する	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第25回	バックシャンプー 相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なバックシャンプー技術を習得する。	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第26回	バックシャンプー 相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なバックシャンプー技術を習得する。	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第27回	サイドシャンプー 技術のコツ、練習方法を展示し、相モデルで実習を行う。	展示を見て、相モデルで練習し、サイドシャンプー技術の基礎を習得する	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第28回	サイドシャンプー 技術のコツ、練習方法を展示し、相モデルで実習を行う。	展示を見て、相モデルで練習し、サイドシャンプー技術の基礎を習得する	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第29回	サイドシャンプー 相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なサイドシャンプー技術を習得する。	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)
第30回	サイドシャンプー 相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なサイドシャンプー技術を習得する。	復習として、反復練習を2～3回程度をモデルにて練習 (想定時間：概ね一時間)

科目名 Subject	テクニカルヘア I Techniques of Hair Dressing I		教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	○
科目の概要	アップスタイルの基礎理論及び、アップスタイリングで一番重要となる基礎技術を学ぶ。				
授業の目標	アップスタイリングの基本技術ができる。 オリジナルスタイルデザインを想像し、自由に作品化することができる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習：第5回以降、ウィッグの下準備をする。(ローラー巻き) (概ね30分) 復習：授業で習得した技術を再確認し、より完成度の高い技術が行えるよう反復練習をする。 (概ね30分)				
教科書・教材	教科書	美容技術理論1 (日本理容美容教育センター)			
	教材	ヘアアクセサリー			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度10%、スライド提出10%、コンセプトシート10%、作品制作課題70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション アップ基礎理論	アップスタイリングの基礎知識を理解する。	復習：道具の名前や用語を覚え、次回からの授業で支障がないようにする。
第2回	アップ基礎技術 ブラッシング・一束・逆毛・ピンニング	アップスタイリングの基礎技術が行えるようになる。	復習：基礎技術が確実でないと作品の完成に影響する為、一つ一つの技術を繰り返し練習すること。
第3回	ヘアアイロン技術	ヘアアイロン技術が行えるようになる。	
第4回	ローラーの巻き方	ローラー巻きの必要性を理解し、ローラー巻きの技術が行えるようになる。	復習：下準備は作品の出来上がりに影響する為、正確・丁寧に行えるようにする。
第5回	ブレイド技術 ・三つ編み・編み込み・ローブ編み	様々なブレイド技術を知り、ブレイド技術が行えるようになる。	復習：手つきが自己流にならないように、反復練習して正しい手つきに慣れること。
第6回	ブレイド技術の応用 ・四つ編み・編みの崩し	応用のブレイド技術が行えるようになる。	復習：手つきが自己流にならないように、反復練習して正しい手つきに慣れること。
第7回	すき毛の使い方	すき毛の必要性を理解し、扱うことができるようになる。	復習：次回から必要な時にはすぐにすき毛を使えるように用意しておくこと。
第8回	ブレイドを使ったスタイル	ブレイド技術を使ったスタイルを時間内に完成させることができる。	復習：授業で行ったスタイルを、完成度を上げられるよう反復練習をする。
第9回	ツイスト技術	ツイスト技術が行えるようになる。	復習：授業で行った技術を、完成度を上げられるよう反復練習をする。
第10回	ツイストを使ったスタイル	ツイスト技術を使ったスタイルを時間内に完成させることができる。	復習：授業で行ったスタイルを1か所以上アレンジして、作品を作ってみる。
第11回	オリジナルスタイル考察	これまでに習得した技術を活かし、オリジナルのスタイルを考える。	予習：作りたいスタイルを考えてくる。必要に応じて、切り抜きや画像を用意してくる。
第12回	オリジナルスタイル練習	前回考えたスタイルをモデルウィッグで表現することができる。	復習：次回の作品制作に向けて、繰り返し練習をすること。
第13回	オリジナルスタイル制作	クオリティーの高いオリジナルスタイルを完成に近づけることができる。	
第14回	オリジナルスタイル制作 コンセプトシート制作	オリジナルスタイルを完成させ、コンセプトシートも完成させることができる。	
第15回	グループワーク	他者の作品の意図を読み取り、自分の作品のプレゼンが出来るようになる。	復習：他の作品から得たヒントを活かし、新しいオリジナルスタイルを作ってみる。

科目名 Subject	テクニカルヘアⅡ Techniques of Hair DressingⅡ		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	○
科目の概要	テクニカルヘアⅠ（1年前期）で学んだ基本理論・基本技術を活かし、アップスタイルパターンを学ぶ。 独自の感性を活かしデザインを考え、作品化していく。				
授業の目標	アップスタイリングの基礎技術の向上及び、応用技術ができる。 独自の発想力を活かし、クオリティーの高い作品を作成することができる。				
時間外学習 （予習・復習）	予習・ウィッグの下準備をする。（ローラー巻き）（概ね20分） 復習・授業で習得した技術を再確認し、より完成度の高い技術が行えるよう反復練習をする。 （概ね40分）				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	ヘアアクセサリー			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度10%、スライド提出10%、ノート提出10%、各課題（作品制作）70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション アップスタイリングの基礎理論（復習）	アップスタイリングの基礎理論を復習し、完璧に習得する。	
第2回	基本技術（復習） （ピニング・逆毛等）	アップスタイリングの基礎技術を復習し、完璧に習得する。	
第3回	夜会巻き （重ね夜会） デモンストレーションと実践	重ね夜会を作ることができる。	復習：反復練習を行い、重ね夜会の技術のレベルを上げる。
第4回	夜会巻き （本夜会） デモンストレーションと実践	本夜会を作ることができる。	復習：反復練習を行い、本夜会の技術のレベルを上げる。
第5回	夜会巻き （合わせ夜会） デモンストレーションと実践	合わせ夜会を作ることができる。	復習：反復練習を行い、合わせ夜会の技術のレベルを上げる。
第6回	夜会巻きを使ったスタイル 実践	夜会巻きを使ったスタイルを完成させることができる。	復習：授業で行ったスタイルをアレンジして、オリジナルの夜会スタイルを作る。
第7回	ポンパドール （すき毛なし） デモンストレーションと実践	ポンパドールを作ることができる。	復習：反復練習を行い、ポンパドールの技術のレベルを上げる。
第8回	ポンパドール （すき毛あり） デモンストレーションと実践	すき毛を使い、ポンパドールを作ることができる。（フロントを3つに分けて上げる）	復習：反復練習を行い、ポンパドールの技術のレベルを上げる。
第9回	ポンパドール （すき毛あり） デモンストレーションと実践	すき毛を使い、ポンパドールを作ることができる。（フロントを2つに分けて上げる）	復習：反復練習を行い、ポンパドールの技術のレベルを上げる。
第10回	バインドポンパドール デモンストレーションと実践	バインドポンパドールを作ることができる。	復習：反復練習を行い、バインドポンパドールの技術のレベルを上げる。
第11回	ワンロール （平行止め） デモンストレーションと実践	平行止めを使った方法で、ネープにワンロールを作ることができる。	復習：反復練習を行い、ワンロールの技術のレベルを上げる。
第12回	ワンロール （根あり） デモンストレーションと実践	根を作る方法で、ネープにワンロールを作ることができる。	復習：反復練習を行い、ワンロールの技術のレベルを上げる。
第13回	ワンロール （トップ～ネープ） デモンストレーションと実践	トップからネープにかけて長い距離のワンロールを作ることができる。	復習：反復練習を行い、ワンロールの技術のレベルを上げる。
第14回	ワンロール （ブレイド） デモンストレーションと実践	ブレイド技術を使ってポンパドールを作ることが出来る。	復習：反復練習を行い、ワンロールの技術のレベルを上げる。
第15回	作品チェック	夜会巻き、ポンパドール、ワンロールのうち、選んだ一つの課題を50分以内に完成させることができる。	予習：チェックに向けて、これまでの技術を再確認しておく。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	夜会巻き・ポンパドール・ワンロール 作品の見直しと練習	作品チェックを通し、改善点を理解してより完成度の高い作品を作ることができる。	復習：苦手なところを克服できるように反復練習を行う。
第17回	ブライダルヘア 洋装	洋装ブライダルでのスタイルを知り、完成させることができる。	
第18回	ブライダルヘア 和装	和装ブライダルでのスタイルを知り、完成させることができる。	
第19回	年代別アップスタイル (理論)	それぞれの年代に合ったスタイルを作る際に必要なポイントや知識を理解する。	予習・復習：様々な年代の方の髪型(アップスタイル)を日頃から気にかけて見てみる。(街中、本、インターネット)
第20回	年代別アップスタイル デモンストレーションと実践	それぞれの年代に合ったスタイルを作ることができる。	
第21回	新日本髪 (ブロッキング・髷) デモンストレーションと実践	新日本髪のブロッキングと髷を結い上げることができる。	
第22回	新日本髪 (ブロッキング・髷) 実践と技術チェック	ブロッキングと髷を反復練習し、バランスよく結い上げることができる。	復習：ブロッキングと髷を反復練習する。
第23回	新日本髪 (鬢) デモンストレーションと実践	新日本髪の鬢を結い上げることができる。	
第24回	新日本髪 (鬢) 実践と技術チェック	鬢を反復練習し、左右対称に結い上げることができる。	復習：ブロッキング～鬢を反復練習する。(左右均等にあげられるようにする)
第25回	新日本髪 (前髪・髷) デモンストレーションと実践	新日本髪の前髪と髷を結い上げることができる。	鹿の子貸し出し
第26回	新日本髪 (前髪・髷) 実践と技術チェック	前髪と髷を反復練習し、新日本髪を完成させることができる。	復習：ブロッキング～髷を反復練習し、バランスのとれた新日本髪を結えるようにする。
第27回	オリジナルスタイルの考察	オリジナルスタイルを想像し、まとめることができる。	予習：オリジナルスタイルを考えてくる。必要に応じて、切り抜きや画像を用意する。 ・ヘアアクセサリ持参
第28回	オリジナルスタイルの練習	想像したスタイルを、ウィッグで表現することができる。	
第29回	オリジナルスタイル制作	ヘアアクセサリを含め、全体の調和がとれた作品を完成させることができる。	予習：作品制作に向け、反復練習をすること。 ・ヘアアクセサリ持参
第30回	作品チェック グループワーク	作品をプレゼンテーションすることができる。	復習：他の作品から得たヒントを活かし、新しいオリジナルスタイルを作ってみる。

科目名 Subject	着装技術Ⅱ Techniques of Kimono DressingⅡ		教員名	着装チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	○	◎
科目の概要	<p>着装技術Ⅰで学んだ技術と知識をベースに、プロの技術者＝「山野流着装奥伝講師・美容着付師」の資格取得を目的とし、老若男女、健常者、障害者を問わない技術・技能を修得します。実習では七五三、成人式振袖、婚礼列席者の装い等、美容サロンで需要の大きい実践技術を徹底して学ぶ他、ヘアメイクを含むトータルビューティの表現力を磨くことで、“人に着付ける”というプロの立場と“教えさせていただく”という指導者の立場を深く理解していきます。この職業実践専門課程の実施を通じ、美齢学を踏まえ社会に役立つ技術者として就職1年目から現場で貢献できる総合力が確実に習得できます。</p>				
授業の目標	<p>本科目の履修を通して、          ①就職一年目から美容技術の現場で評価される「美容着付師」の資格を取得する。          ②サロンワークをイメージした実践学習を重ね技術者とお客様の双方の立場を理解し、技術見識共に美容着付けのプロを意識したトータルビューティを表現できる出来るようになる。          ③学内外の国際的なイベントやボランティアに積極的に参加し、日本人として自国の文化や着物の知識を伝えたり授業で学んだ技術を実践することで、社会で活かせる経験を積み技術力を磨く。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>プロの着付師をイメージし技術のスキルアップと経験を積むための予習、復習を個人の学習課題とする。●技術者として社会の情報収集を欠かさず行い、自分の技術をリンクさせ見る目を養いながら、伝統文化の基本と時代に即した表現力を研究する。さらにSNSを常識的な範囲内で有効に使用し個人のアピールをする●美容着付師技能審査合格のために課題の練習を随時欠かさず行う。(30 - 40 時間以上を要する)</p>				
教科書・教材	教科書	山野流着装教伝			
	教材	着装技術Ⅰの教材を使用。新たに必要な教材を課題ごとに配布			
	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル(保管は短大内)			
	参考文献	(一財)国際美容協会貯蔵			
評価方法	実技試験、筆記試験、評価シート、授業態度、小テスト				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	<p>①個人持参物/筆記用具、半紙、白ソックス、白タオル5本、女子は前後の衿が大きく開いたシャツ(キャミソール)、7分丈までのレギンス、男子はVかU字型シャツ、短パン ②マナー/実習時は髪をひとつに束ねる事、素足入室は厳禁 ③美容着付師申請は別途手続き有り</p>				
本科目履修と関連する資格	資格名	美容着付師			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション サロン技術の実践① 体型補正 帯結び：末広太鼓	冠婚葬祭の装いを理解し、年代に対応する技術力を高める	通過儀礼の事前学習を要する（自分と着物の関わりを記録してくる）
第2回	助手の心得 喪服・夏の礼装	様々なシーンでの着物の常識を知り、サロンワークのシチュエーションでの技術を学ぶ	テキストを事前に一読してくる
第3回	サロン技術の実践② 七五三の女兒・男児	七五三の意味を理解し、子供の着つけの特徴を学び実践する	テキストを事前に一読してくる
第4回	付き添いの装い 色無地・訪問着	付き添いの母や祖母の装いとしての着つけと帯結びを知る	テキストを事前に一読してくる
第5回	サロン技術の実践③ 振袖のきつけ①	サロン営業の主流となる振袖の着つけを通し着付師の心得を学ぶ	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第6回	振袖帯結び：花の舞	振袖に着つけと帯結びのプロセスを理解する	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第7回	サロン技術の実践④ 振袖のきつけ②	着付師の心を知り 適切な体型補正を行い着つける	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第8回	振袖帯結び：ファンタジー	振袖にふさわしい帯結びのバランスを学ぶ	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第9回	サロン技術の実践⑤ 振袖のきつけ③	お客様の体型に合わせた着つけを行い、帯型を選択する	復習として帯型の模範と自分の作品との違いを確認する
第10回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー 評価シート	仕上がり进行评估シートにより自分の技術を確認する	評価シート判定に向けて技術予習が必要
第11回	サロン技術の実践⑥ 振袖のきつけ④	着付師を意識し、スムーズな動きで着つけができるようになる	
第12回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識するようになる	技術自主学习（所要時間は90分程度）
第13回	サロン技術の実践⑦ 振袖のきつけ⑤	着付師を意識し、着つけと帯結びが出来るようになる	
第14回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識するようになる	技術自主学习（所要時間は90分程度）
第15回	サロン技術の実践⑧ 振袖のきつけ⑥	着付師を意識し、決められた時間での着つけと帯結びが出来るようになる	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識できるようになる	技術自主学习（所要時間は90分程度）
第17回	サロン技術の実践⑨ 振袖のきつけ⑦	決められた時間に着つけと帯結びが出来るようになる	
第18回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー 評価シート	評価を通し、振袖と帯結びの技術が着付師のレベルにた事を確認する	技術自主学习（所要時間は90分程度）
第19回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	技能審査に向けて、プロのレベルに達する事が出来るようになる	技術自主学习（所要時間は90分程度）
第20回	技術試験 振袖のきつけと帯結び	決められた時間に着つけと帯結びが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場合は再試験の予習が必要
第21回	海外研修	海外研修旅行で短時間での着つけが出来るようになる	海外で着用する着物と帯の事前準備のため、着物が入るバックを持参する
第22回	自装・他装 アイコー枕使用	早着せ、早着替えの工夫としてアイコー枕での帯結びができるようになる	テキストを見て事前学習をする
第23回	サロン技術の実践⑩ 卒業式の装い	卒業式で装う女子の袴の着つけが出来るようになる	社会情報の収集を事前に行う
第24回	女子の袴	袴のための着つけの特徴を知る、袴の扱い方とたたみ方を学ぶ	袴のたたみ方を復習する
第25回	サロン技術の実践⑫ 卒業式の装い	成人式、婚礼の男子の袴の着つけが出来るよう②なる	社会情報の収集を事前に行う
第26回	男子の袴	女子袴との違い、着つけの特徴を知り、袴のたたみ方ができるようになる	袴のたたみ方を復習する
第27回	サロン技術の実践⑬ 振袖の着つけ	振袖の着つけと帯のバリエーションを増やす	社会情報の収集を事前に行う
第28回	帯のバリエーション 振袖帯結び：二枚扇	アイコー枕を使用し、振袖の着つけの自装ができるようになる	情報に応じた自分らしいスタイルを考えてくる
第29回	筆記試験	日本人として老若男女を問わず美しい着つけと着物の知識を理解出来るよう②なる	十分に知識の習得が出来なかった場合は再試験への予習が必要
第30回	式典での装い 礼装 振袖・男袴	資格取得の認定証授与式にむけて着つけの技術を確認する	自分の装いのコーディネートを事前に準備し、場合によっては持参する

科目名 Subject	シャンプーイング Shampooing Practice		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	ヘアスタイリストとしてのサロンワークの基礎（シャンプー）をより深く身に付ける。 プロとして通用するレベルのシャンプー技術を学ぶ。 様々な年齢の頭皮や毛髪の状態を知り、より深い技術を身に付けて一人一人に合わせたシャンプーができるよう対応力をつける。授業を通じて美齢学の理解を深める。				
授業の目標	髪や頭皮の理論、シャンプー成分などのケミカルについて学び、サロンワークの基礎技術であるシャンプーができる。 プロとして通用するシャンプー技術を習得する。 応用技術を学び、老若男女問わず対応できる応用力をつけ、美齢学に取り組む知識を得る。				
時間外学習 (予習・復習)	美容の最新技術・知識を把握する。 本授業は、実技が主となる為、技術の修得のため日々の復習が非常に重要なものとなる。毎授業ごとに一時間程度の反復練習を行い、次回に臨む事。				
教科書・教材	教科書	美容技術理論Ⅰ・教員作成資料			
	教材	シャンプークロス・タオル・ブラシ・ドライヤー			
	使用設備・備品	美容実習室・シャンプー室使用			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度などの平常点・技術試験・提出課題での評価 「平常点 60%試験 30%課題 10%」				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	毛髪、頭皮理論について学ぶ。	より深い毛髪や頭皮の理論や知識を習得する。	授業内容を図なども加えてノートに分かりやすくまとめプレゼンできるようにする。 (想定時間：概ね一時間)
第2回	ケミカル理論について学ぶ。	より深いケミカルの知識を習得する。	授業内容を図なども加えてノートに分かりやすくまとめプレゼンできるようにする。 (想定時間：概ね一時間)
第3回	シャンプー成分などについて学ぶ。	より深いシャンプー成分などの知識を習得する。	授業内容を図なども加えてノートに分かりやすくまとめプレゼンできるようにする。 (想定時間：概ね一時間)
第4回	サイドシャンプー プレーンリンスについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なプレーンリンス技術を習得する。	
第5回	サイドシャンプー 1シャンプーについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な1シャンプー技術を習得する。	
第6回	サイドシャンプー 2シャンプーについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な2シャンプー技術を習得する。	
第7回	サイドシャンプー マッサージについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術を習得する。	
第8回	サイドシャンプー ヘッドスパについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なヘッドスパ技術を習得する。	
第9回	サイドシャンプー 技術チェックテスト	プロとして通用するシャンプーができるか技術の修得レベルを測る。	
第10回	バックシャンプー プレーンリンスについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なプレーンリンス技術を習得する。	
第11回	バックシャンプー プレーンリンスについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な1シャンプー技術を習得する。	
第12回	バックシャンプー 2シャンプーについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な2シャンプー技術を習得する。	
第13回	バックシャンプー マッサージについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術を習得する。	
第14回	バックシャンプー ヘッドスパについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なヘッドスパ技術を習得する。	
第15回	サイドシャンプー 技術チェックテスト	プロとして通用するシャンプーができるか技術の修得レベルを測る。	

科目名 Subject	グローバルスタイリスト演習 Global Stylist Practice		教員名	英語チーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>インバウンドが増加傾向にある中、それに伴い外国のお客様と接する機会も増えつつある。また将来的に海外で働くことも視野に入れて考えると、英語力は必須である。本授業においては、2年次前期までに習得した英語力を活かしながら、美容技術を通して英語が学べる授業を展開する。</p>				
授業の目標	<p>美容技術を施しながら英語を話すという動きのある環境の中で、活かした英語を身に付ける。外国のお客様の要望を聞いて理解し、それに英語で応えることのできるコミュニケーション力が備わる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>学習した英語の美容専門用語や接客する上で必要なコミュニケーション英語を、毎回授業終了後に復唱し、身体に沁み込ませる。そして次回学習する内容に目を通し、会話の内容を理解できるようにしておく。 なお、1回の予習復習に対し、合計60分～90分程度を想定している。</p>				
教科書・教材	教科書	ヘアスタイリストのための HAIR SALON ENGLISH/Brett Yamashita 著 (Canada Styles Ltd.)			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	授業態度 50%、期末試験 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度説明する時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション グローバルスタイリストとしてどうあるべきかを話し合う	グローバルスタイリストを目指す為の自覚を持つことができる	教科書配布
第2回	日本と海外の美容師の違いを検証する（システム、技術、勉強会）	日本と海外の違いを認識することができる	Lesson1 (お客様を迎える)
第3回	美容室に必要な英会話や道具、器具の英語表現を学ぶ（ネイティブ講師を交えて）	普段自分達が使っている英語表現とのズレを理解し、正しい表現を身に付ける	Lesson1 (お客様を迎える)
第4回	(3) のロールプレイングを行う	実際に声に出すことで、英語に慣れ親しむことができる	Lesson2 (予約を受ける)
第5回	ブロードライの実習（ボブスタイル）を行う	海外で重要視されているブロードライのスキルが向上する	Lesson2 (予約を受ける)
第6回	ブロードライの実習（レイヤースタイル）を行う	ロールブラシの使い方のスキルが向上する	Lesson3 (待ち時間の対応)
第7回	ウィービングの実習（ホイールワークトレーニング）を行う	海外で需要の高いハイライトのホイールワークのスキルが向上する	Lesson4 (お見送り)
第8回	ショートスタイルの為のキャップハイライトを学ぶ	実際に薬剤を使用してバランスを確認し理解することが出来る	Lesson5 (カウンセリング)
第9回	シャンプー実習と英会話（ロールプレイ）を行う	シャンプー時に必要な英会話 が習得出来る	Lesson6 (シャンプー)
第10回	ネイティブスピーカーを交えてのディスカッションを実施する	実際のコミュニケーションを想定し、実践することが出来る	Lesson6 (シャンプー)
第11回	海外経験者を招いて、技術のデモンストレーションを行う	体験談等を聞きながら海外における現場の実際を知ることが出来る	Lesson7 (カット)
第12回	(11) の質疑応答、ディスカッションを行う	ディスカッションをすることで、海外における現場の実際を理解することが出来る	Lesson7 (カット)
第13回	デジタルパーマ、コールドパーマ、クリーブパーマ等の違いを検証する	よりグローバルな知識を身に付けることが出来る	Lesson8 (カラーパーマ)
第14回	デジタルパーマ、コールドパーマ、クリーブパーマ等の違いを理解した上で実習を行う	グローバルな知識を身に付けた上で技術を実践することが出来る	Lesson8 (カラーパーマ)
第15回	全ての技術の復習をする（用語の確認等）	習得したことを改めて確認することで、内容が定着する	

科目名 Subject	メイクアップⅡ Make-up II		教員名	ティミー 西村 他	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	選択必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	<p>「メイクアップⅠ」で学んだベーシックな知識を発展させたメイクアップの応用を学ぶ。施術を行う対象者の個性に合わせ、どのような技術を施せば似合うのかを、学生自らが考え実践する。美しくメイクアップを仕上げる技術者の育成のみならず、化粧品の紹介や販売にも必要な知識を学ぶ。また写真撮影、動画撮影、舞台、ファッションショー、婚礼、高齢者へのメイクアップ等、の日常とは異なる現場でのメイクアップ技術・知識も学ぶ。デモンストレーションによる展示または資料写真を参考に相モデルでメイクアップ作品を制作する。</p>				
授業の目標	<p>様々な顔立ち、肌色にあわせたメイクアップができるようになる。一つの表現をするにはさまざまな方法があることを理解し、何種類かの方法の中から学生が主体的に手法を選択し、臨機応変に対応できるようになる。施術される側の顔の立体感、陰影、各パーツの特徴、性格や好み、ライフスタイルを理解し、似合うメイクアップを提供できる知識、技術、経験を身につけ、メイクアップを通じて施術を受ける側の満足感を提供できるようになる。</p>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>タブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、課題制作、撮影作品制作準備に必要な時間数は合計で約30時間である。</p>				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	洗顔料、タオル、ティッシュ、コットン、綿棒。			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	作品制作25%、筆記試験25%、小課題25%、授業参加意欲25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	顔型や年齢によるメイクアップ応用の知識を学ぶ。	顔の形の違いや、美齢学に基づいた年齢による顔の違いを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第2回	顔型や年齢によるメイクアップ応用の技術を学ぶ。	顔の違いによって提供する技術が違うことを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第3回	肌色によるメイクアップ応用の知識を学ぶ。	肌の色になぜ違いが生まれるか理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第4回	肌色によるメイクアップ応用の技術を学ぶ。	肌の色によって提供する技術が違うことを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第5回	立体分析の意味を学ぶ。	顔の立体的な構造を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第6回	自身の顔の立体を学ぶ。	自身の顔の立体感を正しく理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第7回	立体分析の個人差を学ぶ。	顔の立体感に個人差があることを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第8回	他者の顔の立体を学ぶ。	個人差のある顔の立体感に適切なベースメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第9回	骨格分析の意味を学ぶ。	頭蓋骨の基本的な構造を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第10回	自身の顔の骨格を学ぶ。	自身の骨格をメイクアップで表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第11回	演劇ステージメイクアップの知識を学ぶ。	日常のメイクアップとの違いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第12回	演劇ステージメイクアップの技術を学ぶ。	演劇ステージメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第13回	老化による顔の変化を学ぶ。	老化による顔の筋肉や肌色の变化を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第14回	老化による顔の変化をメイクアップで表現する。	老化した顔をメイクアップで表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第15回	1930年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	1930年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	1930年代のメイクアップを表現する。	1930年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第17回	1950年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	1950年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第18回	1950年代のメイクアップを表現する。	1950年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第19回	1960年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	1960年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第20回	1960年代のメイクアップを表現する。	1960年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第21回	洋装のブライダルシーンの知識を学ぶ。	ブライダルの現場で求められる知識や振る舞いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第22回	洋装のブライダルメイクアップの技術を学ぶ。	洋装のブライダルメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第23回	和装のブライダルシーンの知識を学ぶ。	洋装ブライダルメイクアップとの違いが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第24回	和装のブライダルメイクアップの技術を学ぶ。	和装花嫁のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第25回	海外の秋冬メイクアップトレンドを学ぶ。	パリ、ロンドン、NY等のメイクアップトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第26回	海外のファッションショーでトレンドになった秋冬メイクアップスタイルを模写する。	海外でのファッションショーに必要な技術を習得する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第27回	写真撮影のメイクアップに関する知識を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に必要な知識が理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第28回	写真撮影のメイクアップに関する技術を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に求められる技術を表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第29回	作品制作のリハーサルを行う。	作品制作に向けチーム内で意見を出し合い、メイクアップに反映できる。	チーム内で作品の方向性を話し合い、共同作業が円滑に進むよう調整する。
第30回	作品コンセプトの発表を行う。	チームごとに作品のコンセプトを発表できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。

科目名 Subject	メイクアップⅢ Make-upⅢ		教員名	ティミー 西村 他	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	専門的なプロのメイクアップ技術・知識を学ぶ。ファッションショー、映像撮影、化粧品販売、等の現場で使えるテクニックを各専門分野の教員が指導し、常に新しい技術と情報を取り入れた授業内容を展開する。デモンストレーションによる展示または資料写真を参考に相モデルでメイクアップ作品を制作する。				
授業の目標	プロフェッショナルなメイクアップアーティストが様々な現場で求められるテクニックと知識を身につける。全ての年代の女性を美しく見せるメイクアップが表現できる。目指すイメージを具体的にメイクアップで表現できる。その人の性格や好み、生活を理解し、その人に似合うメイクアップを提供できる知識、技術、経験を身につける。				
時間外学習 (予習・復習)	タブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、課題制作、撮影作品制作準備に必要な時間数は合計で約15時間である。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	洗顔料、タオル、ティッシュ、コットン、綿棒。			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	作品制作35%、小課題35%、授業参加意欲30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	動画撮影のメイクアップに関する知識を学ぶ。	写真撮影との手法の違いを理解できる。	講義内容を自宅で復習。
第2回	動画撮影のメイクアップに関する技術を学ぶ。	プロモーションビデオ用のメイクアップを表現できる。	講義内容を自宅で復習。
第3回	ライブステージ用メイクアップの知識を学ぶ。	コンサート、ミュージカル等、バックステージでのメイクアップに必要な知識を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第4回	ライブステージ用メイクアップの技術を学ぶ。	コンサート、ミュージカルのメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第5回	海外の春夏メイクアップトレンドを学ぶ。	パリ、ロンドン、NY等のメイクアップトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第6回	海外のファッションショーでトレンドになった春夏メイクアップスタイルを模写する。	海外でのファッションショーで必要な技術を習得できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第7回	モンスターの特殊メイクアップの手法を学ぶ。	映画撮影などで求められるメイクアップ知識を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第8回	ゾンビの特殊メイクアップの手法を学ぶ。	ゾンビの特殊メイクアップを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第9回	あざ、傷の特殊メイクアップの手法を学ぶ。	特殊メイクに必要な道具を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第10回	火傷の特殊メイクアップの手法を学ぶ。	様々な特殊メイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第11回	化粧品業界について学ぶ。	化粧品会社でのメイクアップアーティスト、美容部員の役割について理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第12回	化粧品のトレンドについて学ぶ。	最新の化粧品を使いこなすことが出来るようになる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第13回	作品制作のリハーサルを行う。	作品制作に向けチーム内で意見を出し合い、メイクアップに反映できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。
第14回	作品コンセプトの発表を行う。	チームごとに作品のコンセプトを発表できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。
第15回	作品制作を行う。	学内のスタジオで撮影できる高度な作品制作の技術を表現できる。	撮影した写真をデジタルポートフォリオとして保存する。



科目名 Subject	応用ネイル技術 Applied Nail Techniques		教員名	加藤 宏美 他	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	選択必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	○	◎
科目の概要	基礎ネイルで習得した技術を踏まえ、ネイル技術のレベルアップ、及び作品としてのネイルアート制作を行う。美容室でも扱うことのできる時間短縮のためのソークオフタイプのジェル技術についても学ぶ。関連科目として接客力を養うための接客・接客法、トータル的な美を追求するためにメイクアップⅡを学ぶことが望ましい。				
授業の目標	ネイルの器具、用具を正しく扱うことができ、技術理論に基づいた作業を行うことができるようになる。コンテストでの入賞を目指す。年齢を問わずお客様に合わせたネイル技術を提供できるようになることを目標とする。爪を健やかに保つために、加齢による爪の病気などを見極め、お客さまに適切なアドバイスを行うことができる。				
時間外学習 (予習・復習)	ネイルの資格取得にあたり、授業以外においても各自で反復練習を行うこと。技術においては1回につき60分～90分程度の復習を行なうことが望ましい。				
教科書・教材	教科書	JNA テクニカルシステム BASIC 発行 NPO 法人日本ネイリスト協会			
	教材	配布教材は別紙参照 * 授業初回で配布します			
	使用設備・備品	美容実習室・水道			
	参考文献	ネイル・プロフェッショナル 第4版 発行 株) インターメディカル			
評価方法	授業内の参加意欲、ネイルに関するコンテストへの参加や受賞は評価に反映します。筆記試験内容は、主に授業で配付するテキストより出題し、実技試験は授業内での作品制作を含めて評価します。授業態度 20%、筆記 40%・実技試験 40%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業の実習について開講期間中はナチュラルネイルとし、カラーリング、人工爪などは全て除去してきてください。授業内で迷惑行為にあたる言動は慎むこと。 * 基礎ネイル技術単位取得が履修条件です。				
本科履修と 関連する資格	資格名	ネイリスト技能検定試験 2級			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 道具、器具の説明 テーブルセッティング	道具、器具、マニキュア化粧品の成分を理解する	
第2回	ネイルケア・カラーリング チップラップを自分の爪で練習する	前期の技術を手順どおりに施術することができる。チップラップ技術の手順を覚える。	
第3回	チップラップを相モデルで練習する	材料の特長、使用方法を理解することができる	
第4回	シェラック① ハイブリッドネイルケアシステムを学ぶ	材料の特長、使用方法を理解することができる	次週までにアートのデザインを考えてくる
第5回	シェラック② 自分の爪で練習する	アート用の素材を使用しデザインすることができる	検定受験者グループはタイム計測を実施する
第6回	シェラック③作品制作	バランスを考えてネイルチップにデザインすることができる	次週のアートのデッサンを考えてくる。その他、必要に応じて装飾品を持参する。
第7回	ハロウィンアート制作	色彩と共にテーマに沿ったアートを描くことができる。	検定受験者グループはタイム計測を実施する
第8回	ハロウィンアート制作	装飾品を使用して作品を作ることができる	検定受験者グループはタイム計測を実施する
第9回	スカルプチュアネイル① 理論 筆の扱い方 フォームの装着	人工爪の理論、製品の特長を理解することができる	
第10回	スカルプチュアネイル② 材料の特長と技法を学ぶ	自分の爪に施術することができる技法を理解することができる	
第11回	スカルプチュアネイル③ 実技	全ての技術工程において手順通りに施術することができる。	
第12回	スカルプチュアネイル② 材料の特長と技法を学ぶ	全ての技術工程においての時間を意識して施術することができる。	
第13回	チップオーバーレイ	技術の理論と製品の特長を理解することができる	
第14回	チップオーバーレイ	正しく製品を扱い、自分の爪に施術することができる	
第15回	3D、エンボスアート技術	材料の特長を理解することができる	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	3D、エンボスアート② アート制作の練習	指定されたテーマを考えて作ることができる	次週のアートのデッサンを考えてくる。その他、必要に応じて装飾品を持参する。
第17回	「クリスマス」又は「和」をテーマにした作品制作	色彩と共にテーマに沿ったアートを描くことができる。	
第18回	「クリスマス」又は「和」をテーマにした作品制作	装飾品を使用して作品を作ることができる	
第19回	ジェルネイル① 理論	材料の理論と使用法を理解することができる	
第20回	ジェルネイル② フローター オフの方法	材料の使用法を理解し、自分の爪に施術することができる	
第21回	ジェルスカulpture①	材料の理論と使用法を理解することができる	
第22回	ジェルスカulpture② 実技	相モデルで実践し、手順どおりに施術することができる	
第23回	ジェルネイル③ 相モデルに施術する	爪の形状を10指揃えて、手順通りに施術することができる	
第24回	ジェルネイル④ 相モデルを交替して行う	爪の形状を含め、相手の要望どおりにデザインすることができる。	
第25回	人工爪とアート①	スカulptureネイルとエンボスアートを行なうことができる	
第26回	人工爪とアート② 技術の復習	スカulptureネイルとエンボスアートを時間内に行なうことができる	
第27回	ネイル技術のまとめ 理論と技術	チップラップ・スカulpture・3Dを取り入れ独創的なネイルアートの作品を制作することができる。	
第28回	ネイル技術のまとめ 理論と技術	チップラップ・スカulpture・3Dを取り入れ独創的なネイルアートの作品を制作することができる。	
第29回	ソークオフジェル	実技の手順を習得し、仕上がりまでの時間を意識して施術することができる。	
第30回	ソークオフジェル	実技の手順を習得し、仕上がりまでの時間を意識して施術することができる。	

科目名 Subject	スキンケア技術 Skincare Techniques		教員名	鈴木 ひろ子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	◎
科目の概要	フェイシャルトリートメントの中のクレンジングとフェイシャルマッサージで基本となる 6 種類の手技（軽擦法・強擦法・揉擦法・打法・振動法・圧迫法）の目的と効果を学ぶ。				
授業の目標	本科目を履修することにより、皮膚科学の基礎、エステティックの基礎であるクレンジングから肌分析、マッサージ、パック、整肌ができ、高齢者への対応も学ぶことができるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習するよう心掛けてください。				
教科書・教材	教科書	配布資料			
	教材	フェイシャル用タオル、コットン			
	使用設備・備品	フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む） 試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。 ※受験料、問題集は各自購入するものとする。学内での実技試験に合格後、外部にて筆記試験を実施。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 授業説明 ベットセッティング / 準備	エステティックの授業で学ぶことを理解し、今後の授業に必要な「準備」を習得する。	ポイントクレンジングの手順を予習しておく
第2回	ポイントメイク クレンジング コットン拭取り / 整肌	目元、口もとのメイクを落とす手順と目的を理解する。	ポイントクレンジングの手順を復習しておく
第3回	ポイントメイククレンジング・スキニアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	顔全体のクレンジング、化粧水の目的、手順を理解する。
第4回	ポイントメイククレンジング・スキニアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	顔全体のクレンジング、化粧水の目的、手順を理解する。
第5回	クレンジング ホットタオル拭取り マッサージ① / 整肌	クレンジングを確実にこなせるようになる。マッサージの手つき、手順を学ぶ。	ポイント、顔全体クレンジング、化粧水塗布の手順を復習しておく。
第6回	クレンジング ホットタオル拭取り マッサージ② / 整肌	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	ポイント、顔全体クレンジング、マッサージ、化粧水塗布の手順を復習しておく。
第7回	エステティック概論 皮膚科学 カルテ記入法	エステティックの概論と高齢者への対応、皮膚科学の基礎知識を学ぶ。	事前に配布した資料を予習する
第8回	クレンジング スキンチェック マッサージ③ / 整肌	マシンを使ったスキンチェックを行うことにより、肉眼では確認できないモデルの肌状態を知る。	ポイント、顔全体クレンジング、マッサージ、化粧水塗布の手順を復習しておく。
第9回	クレンジング スキンチェック マッサージ④ / 整肌	マシンを使ったスキンチェックを行うことにより、肉眼では確認できないモデルの肌状態を知る。	ポイント、顔全体クレンジング、マッサージ、化粧水塗布の手順を復習しておく。
第10回	クレンジング ウッドランプ / カルテ記入 マッサージ / パック / 整肌	肌状態を確認し、肌に合ったパックを選ぶ。	パックの（肌別対応）目的、効果、塗布の手順を復習しておく
第11回	クレンジング / ウッドランプ カルテ記入 / マッサージ パック / 整肌	肌状態を確認し、肌に合ったパックを選ぶ。	パックの（肌別対応）目的、効果、塗布の手順を復習しておく
第12回	クレンジング ディープクレンジング(酵素) マッサージ / パック / 整肌	エステティックのベーシックなメニューを通して行う。	ポイント、顔全体クレンジング、マッサージ、パック、化粧水塗布の手順を復習しておく。
第13回	クレンジング ディープクレンジング(酵素) マッサージ / パック / 整肌	エステティックのベーシックなメニューを通して行う。	ポイント、顔全体クレンジング、マッサージ、パック、化粧水塗布の手順を復習しておく。
第14回	技術のまとめ	フェイシャルエステの知識（目的・効果・手順）を正しく理解できているかを確認する。	フェイシャルエステの知識（目的、効果、手順）を理解し確認。
第15回	技術のまとめ	フェイシャルエステの知識（目的・効果・手順）を正しく理解できているかを確認する。	フェイシャルエステの知識、技術を正しく理解し実践出来るよう確認する

科目名 Subject	美齢学演習 Bireigaku Practice		教員名	大西 典子	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	人間の発展や加齢の研究と応用がなされている学際的な学問がジェロントロジーである。このジェロントロジーをさらに、人々が年齢や障害に関係なくおしゃれを通してより豊かな生活を送るための（支援の）概念や手段の一つである美容に特化した形が美容福祉である。この美容福祉をより、人間のライフサイクルの様々な局面（加齢、老化、障害・病気・死）に人が美しく生きることを提唱する言葉を美齢ケアとし、これらを含んだ概念を美齢学とした。この美齢学の基礎的な概念を構成する対象となる人を学ぶことで、美齢ケアを実践できる能力を養う。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会における美齢学を学ぶことの意義と目的を説明できる。</li> <li>2 美齢ケアの対象となる人間のライフサイクルにおける様々な課題（高齢者・障害者・がんサバイバー・認知症・終末期）と美容を関係づけることができる。</li> <li>3 様々なライフサイクルでの課題（高齢者・障害者・がんサバイバー・認知症・終末期）に応じた美齢ケアが実践できる。</li> </ol>				
時間外学習 （予習・復習）	毎回の授業内容に関わる教科書や関連する情報などを調べ、授業がより深く理解できるようにする。（60分）また、各回ごとの自己の知見をノートにまとめておく。（60分）				
教科書・教材	教科書	四訂美容福祉概論 学校法人山野学苑編集 2016			
	教材	ハッピーシャンプー、すいこ～ム			
	使用設備・備品	美容実習室、介護実習室他			
	参考文献	20 、 エンゼルケア・死化粧とグリーフケア			
評価方法	平常点（20%）、小テスト（20）、試験（60%）				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	介護実習室は、お客様の居宅と考慮して行動してください。内容によって教室が変更したり、持参するものがある場合、事前の授業の終了時にお知らせしますので確認してください。授業で認知症サポーター講習を受けます。				
本科履修と 関連する資格	資格名	福祉美容師、初任者研修修了者は美容福祉師2級			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 美齢学とは何かを学ぶ	美齢学を学ぶことの意義と目的が述べられる。	終了後に知見のノート整理 (60分)
第2回	対象の理解(1) 高齢者のこころとからだの変化を学ぶ	高齢者のこころとからだの特徴と美容のヘルスケア効果の関連が説明できる。	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第3回	対象の理解(2) 高齢者疑似体験を行い、美容室での配慮を学ぶ	高齢者のからだの変化に伴う配慮が実施できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第4回	対象の理解(3) 肢体不自由について学び、車いすの人の美容室での配慮を学ぶ	車いす利用者への配慮が実施できる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第5回	対象の理解(4) 認知症サポーター養成講座を受講する	認知症者の理解と認知症サポーターとしての役割が説明できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第6回	美容福祉現場の実際をビデオと同行訪問の報告から学ぶ	美容福祉現場の対象への配慮と流れをケアの原則に結び付けることができる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第7回	美齢ケア(1) 高齢者の皮膚の留意点を学び、スキンケアとメイクを相モデルで実施する	高齢者の個々の状況に合わせたスキンケアとメイクが実施できる。	事前の教科書の精読 (60分)
第8回	美齢ケア(2) ベッド上の人へのハッピーシャンプーを使ったシャンプーを実施する	ベッド上の人へのシャンプーが実施できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第9回	美齢ケア(3) ベッド上の人へのすいこ〜ムを使ったヘアカットを実施する	ベッド上の人へのヘアカットが実施できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第10回	美齢ケア(4) ベッド上の人への五感のリラクゼーション法とハンドケアを実施する	五感のリラクゼーション法とハンドケアが実施できる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第11回	美齢ケア(5) 高齢者・障がい者の装いの意義と展開を学ぶ	高齢者・障害者の装いと生活の活性を関係づけられる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第12回	美齢ケア(6) 車いす利用者に対する着物の着付けをロールプレイする	車いす利用者の着付けを行う上での配慮が工夫できる	事前の教科書の精読 (60分) 終了後の知見のノート整理 (60分)
第13回	美齢ケア(7) がんサバイバーとアピランスケアについて学ぶ	がんサバイバーの心理とアピランスケアの必要性が関係づけられる	がんに関連するニュースなどを調べておく (60分)
第14回	美齢ケア(8) 終末期に関わる美容の意義やグリーフケアとの関連を学ぶ	終末期の苦痛とグリーフケアに美容を関係づけられる	終了後の知見のノート整理 (60分)
第15回	まとめ	美しく生きることの意義が、説明できる	事前の学習内容の復習 (60分)

科目名 Subject	総合ブライダル学 General Study of Bridal Ceremony		教員名	佐藤 美奈子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	◎	◎	◎
科目の概要	日本の婚礼は伝統的、民族的背景を持ち、地方の風習や影響を受けながら形成されてきました。ここでは、多様化する現代のブライダルの状況をふまえ、基礎知識と時代のニーズに則したブライダルのスタイルを幅広く総合的に学びます。欧米やアジアとの婚礼の違い、人生の中で最も輝く日の演出、現代の流行を意識した花嫁姿など婚礼の成り立ちや美容との関連性を理解することで、健常者・高齢者を問わないブライダルの非日常的要素の高い場面を具体的にイメージできる力を養います。				
授業の目標	婚礼（ウエディング、ブライダル）への漠然としたイメージを業務内容や形式を通し細分化して学ぶことで、ウエディング、ブライダルをより明確に把握し、婚礼の意義や美容との関わりを理解することができる。また将来婚礼業務に関わることを想定し、接客のマナーやホスピタリティを自然に身に付け、適齢期から高齢化した婚礼においても美容の視点でお客様のための建設的な企画提案ができるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習・復習/テキストの黙読・SNS等の予備知識収集など合わせて15時間程度の予習復習補習/アシスタントブライダルコーディネーター検定のための事前勉強1回、検定1回				
教科書・教材	教科書	テキスト有			
	教材	テキストおよび、他プリントなど必要に応じて配布			
	使用設備・備品	筆記用具、ipad、総合ブライダル学専用のノートを用意すること			
	参考文献				
評価方法	筆記試験 60% レポート 30% 授業態度 10%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	課外「ブライダルビューティアカデミー」の受講者は本科目を必ず選択、履修してください。またABC検定を受験することが前提です。(試験料別途)				
本科履修と 関連する資格	資格名	①アシスタントブライダルコーディネーター(任意) ②ブライダルアーティスト(課外授業とリンク) ③パーソナルカラーアドバイザー(課外授業とリンク)			



授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション (日本の結婚式の歴史と婚禮ビジネスを学ぶ)	結婚式の歴史を確認。婚禮に関わる業務のチームワークを知る	
第2回	ウエディングのスタイル① 日本の婚礼形式とその装い	神前式の形式とその意味を知り、その装いを理解する	テキストを一読してくる
第3回	ウエディングのスタイル② 欧米の婚礼形式とその装い	キリスト教婚礼の形式を知り、その装いを理解する	テキストを一読してくる
第4回	ブライダルのトレンド	ブライダルのトレンドについて、ホテルブライダルの美容を軸に考える	雑誌などで自分の好きなトレンドを探して写メしてくる
第5回	パーソナルカラーベーシック 1 (色彩の基本)	色の組み合わせを学び、似合う色を理解できるようになる	
第6回	パーソナルカラーベーシック 2 (パーソナルカラーシステム)	お客様に似合う色を選べるようになる	自分の似合う色を意識したメイクや服装をした画像を撮る
第7回	ブライダルのキャリア	就職に向けたブライダル業界の最新情報を知る	ブライダル業界の会社を数社ピックアップしておく
第8回	フォーマルファッション ブライドとグルームの装い	ファッションを軸に、ウエディングドレスやメンズのコーディネイトを理解する	洋装、和装の新婦の画像をみつめてくる
第9回	アジアブライダルサミット	アジアの婚礼を通して、伝統文化と婚礼のつながりを考える	自国の婚礼とアジアの関連をレポートする
第10回	結納とプランニング	挙式のプランニングができるようになる	
第11回	レセプションの企画	コーディネイターになってレセプションを企画してみる	前回の授業を活かし、自分なりのウエディングスタイルをイメージしてく
第12回	ブライダルの専門用語	ブライダルに関わる知識を学び専門用語を理解する	接客用語で会話をしてみる
第13回	ABC 検定対策	ABC 検定受験にのりよりのための練習問題を通しブライダルに関する知識力をつける	配布されたプリント問題を解き、理解していない箇所は復習する
第14回	テキスト総まとめ	知識として理論的に全体を確認する	テキストを熟読してくる
第15回	まとめ	婚礼を知識として理解できたかどうかを総合的に確認する。	テキストだけでは無く、授業内で出たワードについても復習して臨むこと

科目名 Subject	基礎介護演習 Basic Care Work Practice		教員名	大西 典子 大野 淑子	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	4
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	130
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	<p>本学では、「美しく生きる」社会をめざす美容福祉の推進のために日本美容福祉学会の規定する美容福祉師の認定資格要件として、介護を学ぶことを進めてきました。平成 25 年から介護職員初任者研修の導入により美齢学の重要な学びの一端として継続しています。介護の知識や技能と態度の育成方法は単に高齢社会の理解につながるだけではなく、美容に携わる人々たちにとって重要な適用能力の育成にもつながります。</p>				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会における介護の目的が述べられる。</li> <li>2 介護福祉サービスと多職種連携の形が述べられる。</li> <li>3 介護におけるコミュニケーションが実践できる。</li> <li>4 介護の必要な対象が説明できる。</li> <li>5 生活支援技術が実践できる。</li> </ol>				
時間外学習 (予習・復習)	<p>毎回の授業内容に関わる教科書や関連する情報などを調べ、授業がより深く理解できるようにする。(60分) また、各回ごとの自己の知見をノートにまとめておく。(60分) また、演習については繰り返し終了後に練習する(60分) ことで習得できる。</p>				
教科書・教材	教科書	介護職員初任者研修テキスト全 2 巻 中央法規			
	教材				
	使用設備・備品	介護実習室など			
	参考文献				
評価方法	実技試験・修了試験				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	介護実習室の使用上の注意を介護実習開始前に行います。なお全行程は 130 時間を要します				
本科目履修と 関連する資格	資格名	介護職員初任者研修修了			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 介護の職務の理解1(1) 多様なサービスの理解	介護の職務が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第2回	介護の職務の理解1(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	介護の職務が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第3回	介護における尊厳の保持2 (1)人権と尊厳を支える介護	人権と尊厳が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第4回	介護における尊厳の保持2 (2)自立に向けた介護	自立に向けた介護が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第5回	介護の基本3(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	介護職の専門性が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第6回	介護の基本3(2) 介護職の職業倫理	介護職の職業倫理が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第7回	介護の基本3(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護のリスクマネジメントが説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第8回	介護の基本3(4) 介護職の安全	感染予防について述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第9回	介護福祉サービスの理解と医療との連携4(1) 介護保険制度	介護保険制度について述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第10回	介護福祉サービスの理解と医療との連携4(2) 医療との連携とリハビリテーション	リハビリテーションが説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第11回	介護福祉サービスの理解と医療との連携4(3) 障害者自立支援制度及びその他の制度	障害者自立支援制度が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第12回	介護におけるコミュニケーション技術5(1) 介護におけるコミュニケーション	介護におけるコミュニケーション意義が述べられる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のレポート(60分)
第13回	介護におけるコミュニケーション技術5(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	介護記録の意味が説明できる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のレポート(60分)
第14回	老化の理解6(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	老年期の心身の変化の特徴が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第15回	老化の理解6(2) 高齢者と健康	高齢者に多い病気や症状が説明できる	事前の教科書の精読(60分)

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	認知症の理解7(1) 認知症をとりまく環境	認知症ケアの概念が理解できる	事前の教科書の精読(60分)
第17回	認知症の理解7(2) 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	認知症の概念が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第18回	認知症の理解7(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	認知症の人の生活障害が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第19回	認知症の理解7(4) 家族への支援	認知症の家族への支援が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第20回	障害の理解8(1) 障害の基礎的理解	障害の概念が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第21回	障害の理解8(2) 障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識	身体障害・知的障害・精神障害・発達障害・難病について述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第22回	障害の理解8(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	家族心理が説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第23回	介護に関する基礎的理解9 (1) 介護の基本的な考え方	介護の理論が述べられる	終了後の知見のノート整理(60分)
第24回	介護に関する基礎的理解9 (2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	記憶・自己概念・生きがいについて説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第25回	介護に関する基礎的理解9 (3) 介護に関するからだのしくみの基礎知識	人体各部の名称・ボディメカニクスが説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第26回	生活と家事1 (1) 生活と家事の理解	生活行動と家事の関連について説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第27回	生活と家事1 (2) 家事援助に関する基礎的知識	家事援助の意義が説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第28回	生活と家事1 (3) 家事援助に関する生活支援	生活支援が実践できる	終了後練習する(60分)
第29回	快適な居住環境と介護2 (1) 快適な居住環境に関する基礎知識	快適な居住環境の意義が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第30回	快適な居住環境と介護2 (2) 高齢者・障害者特有の居住環境整備	高齢者・障害者特有の居住環境に整備できる	終了後練習する(60分)

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	快適な居住環境と介護2 (3) 高齢者・障害者特有の福祉用具の活用	福祉用具の活用ができる	終了後練習する(60分)
第32回	整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護3(1) 整容に関する基礎知識	整容に関する意義が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第33回	整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護3(2) 整容の支援	整容の技術が実践できる	終了後練習する(60分)
第34回	整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護3(3) 社会参加①	社会参加が計画できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第35回	整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護3(4) 社会参加②	社会参加の言葉かけができる	終了後の知見のノート整理(60分)
第36回	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護4(1) 移動・移乗に関する基礎知識	移動・移乗の意義が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第37回	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護4(2) 移動・移乗に関する福祉用具	移動・移乗に関する福祉用具が活用できる	終了後練習する(60分)
第38回	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護4(3) 移動支援方法	移動が支援できる	終了後練習する(60分)
第39回	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護4(4) 移乗支援方法	移乗が支援できる	終了後練習する(60分)
第40回	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護4(5) 社会参加①	社会参加が計画できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第41回	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護4(6) 社会参加②	社会参加の言葉かけができる	終了後の知見のノート整理(60分)
第42回	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護5(1) 基礎知識	口から食べることの意義が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第43回	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護5(2) 食事環境整備	食事環境が整備できる	終了後練習する(60分)
第44回	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護5(3) 食事の支援方法	食事の支援が実施できる	終了後練習する(60分)
第45回	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護5(4) 社会参加①	社会参加に結び付けて計画できる	終了後の知見のノート整理(60分)

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第46回	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護5(5)社会参加②	社会参加に結び付けた言葉かけができる	終了後の知見のノート整理(60分)
第47回	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護6(1)基礎知識	入浴・清潔保持の意義が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第48回	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護6(2)用具の活用方法	入浴・清潔保持に関連する用具が活用できる	終了後練習する(60分)
第49回	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護6(3)支援方法	入浴・清潔保持に関わる支援が実施できる	終了後練習する(60分)
第50回	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護6(4)社会参加①	社会参加に向けて計画できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第51回	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護6(5)社会参加②	社会参加に結び付けた言葉かけができる	終了後の知見のノート整理(60分)
第52回	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護7(1)基礎知識	排泄とプライバシー保持の関連が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第53回	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護7(2)環境整備	排泄環境が整備できる	終了後の練習(60分)
第54回	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護7(3)用具の活用	排泄に関連する用具が活用できる	終了後の練習(60分)
第55回	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護7(4)支援方法	排泄の支援が実施できる	終了後の練習(60分)
第56回	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護7(5)社会参加	排泄と社会参加が関連させられる	終了後の知見のノート整理(60分)
第57回	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護8(1)基礎知識	睡眠と睡眠環境の整備の意義が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第58回	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護8(2)支援方法	睡眠環境が整備できる	終了後の知見のノート整理(60分)
第59回	死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護9(1)終末期の基礎知識	終末期の過程が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第60回	死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護9(1)終末期の支援	外見のケアが実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)

